

船ヶ谷遺跡

—2次調査—

1999

松山市教育委員会
財団法人松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

ふな が たに
船ヶ谷遺跡

—2次調査—



1999

松山市教育委員会
財団法人松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター



卷頭図版1 調査地（南より）



卷頭圖版 2 SR 1 出土遺物

序

船ヶ谷遺跡が位置する松山平野の北西部には、縄文時代から古墳時代までの遺跡が数多く分布しています。松山市では、その一角に新しく学校給食共同調理場を建設することになりました。本書は、これに伴う事前発掘調査の成果をまとめたものです。

調査地の北方には縄文時代の大測遺跡・船ヶ谷遺跡、弥生時代の三光遺跡が位置し、西方の丘陵上には前方後円墳の船ヶ谷向山古墳、円墳の船ヶ谷三ツ石古墳がある。特に、船ヶ谷向山古墳からは、円筒埴輪列を含む多数の形象埴輪が出土しています。本調査地は、この古墳の裾野にあり遺跡が豊富にみられるなかになります。

発掘調査では、古墳時代前期の流路を検出し、その中からは多数の土師器が出土しました。これによって、調査地周辺には古墳時代集落の存在が明らかになり、貴重な成果を得ることができました。

このような成果をあげることができましたのも、関係各位の方々の埋蔵文化財に対する深いご理解とご協力のたまものであり、心から感謝申し上げる次第です。

なお、本書が今後各方面にわたってご活用いただければ幸いに存じます。

平成11年3月31日

財團法人 松山市生涯学習振興財團

理事長 田 中 誠 一

例　言

1. 本書は、松山市埋蔵文化財センターが平成9年8月～平成10年1月に、松山市西長戸636番1号で実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 造構は、呼称を略号で記述した。溝：SD、土坑：SK、柱穴：SP、自然流路：SR、性格不明造構：SXである。
3. 遺物の実測・製図、造構の作図・製図は、高尾和長の指示のもと田嶋真理、中村紫、宮内真弓が行った。
4. 写真図版は高尾と大西朋子が協議し、作成は大西朋子が行った。
5. 造構図と遺物図の縮尺は、縮分値をスケールドに記した。
6. 本書に使用した方位はすべて真北である。
7. 本書にかかわる遺物や記録物は、松山市立埋蔵文化財センターで保管している。
8. 本書の執筆と編集は高尾和長が行った。作成に際しては梅木廉一の協力を得た。序書は中村紫が行った。
9. 製版 カラー図版—175線、白黒図版—133線
印刷 オフセット印刷
用紙 カラー図版—ニューVマット菊 <93> 5 使用
白黒図版—ニューVマット菊 <93> 5 使用

本文目次

第I章 はじめに	
1. 調査の経過	1
(1) 調査に至る経緯	
(2) 調査・刊行組織	
2. 立地と環境	2
3. 調査の経緯	
第II章 遺構と遺物	7
1. 屈位	
2. 古墳時代	
(1) 自然流路	
(2) 溝	30
(3) 土坑	39
(4) 性格不明遺構	42
3. 古代	53
(1) 溝	
4. その他の出土遺物	56
第III章 自然科学分析	81
1. 船ヶ谷遺跡2次調査出土木材の樹種同定	(古環境研究所)
第IV章 調査の成果と課題	84

挿 図 目 次

第1図	周辺遺跡分布図（縮尺 1/50,000）	3
第2図	調査地位置図（縮尺 1/2,500）	4
第3図	遺構配置図（縮尺 1/80、1/250）	5
第4図	SR 1 第1地点出土遺物測量図及び実測図（縮尺 1/3、1/20）	8
第5図	SR 1 第2地点出土遺物測量図及び実測図（縮尺 1/3、1/20）	10
第6図	SR 1 第3地点出土遺物測量図及び実測図（縮尺 1/3、1/20）	11
第7図	SR 1 第4地点出土遺物測量図及び実測図（縮尺 1/3、1/20）	12
第8図	SR 1 第5・6地点出土遺物測量図及び実測図（縮尺 1/3、1/20）	13
第9図	SR 1 第7・8・9地点出土遺物測量図及び実測図（縮尺 1/3、1/20）	14
第10図	SR 1 第10地点出土遺物実測図(1)（縮尺 1/3）	15
第11図	SR 1 第10地点出土遺物実測図(2)（縮尺 1/3、1/4）	16
第12図	SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(1)（縮尺 1/3）	18
第13図	SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(2)（縮尺 1/3）	19
第14図	SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(3)（縮尺 1/3）	20
第15図	SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(4)（縮尺 1/3）	22
第16図	SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(5)（縮尺 1/3）	23
第17図	SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(6)（縮尺 1/3）	24
第18図	SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(7)（縮尺 1/3）	25
第19図	SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(8)（縮尺 1/4）	26
第20図	SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(9)（縮尺 1/4）	27
第21図	SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(10)（縮尺 1/4）	28
第22図	SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(11)（縮尺 1/4）	29
第23図	SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(12)（縮尺 1/3）	30
第24図	SD 5 測量図（縮尺 1/20）	31
第25図	SD 6 測量図（縮尺 1/20、1/40）	32
第26図	SD 6 出土遺物実測図（縮尺 1/3）	33
第27図	SD 7 測量図及び出土遺物実測図（縮尺 1/3、1/20、1/40）	34
第28図	SD 8 測量図（縮尺 1/20、1/40）	35
第29図	SD 9 測量図及び出土遺物実測図（縮尺 1/3、1/20、1/40）	36
第30図	SD 10 測量図（縮尺 1/20、1/40）	37
第31図	SD 11 測量図（縮尺 1/20、1/40）	38
第32図	SK 6 測量図（縮尺 1/40）	39
第33図	SK 6 出土遺物実測図（縮尺 1/3）	40
第34図	SK 7 測量図及び出土遺物実測図（縮尺 1/3、1/20）	41
第35図	SK 14 測量図及び出土遺物実測図（縮尺 1/3、1/40）	43
第36図	SK 1・2 測量図及び出土遺物実測図（縮尺 1/4、1/40）	44
第37図	SX 1・2 測量図（縮尺 1/40）	45

第38図	SX 3測量図(縮尺1/40)	46
第39図	SX 4・5測量図及び出土遺物実測図(縮尺1/4、1/40)	47
第40図	SX 6・7・8測量図(縮尺1/40)	48
第41図	SX 9・10・11測量図及び出土遺物実測図(縮尺1/4、1/40)	49
第42図	SX 12測量図及び出土遺物実測図(縮尺1/3、1/40)	50
第43図	SX 13・14測量図(縮尺1/40)	51
第44図	SX 15測量図及び出土遺物実測図(縮尺1/3、1/40)	52
第45図	SX 16・17測量図及び出土遺物実測図(縮尺1/3、1/40)	53
第46図	SD 1測量図及び出土遺物実測図(縮尺1/3、1/20、1/40)	54
第47図	SD 2測量図及び出土遺物実測図(縮尺1/3、1/20、1/80)	55
第48図	SD 3測量図及び出土遺物実測図(縮尺1/3、1/20、1/100)	57
第49図	SD 4測量図及び出土遺物実測図(縮尺1/3、1/20、1/40)	58
第50図	SD 12測量図及び出土遺物実測図(縮尺1/3、1/20)	59
第51図	その他出土遺物実測図(1)(縮尺1/3)	60
第52図	その他出土遺物実測図(2)(縮尺1/4)	61
第53図	その他出土遺物実測図(3)(縮尺1/1、1/3)	62
第54図	船ヶ谷遺跡2次調査出土木材の顕微鏡写真	83

表 目 次

表1	自然流路一覧	62
表2	溝一覧	
表3	土坑一覧	63
表4	性格不明遺構一覧	
表5	SR 1出土遺物観察表 土製品	64
表6	SR 1出土遺物観察表 石製品	74
表7	SD 6出土遺物観察表 土製品	
表8	SD 7出土遺物観察表 土製品	75
表9	SD 9出土遺物観察表 土製品	
表10	SK 6出土遺物観察表 土製品	
表11	SK 7出土遺物観察表 土製品	76
表12	SK 14出土遺物観察表 土製品	
表13	SK 2出土遺物観察表 土製品	
表14	SX 5出土遺物観察表 土製品	
表15	SX 9出土遺物観察表 土製品	
表16	SX 12出土遺物観察表 土製品	77
表17	SX 15出土遺物観察表 土製品	
表18	SX 17出土遺物観察表 土製品	
表19	SD 1出土遺物観察表 土製品	
表20	SD 2出土遺物観察表 土製品	

表21 SD 3 出土遺物観察表	土製品	78
表22 SD 4 出土遺物観察表	土製品	
表23 SD 4 出土遺物観察表	石製品	
表24 SD 12出土遺物観察表	土製品	
表25 その他出土遺物観察表	土製品	
表26 その他出土遺物観察表	石製品	80
表27 その他出土遺物観察表	装身具	
表28 船ヶ谷遺跡 2次調査から出土した木材の樹種同定結果		81

図 版 目 次

卷頭図版 1 調査地（南より）

卷頭図版 2 SR 1 出土遺物

図版 1 1. 調査前（西より）

2. 東区遺構遺存状況（東より）

図版 2 1. 東区遺構遺存状況（南西より）

2. 東区遺構検出状況（南西より）

図版 3 1. 西区遺構遺存状況（南より）

2. 西区遺構検出状況（南西より）

図版 4 1. SR 1 遺物出土状況①第2地点（東より）

2. SR 1 遺物出土状況②第1地点（東より）

3. SR 1 遺物出土状況③第3地点（東より）

図版 5 1. SR 1 遺物出土状況④（北東より）

2. SR 1 遺物出土状況⑤（南より）

3. SR 1 遺物出土状況⑥（東より）

図版 6 1. SD 1・6・11完掘状況（西より）

2. SD 3 完掘状況（西より）

図版 7 1. SK 6 遺物出土状況（北より）

2. SK 7 遺物出土状況（北より）

3. SK 14 遺物出土状況（西より）

図版 8 1. SR 1 出土遺物①

図版 9 1. SR 1 出土遺物②

図版 10 1. SR 1 出土遺物③

図版 11 1. SR 1 出土遺物④

図版 12 1. SR 1 出土遺物⑤

図版 13 1. SR 1 出土遺物⑥

図版 14 1. SR 1 出土遺物⑦

図版 15 1. SK 6 出土遺物①

図版 16 1. SK 6 出土遺物② (225)・SK 7 出土遺物 (227)・SK 14 出土遺物 (228~231)

第Ⅰ章 はじめに

1. 調査の経緯

(1) 調査に至る経緯

1996（平成8）年、松山市学校保健課から学校給食共同調理場建設にあたって、埋蔵文化財の確認願いが松山市教育委員会文化教育課（以下、文化教育課）に提出された。

当該地は、松山市が指定する埋蔵文化財包蔵地の「N0.17 東山町古墳群」内にあり、周知の遺跡として知られている。同包蔵地内では、これまでに3回の調査が行われ、平地では1974（昭和49）年の船ヶ谷遺跡の調査で縄文時代晚期の遺物が多数出土し、丘陵部では1987（昭和62）年の船ヶ谷向山古墳の調査で後円部径26mを測る前方後円墳を検出している。

文化教育課は事前の試掘調査を行い古墳時代～古代の遺物と遺構を検出した。調査結果をうけ文化教育課、財松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター（以下、埋蔵文化財センター）ならびに松山市学校保健課の3者は遺跡の取扱いについて協議を行い、開発によって失われる遺跡について、記録保存のため発掘調査を実施することになった。発掘調査は古墳時代～古代の集落の広がりの解明を目的とし、埋蔵文化財センターが主体となり、平成9年8月に開始した。

(2) 調査・刊行組織（平成11年3月31日現在）

調査地 松山市西長J-638番1号外6筆

対象面積 4,543.16m²

調査期間 平成9年8月1日～平成10年1月30日

松 山 市 教 育 委 員 会	教 育 長	池田 尚郷
事 务 局	局 長	大野 嘉幸
	次 長	岩本 一夫
	次 長	丹下 正勝
文 化 教 育 課	課 長	松平 泰定
財松山市生涯学習振興財團	理 事 長	田中 誠一
	事 務 局 長	池田 秀雄
	事 務 局 次 長	河口 雄三
埋 蔵 文 化 財 センター	所 長	河口 雄三
	次 長	田所 延行
	調 査 係 長	田城 武志
	主 任	栗田 正芳（文化教育課）
	担 当	高尾 和長
		大森 一成（平成10年退職）
		大西 朋子

2. 立地と環境

松山平野は愛媛県のほぼ中央に位置し、西は伊予灘・斎灘に面し、南東部は石鎚山系、北部を高鍋山塊に狭まれた平野である。この高鍋山塊に源を発した河川によって形成された沖積平野が松山平野である。船ヶ谷遺跡は、松山平野北部の沖積低地に立地する。

縄文時代

調査地北方300mの船ヶ谷遺跡（坂本1984）では、縄文晚期刻目凸帯文に先行する時期の河川や堅穴式住居址と共に、多数の土器、石器、木器類が出土している。また、北方1500mには大瀬遺跡（栗田1986）があり、縄文後期中葉から晩期までの土器、石器、木器が多数出土している。このうち土器にはなすび形の紋様をつけた壺形土器や、靱压痕を有する鉢形土器が出土し、初期農耕遺跡として注目される。

弥生時代

調査地北方1200mの三光遺跡では、弥生時代前期から後期までの土器が出土している。

古墳時代

古墳時代の集落はこの地域ではありません知られていないが、墳墓は丘陵上に数多く分布している。

調査地西100mには船ヶ谷向山古墳、南西200mには船ヶ谷三ツ石古墳がある。船ヶ谷向山古墳は、前方後円墳で後円部径26mを測る。墳丘からは円筒埴輪列を検出し、周溝からは円筒埴輪、形象埴輪が多数出土している。船ヶ谷三ツ石古墳は2基の円墳の周溝部を検出し、周溝内からは須恵器が出土した。船ヶ谷向山古墳と船ヶ谷三ツ石古墳の時期は、5世紀末から6世紀初頭までの古墳と考えられている。

3. 調査の経緯

調査地は東西に長いため、東と西に分けて調査区を設定した。調査は東側から開始する。まず、トレンチ調査の結果から、地表下1.2mまでを重機によって掘削した。調査区内には水が湧くため、周囲に排水用の溝を掘る。次に、遺構検出作業を行い、流路と土坑を検出した。流路は東側の輪郭を検出しただけで、流路西岸は西の調査区内にあるものと判断した。流路の調査は時間的な関係からトレンチ調査とした。遺構測量後、完掘状況の写真撮影を行い、東側の調査を終了する。続いて西側の調査を行った。重機によって周囲に水抜き用のトレンチを掘削し、その後に全面の掘削を行った。遺構検出作業の結果、流路の西側の輪郭と土坑、溝を検出した。遺構は時期の新しいものから掘り下げかつ測量を行い、完掘状況の写真撮影及び航空写真撮影を行い、野外調査を終了する。なお調査区内は4mグリッドを設定し、この作業に際しては国土座標にそって杭打ちをした。

【文献】

- 坂本安光 1984 「船ヶ谷遺跡」愛媛県教育委員会
- 栗田茂敏 1989 「大瀬遺跡」「松山市埋蔵文化財調査年報II」松山市教育委員会
- 池田洋一・宮崎泰好 1989 「船ヶ谷向山古墳」「松山市文化財調査年報II」松山市教育委員会
- 武正良浩 1991 「大瀬遺跡2次調査地」「松山市文化財年報III」松山市教育委員会、(財)松山市埋蔵文化財センター
- 藤原敏秀 1993 「船ヶ谷三ツ石古墳」「和気・瀬戸の遺跡」松山市教育委員会、(財)松山市埋蔵文化財センター

立地と環境



第1図 周辺遺跡分布図

(S=1:50,000)

- | | | | | | | |
|-------------|-------|--------|----------|-----------|---------|----------|
| ①船ヶ谷遺跡2次調査地 | ②大瀬遺跡 | ③船ヶ谷遺跡 | ④船ヶ谷向山古墳 | ⑤船ヶ谷三ツ石古墳 | ⑥金毘羅山遺跡 | ⑦連華寺舟形石碑 |
| ⑧宮ノ谷遺跡 | ⑨文京遺跡 | | | | | |

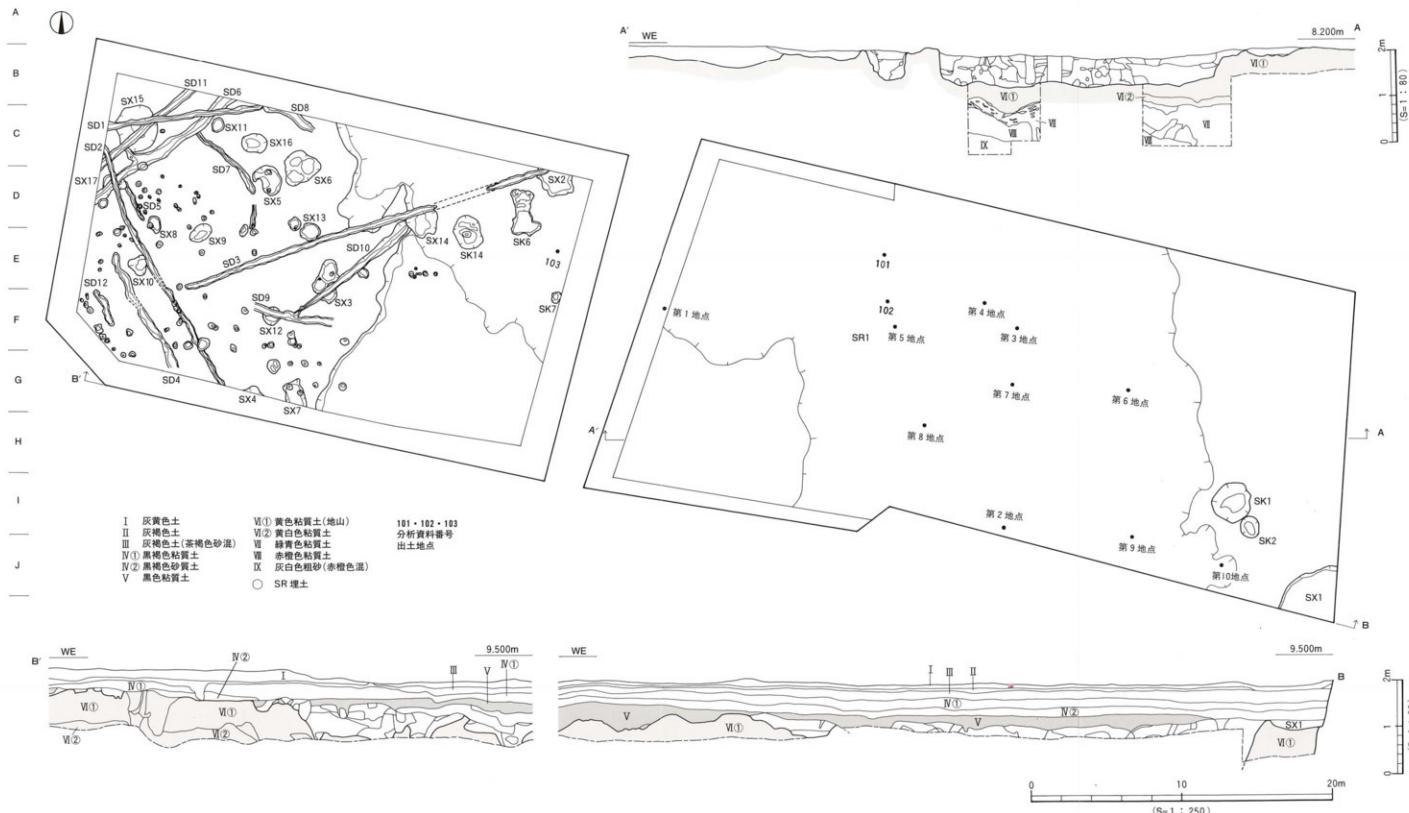
遺跡の概要



第2図 調査位置図

(S=1:2,500)

22 | 21 | 20 | 19 | 18 | 17 | 16 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1



第3図 造構配置図

第II章 遺構と遺物

1. 層位 (第3図)

土層は9層を検出した。第I層灰黄色土、第II層灰褐色土、第III層灰褐色土(茶褐色砂混)、第IV①層黒褐色粘質土、第IV②層黒褐色砂質土、第V層黒色粘質土、第VI①層黃色粘質土(地山)、第VI②層黄白色粘質土、第VII層綠青色粘質土、第VIII層赤橙色粘土、第IX層灰白色粗砂(赤橙色混)である。第VI層以下は深掘トレンチ調査での検出である。遺構は第VI層上面で検出した。

第I層 耕作土である(厚さ5~10cm)。

第II層 水田耕作に伴う床土である(厚さ3~8cm)。

第III層 第I層以前の耕作土である(厚さ20~25cm)。

第IV層 黒褐色粘質土と黒褐色砂質土の2層に分層する(厚さ30~40cm)。

第V層 黒色粘質土で、SR1の埋土になる(厚さ20~50cm)。

第VI層 地山と呼ばれるものであり黄色粘質土と黄白色粘質土の2層に分層する(厚さ20~80cm)。

第VII層 緑青色粘質土である(厚さ50cm)。

第VIII層 赤橙色粘質土である(厚さ10cm)。

第IX層 灰白色粗砂(赤橙色混)(厚さ40cm)。

遺構は第VI層にて古墳時代から古代の自然流路1条、溝11条、土坑5基、柱穴85基、性格不明遺構17基を検出した。

2. 古墳時代

古墳時代の遺構は、自然流路1条、溝6条、土坑5基、性格不明遺構17基である。

(1) 自然流路(SR)

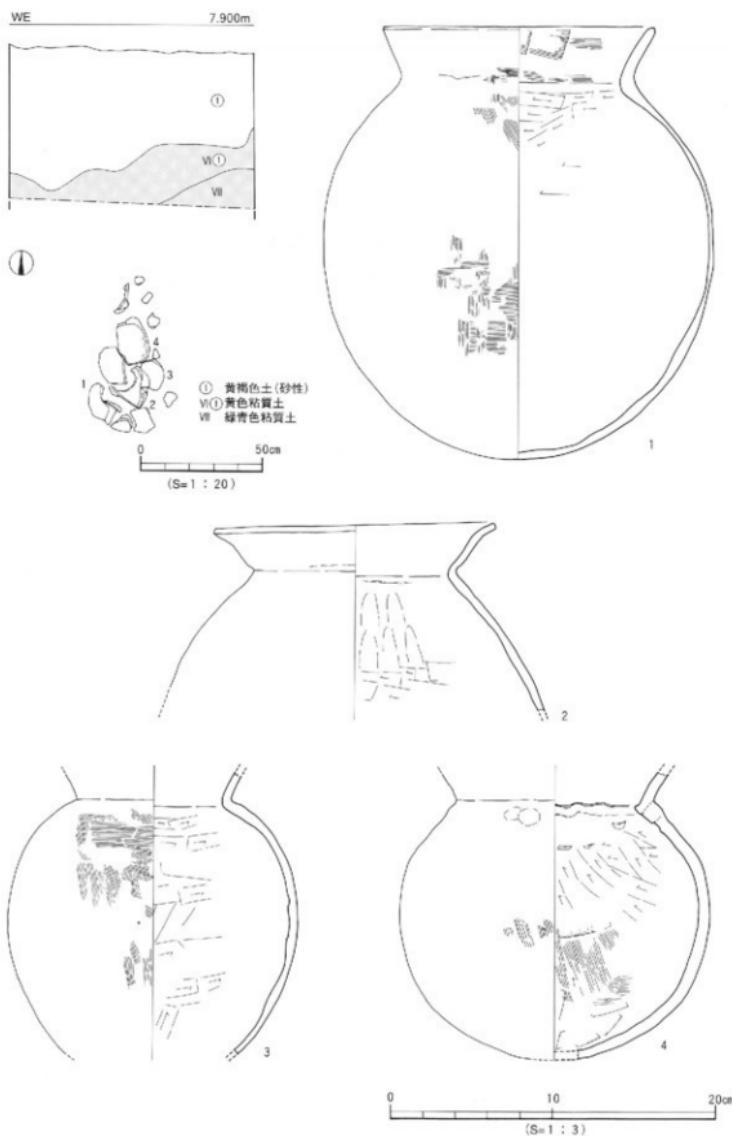
SR1(第3図)

調査区の中央部に全体の60%をしめる。SD3、SK6・14、SX14に切られる。西側に段をもち、南西から北西に湾曲している。規模は検出長24m、幅55m、深さ100cmを測る。底面は凹凸が著しい。

SR1の調査は、時間的な関係からトレンチ調査となった。トレンチはグリッド杭に沿って東西方向と南北方向とに6本を設定した。東西方向のトレンチは、EF区の間とGH区の間に2本、南北方向のトレンチは、4・5区の間、6・7区の間、8・9区の間、11・12区の間に4本を設定した。トレンチは幅1mで掘削し、土器が集中した地点では拡張を行った。遺物は測量と写真撮影を行い、取り上げた。埋土は、8つの土壤がブロック状に混合した状況で検出された。埋土の上層には基本層位の第V層があり、調査地南壁とSR内で部分的に検出した。第VI層(地山)はほとんどの地区で検出したが、南東部では深掘りを行っても第VI層は検出されなかった。よって、南東部は深く落ち込むものと考えられる。出土遺物には、土師器、須恵器、弥生土器、石器、木材があり、特に木材の出土が多い。土器は完形品や大型片が多く、磨滅もみられない。器種は壺形土器と壺形土器とが多くを占める。

以下、遺物が集中出土した10地点について、地点ごとに出土状況を記述する。土層の測量図は、遺物が出土したトレンチの土層に限って掲載している。

遺構と遺物



第4図 SR 1 第1地点出土遺物測量図及び実測図

第1地点（第4図、図版4・8）

SR 1中央西部のF12・13区、東西トレンチ内にある。検出土層は上部から黄褐色土（砂性）、黄色粘質土、緑青色粘質土となり、遺物は黄褐色土（砂性）から出土している。遺物は40×70cmの範囲で4個体が出土し、壺形土器1～3の3個体は重なり合い、壺形土器4は他の3個とは離れた位置で出土した。

出土遺物（1～4）

1～4は壺形土器。1は球形の体部に外傾する口縁部をもち、口縁端部は尖り気味に丸く仕上げる。2は肩の張らない胸部に、外傾し外反する口縁部をもつ。口縁端部は「コ」の字状で丸味をもつ。3は肩の張らない丸味のある胸部に、外傾する口縁部をもつ。内面にはケズリ痕が顕著である。4は球形の胸部に、外傾する口縁部をもつ。内面にケズリ痕が顕著に残る。

第2地点（第5図、図版4・8）

SR 1南部のI7区、南北トレンチ内にある。トレンチ壁面で完形品と思われる土器を検出したため、西側に1.5×1.5mの範囲で拡張を行った。検出土層は上部から暗灰褐色土、茶褐色土、黄白色粘質土であり、遺物は茶褐色土から出土した。遺物は70×120cmの範囲で、掲載した土器3個体の土器と大型の胸部片が同じ高さで出土した。また、各々の出土状況は、壺形土器5は完形品で口縁部が上に向いて出土し、壺形土器6は口縁部が下に向いて出土した。壺形土器7は大型品で、底部から胸部までの破片は底部を下にした状態で出土し、口縁部片は胸部片内とその周辺から出土した。5・7は、出土状況から2つの土器を意図的に据え置いた可能性をもつ。

出土遺物（5～7）

5・6は壺形土器で、5は胸部が最大径になり、胸部はわずかに長球形化する。口縁部は頸部で「く」の字状に折れ曲がり外傾する。口縁端部は丸味をもつ。6はやや肩の張る胸部と外傾する口縁部をもつ。口縁端部はナデにより内側に肥厚され、端面はくぼむ。7は壺形土器で、大型品になる。球形の体部には直立する短い頸部がつき、口縁部は外反後、内湾して上方に伸びる。口縁端部は尖り気味である。

第3地点（第6図、図版4・8）

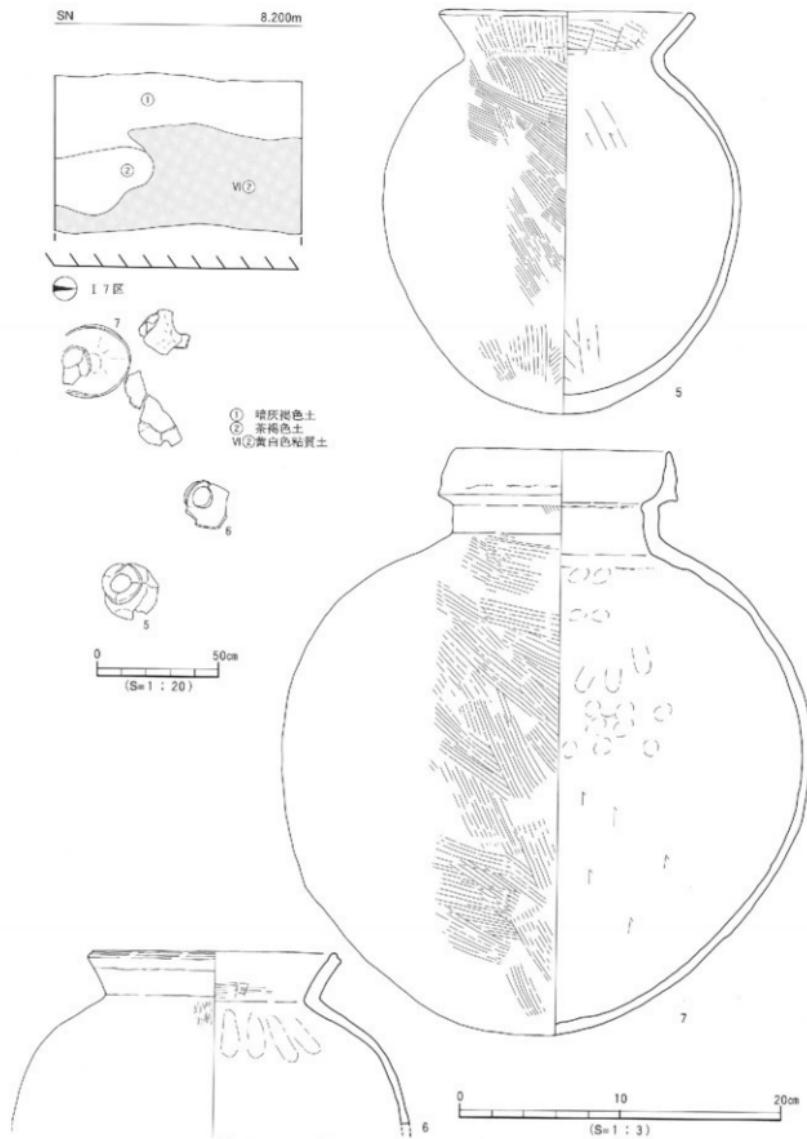
SR 1中央東部のF7区、南北トレンチ内にある。検出土層は上部から暗灰褐色土、黒色土（粘性）、黄褐色土（砂性）、黄白色粘土と暗灰色粘土との混合土であり、遺物は黒色土（粘性）から出土した。遺物は壺形土器の完形品1点と60cm離れた位置から別個体の大型胸部片が出土した。壺形土器8は完形品が転倒し、土圧により胸部が押し潰された状況であった。

出土遺物（8）

8は壺形土器の完形品である。球形の胸部に、外傾する長い口縁部をもつ。口縁端面はほぼ水平で丸い。胸部内面には、粘土接合痕が顕著に見られる。

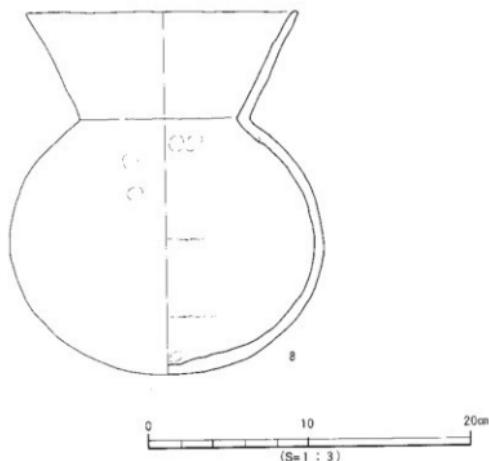
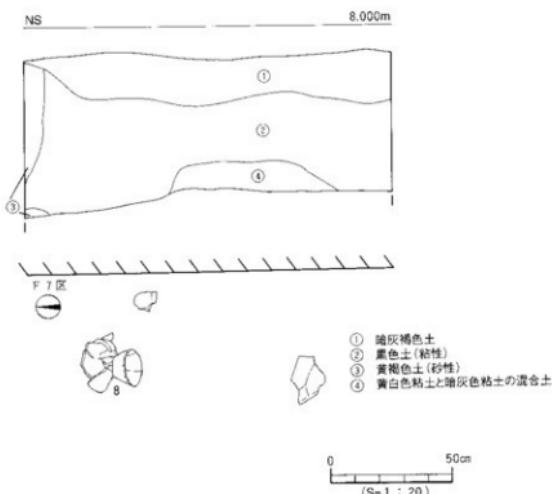
第4地点（第7図、図版9）

SR 1中央東部のF7区、東西トレンチ内にある。検出土層は上部から黄褐色土（砂性）、緑灰色土（砂性）となり、遺物は緑灰色土（砂性）から出土した。遺物は50×50cmの範囲で検出し、出土状況



第5図 SR 1 第2地点出土遺物測量図及び実測図

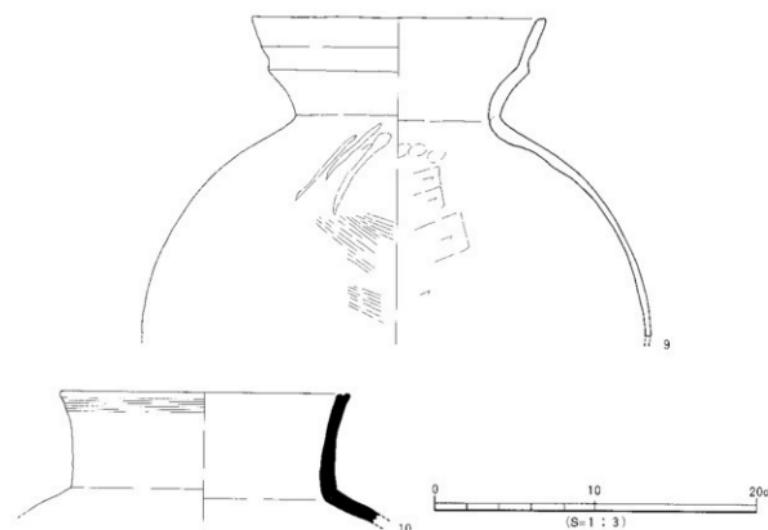
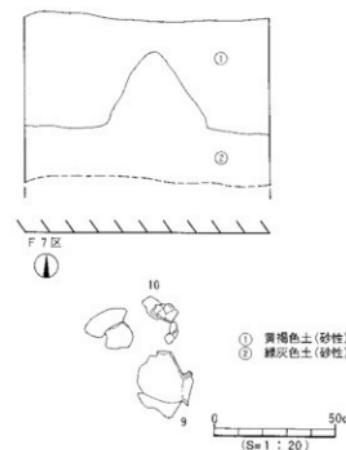
古 墳 時 代



第 6 図 SR 1 第 3 地点出土遺物測量図及び実測図

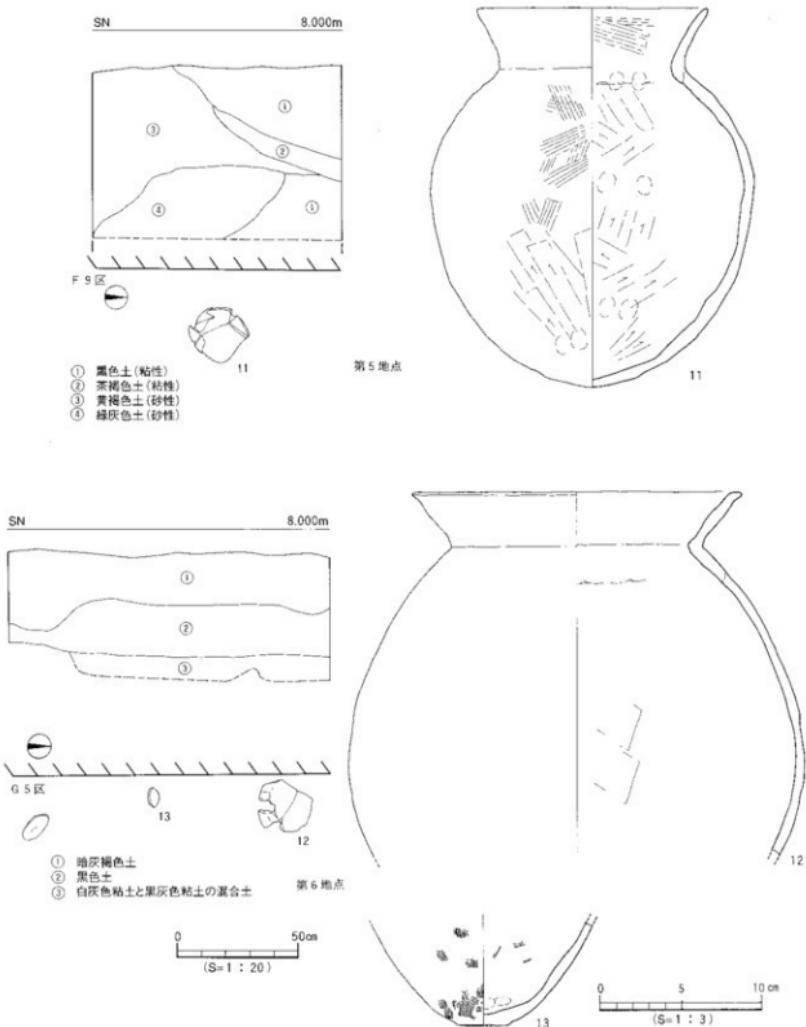
遺構と遺物

WE 8.100m



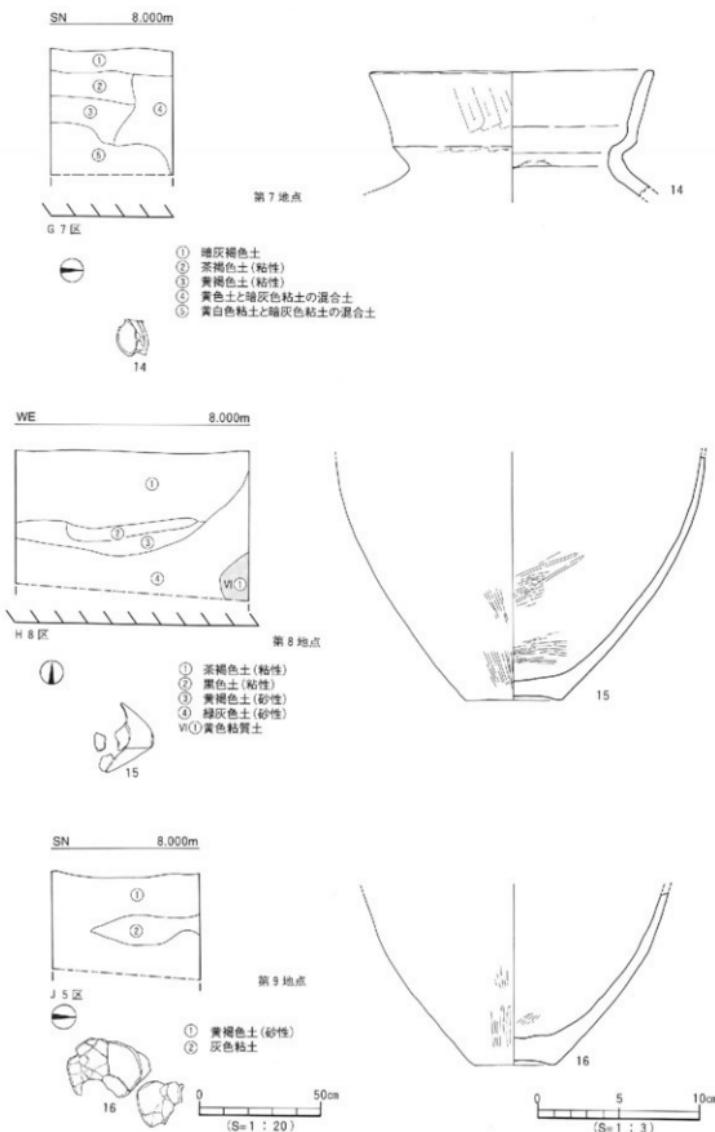
第7図 SR 1 第4地点出土遺物測量図及び実測図

古 墳 時 代

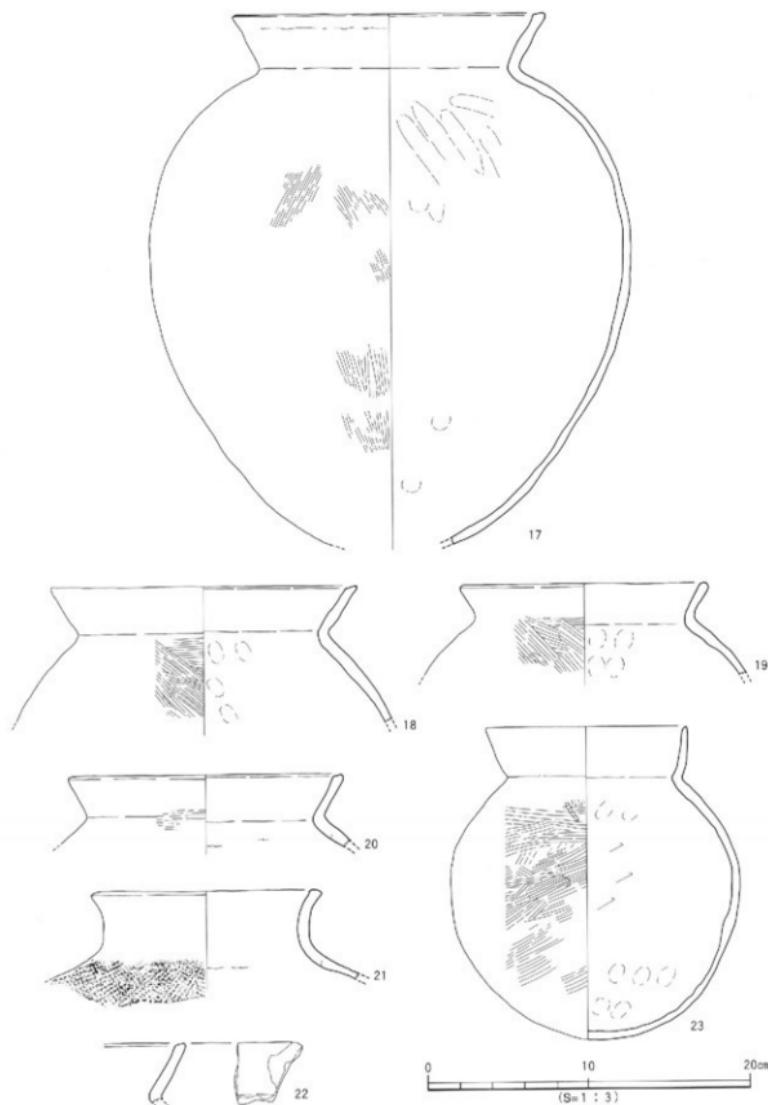


第8図 SR 1 第5・6地点出土遺物測量図及び実測図

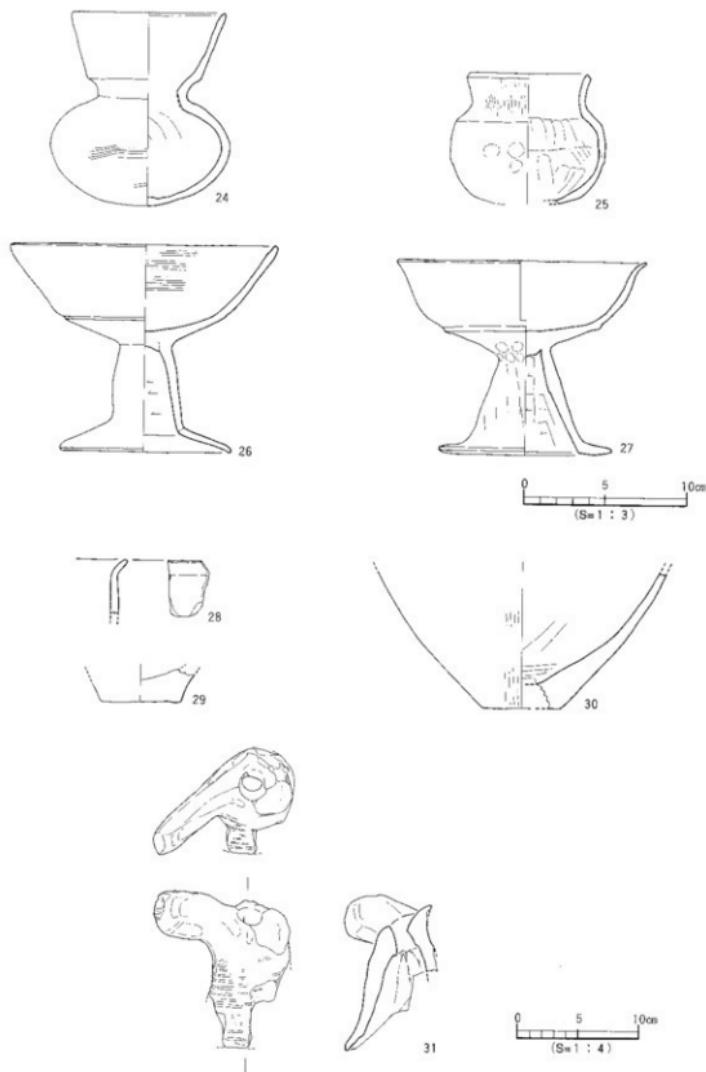
遺構と遺物



第9図 SR 1 第7・8・9地点出土遺物測量図及び実測図



第10図 SR 1 第10地点出土遺物実測図(1)



第11図 SR 1 第10地点出土遺物実測図(2)

は上師器の壺形土器と須恵器の壺形土器と同じ高さで隣り合っていた。

出土遺物（9・10）

9は壺形土器で、肩部から口縁部までの残存である。口縁部は外傾して中位で段をもち、口縁端部はわずかに内傾し面をもつ。肩部は緩やかな曲線を描き、外面にはヘラ状工具による太い工具痕が縦方向に3条ある。10は須恵器の壺形土器で、頸部から口縁部までが遺存する。口縁部はわずかに外反し、口縁端部はナデによりくぼむ。口縁部外面にはカキメ調整が残る。

第5地点（第8図、図版9）

SR 1中央部のF 9区、南北トレンチ内にある。検出土層は上部から黒色土（砂性）、茶褐色土（粘性）、黄褐色土（砂性）、緑灰色土（砂性）を検出し、遺物は緑灰色土（砂性）から土師器の壺形土器の大型片が1点出土した。

出土遺物（11）

11は壺形土器である。球形の胴部は、最大径が胴中位のやや上にある。口縁部はわずかに外反し、口縁端部は丸い。

第6地点（第8図）

SR 1東部のG 5区、南北トレンチ内にある。検出土層は上部から暗灰褐色土、黒色土、白灰色粘土と黒灰色粘土の混合土であり、遺物は白灰色粘土と黒灰色粘土の混合土内から出土した。遺物は120cm四方の範囲で大型片を検出し、土師器2点が同じ高さで、50cm離れた位置にあった。

出土遺物（12・13）

12は壺形土器で、口縁部から胴部までが遺存する。緩やかな曲線を描く胴部に、外傾する口縁部をもつ。口縁端部はナデにより水平で幅広になる。13は壺形土器の底部片で、丸味をもつ。

第7地点（第9図、図版9）

SR 1東部のG 7区、南北トレンチ内にある。検出土層は上部から暗灰褐色土、茶褐色土（粘性）、黄褐色土（粘性）、黄色土と暗灰色粘土の混合土、黄白色粘土と暗灰色粘土の混合土である。遺物は黄色土と暗灰色粘土の混合土から出土した。出土状況は土師器の壺形土器の大型片が横向きで検出されている。

出土遺物（14）

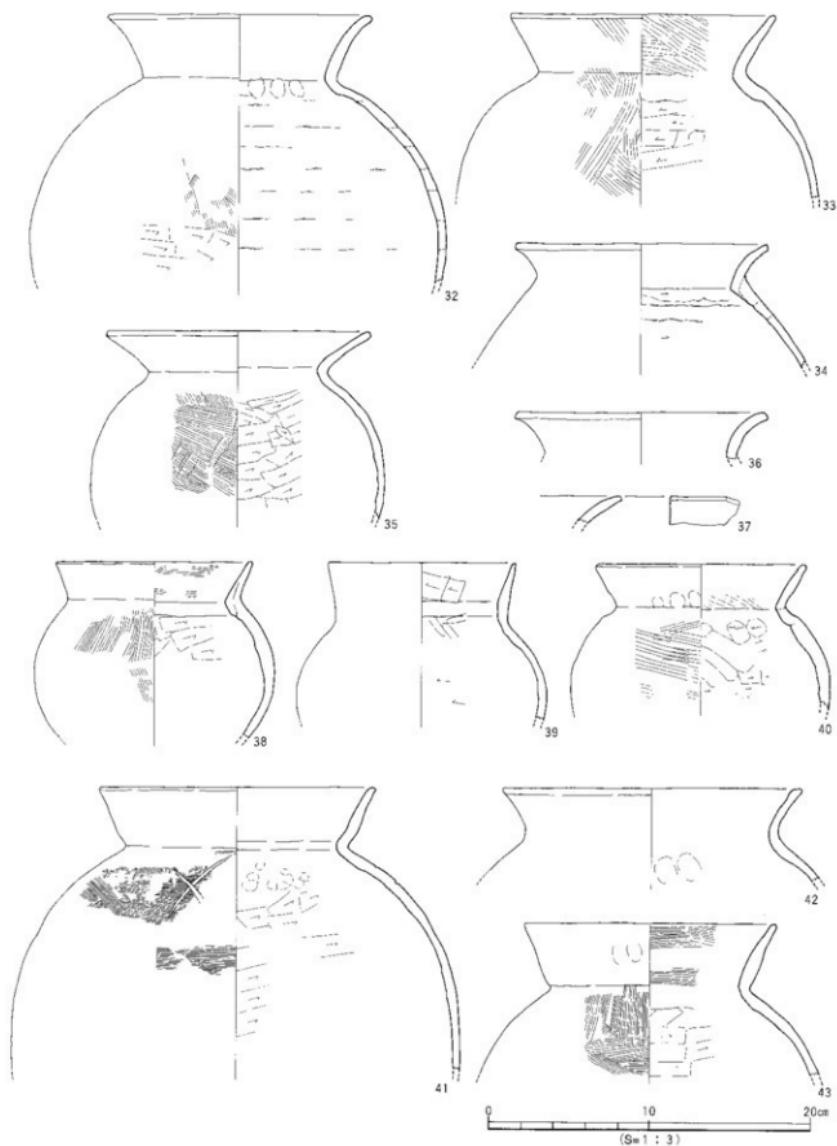
14は壺形土器である。口縁部は短く外反したのち、長く上外方に立ち上がる。口縁端部は丸味をもって、わずかに水平面をもつ。

第8地点（第9図）

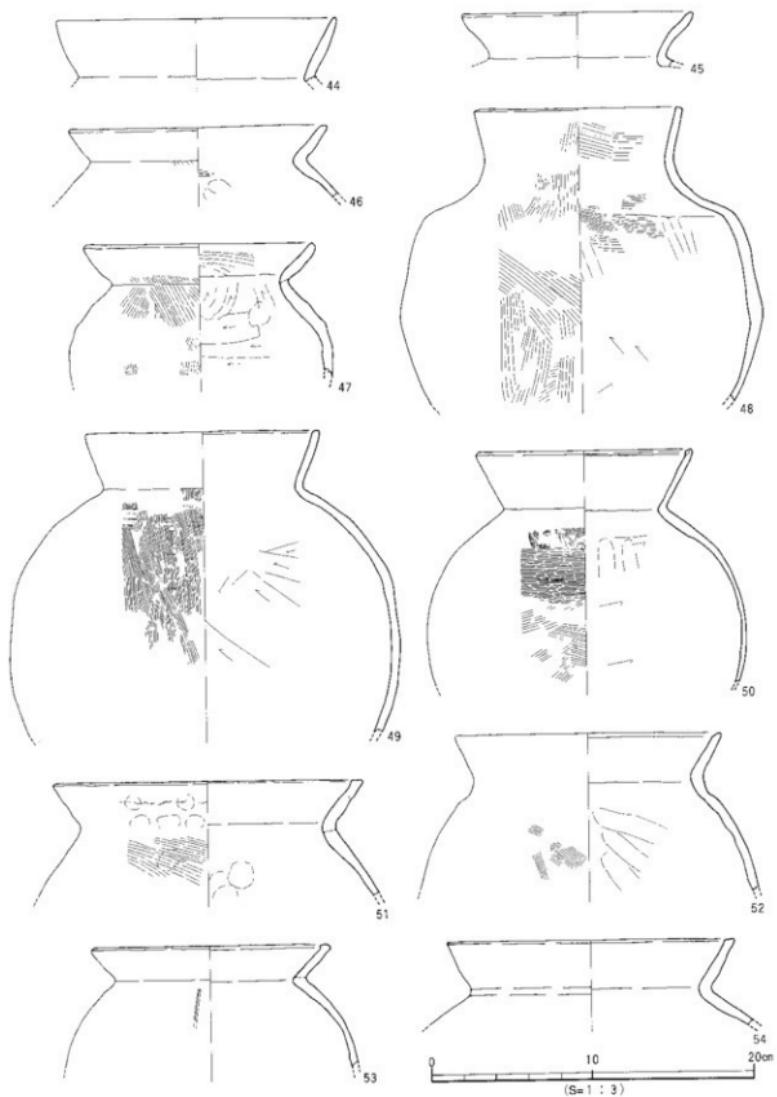
SR 1中央部のH 8区、東西トレンチ内にある。検出土層は上部から茶褐色土（粘性）、黒色土（粘性）、黄褐色土（砂性）、緑灰色土（砂性）、黄色粘質土であり、遺物は黄褐色土（砂性）から土師器1点が出土した。出土品は土師器の壺形土器で、底部から胴部までの大型片である。底部を横に向けた状況で検出した。

出土遺物（15）

遺構と遺物

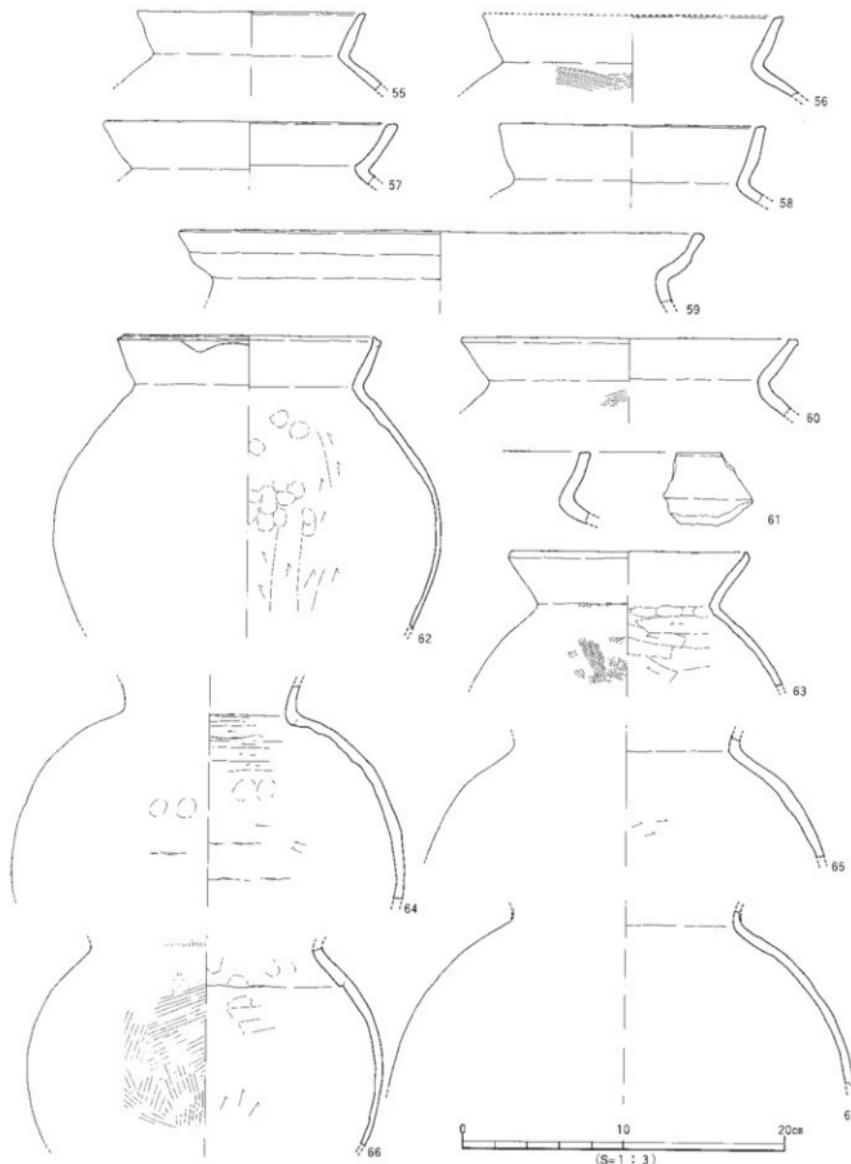


第12図 SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(1)



第13図 SR 1グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(2)

遺構と遺物



第14図 SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(3)

15は壺形土器で、底部から胴部までが遺存する。わずかに上がる底部と、外傾して立ち上がる胴部をもつ。

第9地点（第9図）

SR 1南東部のJ 5区、南北トレンチ内にある。検出土層は黄褐色土（砂性）と、この層に含まれる灰色粘土を確認し、遺物は黄褐色土（砂性）から出土した。出土状況は、土師器の壺形土器の底部片と胴部片とが破損した状況で出土した。

出土遺物（16）

16は壺形土器で、底部から胴部までが遺存する。わずかに上がる底部と、外傾して立ち上がる胴部をもつ。

第10地点（第10・11図、図版9・10）

SR 1南東部のJ 3区にある。遺物はSR 1東岸のテラス状の浅いくぼみ（2×2 m）から出土した。埋土は黄褐色土で、上層には第V層黒色粘質土がある。出土遺物には土師器の壺形土器、壺形土器、高环形土器があり、完形品や大型破片が多数ある。このうち壺形土器23、壺形土器24、高环形土器26・27は底面近くに集中して出土している。また、出土品には韓国系軟質土器の口縁部片と、弥生土器が少量含まれる。

出土遺物（17～31）

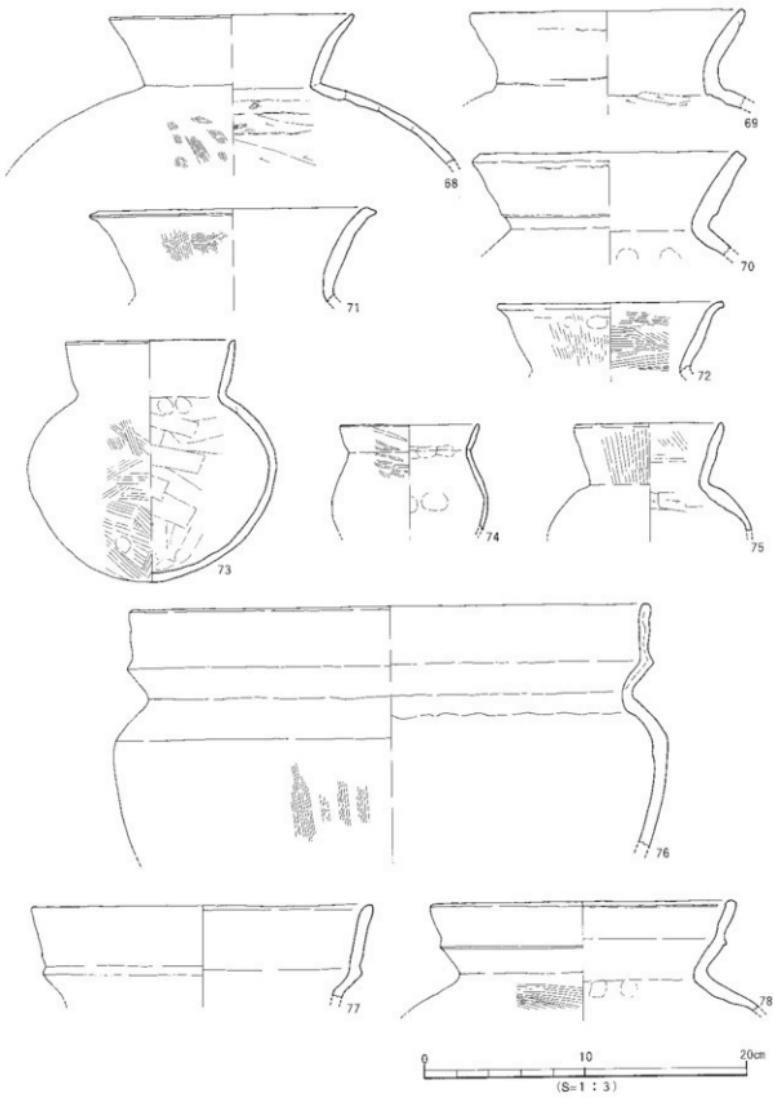
17～23は壺形土器である。17は大型品で、口縁部から胴部までが遺存する。やや肩の張る胴部は胴中位やや上が最大径になる。口縁部は「く」の字状で、口縁端部はナデにより水平な面をもつ。18の口縁部は「く」の字状で、口縁端面はナデにより内傾する。19の口縁部は「く」の字状で、口縁端部は厚く丸味をもつ。20は「く」の字状の口縁部で、口縁端部はナデにより内傾し面をもつ。21は韓国系軟質土器である。直立して外反する口縁部は口縁端部がナデにより肥厚される。外面には格子目状のタタキ痕が残る。22は口縁部片で、口縁部はわずかに内湾して立ち上がり、口縁端部はナデにより内傾する。23は完形品で、球形の胴部をもつ。口縁部は歪みがあり、外傾する部分と直立する部分とがある。

24・25は壺形土器である。24は小型品で、扁球形な胴部に短く外反して、外上方に長く伸びる口縁部をもつ。口縁端部は尖り、丸味をもつ。25は小型品である。緩やかな曲線の胴部に、直立気味に外反する口縁部をもつ。口縁端部は丸味をもつ。内外面には指ナデ痕や指頭痕が見られ、粗製の土器である。

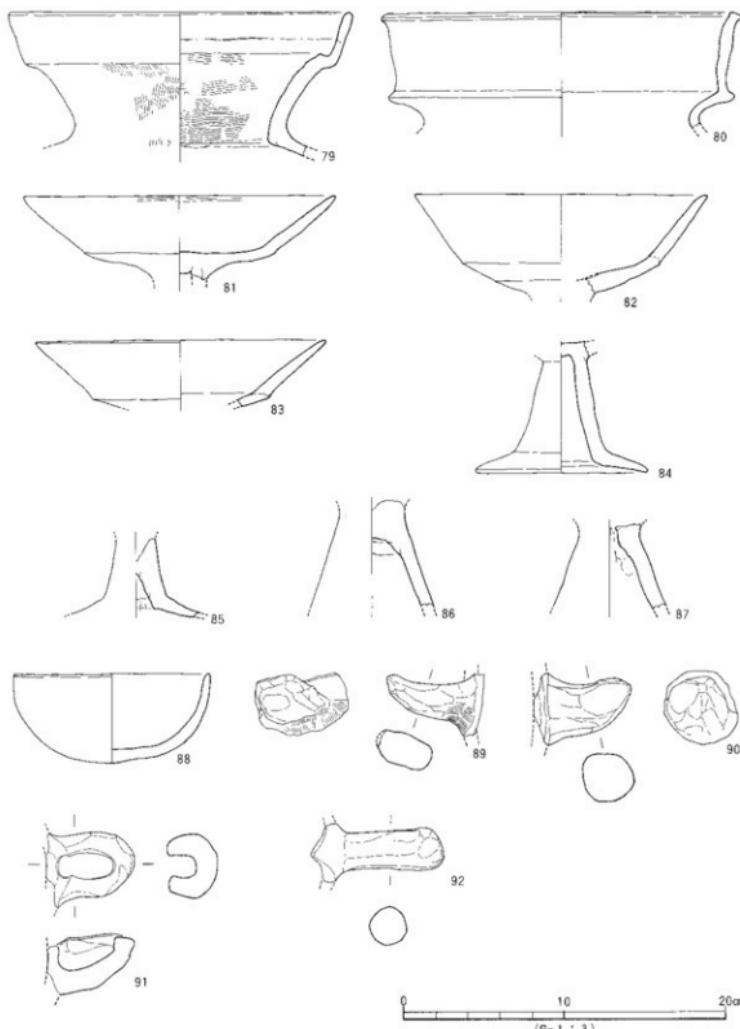
26・27は高环形土器である。26は直立気味にわずかに開く柱部に、大きく広がる短い裾部をもつ。柱部は口縁部が外傾して立ち上がり、わずかに内湾する。口縁部と柱底部との境は段をなす。口縁端部はナデにより丸く、内面にはわずかに段がある。27の柱部は口縁部が外傾し、内湾しながら立ち上がる。口縁端部は外反する。柱部は円錐形をなし、裾部は水平に開き、端部は尖り丸い。

28～31は弥生土器である。28・29は壺形土器で、28の口縁部は折り曲がり、29は平底の底部片である。30は壺形土器の底部片。31は支脚形土器で、角状突起が1ヶ残る。上部には貫通孔をもつ。

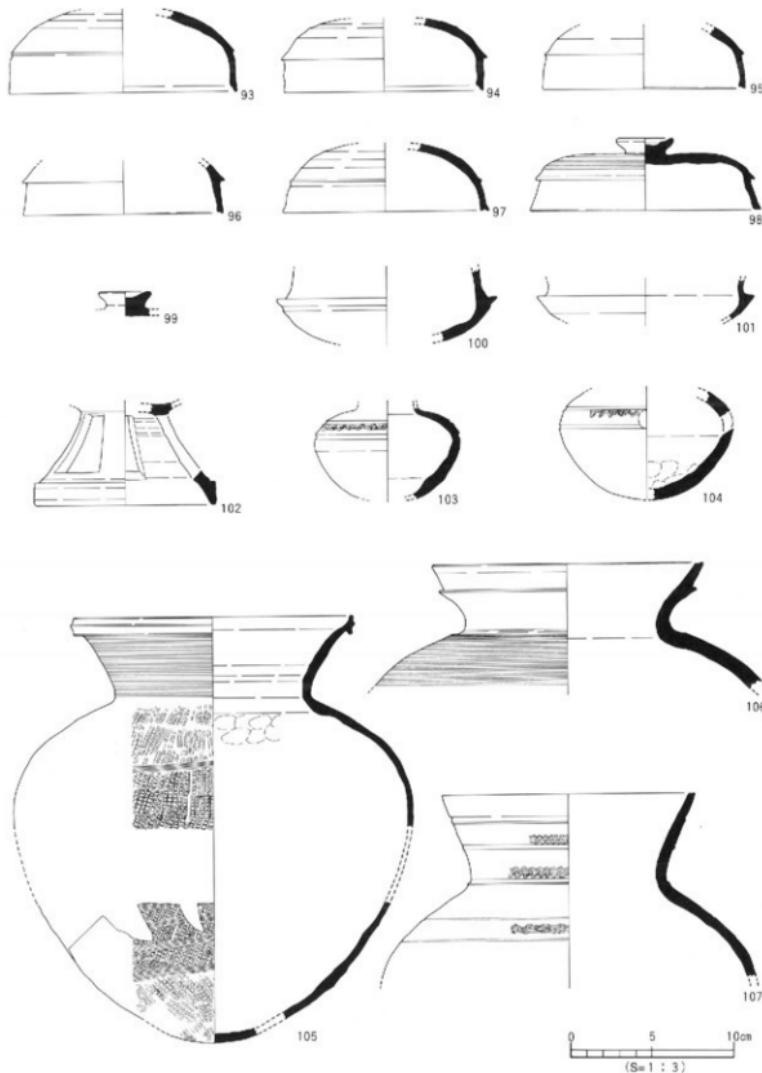
SR 1グリッド・出土地点不明出土遺物（第12～23図、図版10～14）



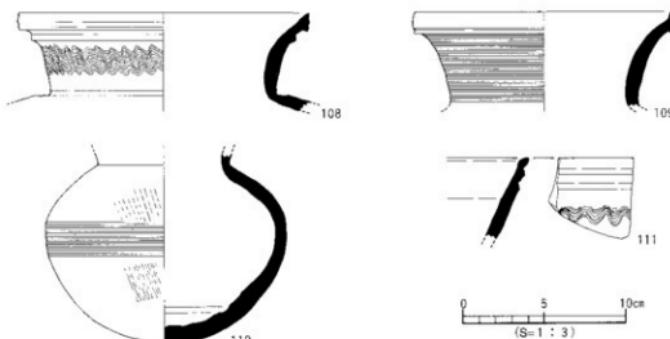
第15図 SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(4)



第16図 SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(5)



第17図 SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(6)



第18図 SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(7)

第12~23図の遺物は、トレンチ掘削時とSR上面の精査時に出土したものである。遺物には土師器、須恵器、弥生土器がある。土師器は東区から出土したものが多数を占め、須恵器はほとんどが西区からの出土である。弥生土器は東西の両調査区から出土している。ここでは注目される遺物について説明を行う。

土師器

変形土器 (32~67) 32はなだらかな曲線の胴部に、外反する口縁部をもつ。口縁端部は丸く、胴部内面には粘土巻き上げ痕が顕著に見られる。35は大きく外傾しわずかに内湾する口縁部をなす。口縁端部は「コ」の字状で丸味をもつ。38は球形の胴部に外傾する口縁部がつき、口縁端部は先細りする。41は外傾する口縁部をもち、口縁端部は丸味をもつ。胴部は長球形になると思われる。肩部には「メ」の字状のヘラ記号がある。48は直線的に外傾する口縁部をもち、口縁端部は「コ」の字状で丸味をもつ。肩部と胴中位に緩やかな稜をもつ。50は球形の胴部に、外傾する口縁部をもつ。口縁端部は内面に粘土を貼付け、内側に突出する。器壁はケズリにより薄く作られている。51・54は外傾する口縁部をもち、口縁端部は水平面をなし、ナデによりややくぼむ。59は大型品である。口縁部は外傾後、短く屈曲する。口縁端部は「コ」の字状で丸味をもつ。62は胴部から口縁部までが遺存する。胴部は最大径を上半部にもち、口縁部は外傾し、内湾して立ち上がる。口縁端面はナデによりくぼむ。

変形土器 (68~75・77~80) 68は大きく肩の張る胴部に、外反する口縁部をもつ。口縁端部は先細りし丸い。70は外傾する口縁部をもち、口縁端部は「コ」の字状で丸味をもつ。頸部にはナデによる段が見られ、器壁は厚い。73は完形品で、球形の胴部に直立気味に立ち上がる口縁部をもつ。口縁端部は尖り気味に丸い。78の口縁部は外傾して中位で屈折する。口縁端部は丸く、口縁部全体が内側に肥厚される。79は口縁部が大きく外反して、口縁上位で屈曲し短く立ち上がる。口縁端部は丸い。80の口縁部は短く外反し、段をなして屈曲したのち外反気味に立ち上がる。口縁端部は肥厚され、内外面をわずかに拡張する。

鉢形土器 (76) 76は口縁部から胴部までが遺存する。口縁部は短く外傾したのち、屈折して直立気味に立ち上がる。口縁端部は「コ」の字状で丸味をもつ。

瓶形土器 (89~92) 89~92は把手部である。89~91は舌状の把手で、断面形は89が隅丸長方形で、

90は丸くなる。91は上部が溝状にくぼんでいる。92は棒状で、水平に伸び、断面形は丸くなる。

須恵器

壺(93~101) 93~99は环蓋である。98は平坦な天井部に、中央部がくぼむつまみが付く。口縁部は「ハ」の字状に広がり、端部はくぼむ。天井部と口縁部とを分ける稜は断面三角形になる。100・101は环身片である。

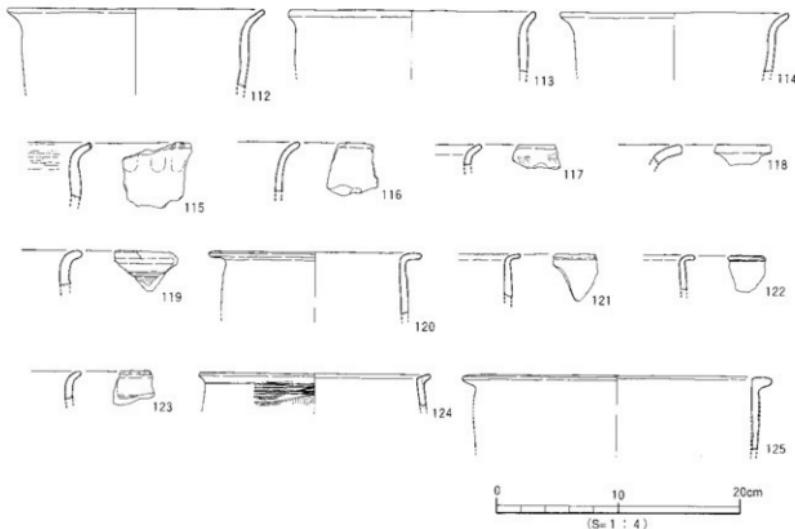
高壺(102) 102は「ハ」の字状に広がる脚部で、台形状の透かしを施す。

甌(103・104) 103は小型品で肩が張る。103・104の胴上半部には沈線文2条と波状文を施す。

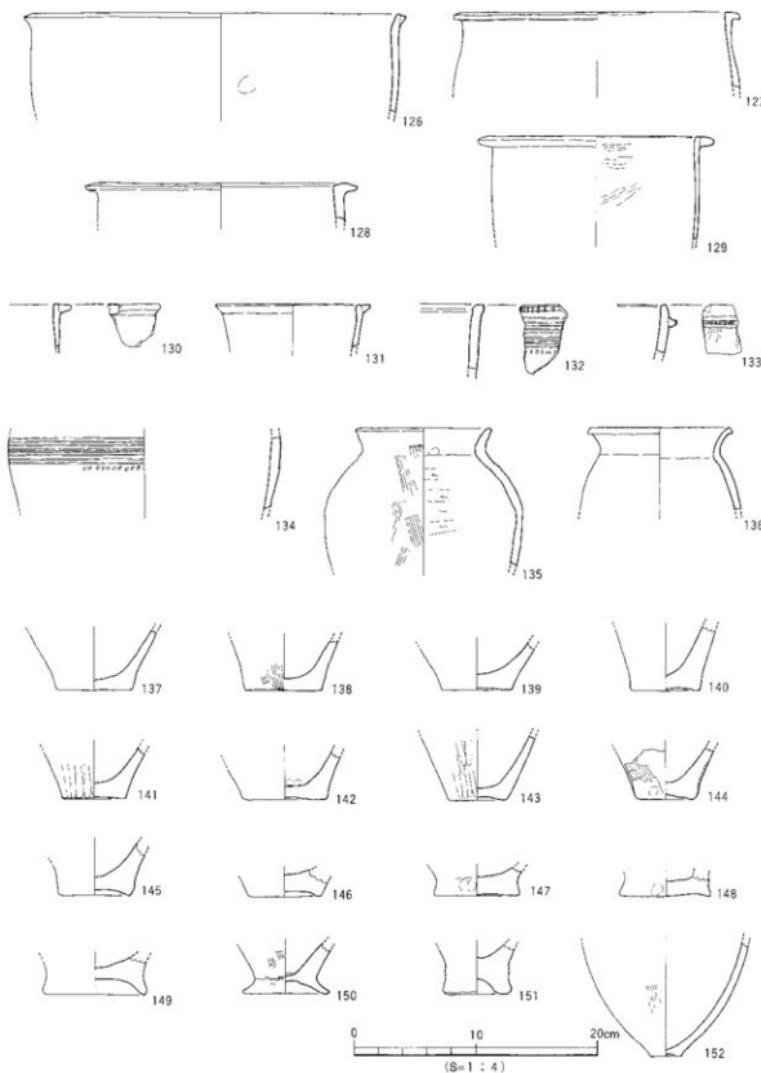
壺(105~110) 105は口縁部が大きく外反し、口縁端部は上下に拡張される。胴部外面にタタキ痕が残る。106は口縁部の中位に段をもつ。口縁端部はわずかに内傾し、口縁端面の中央部がわずかにくぼむ。107は外傾する長い口頸部をもつ。口縁端部は水平で、中央部がわずかにくぼむ。頭部から口縁部までの外面には凸帯文3条と波状文2条、胴部には沈線文2条と波状文1条を施す。108は外傾して外反する口縁部をもつ。口縁端部は下方に伸びる。口縁部直下には1条の凸帯文、頸部には幅広の波状文を施す。

器台(111) 高环形器台の壺部片である。口縁部直下には段をもち、口縁端部は内傾する。

石製品(193~197) 193・194は石斧である。193は伐採斧で、刃部は欠損している。断面は丸味のある長方形で、全面に研磨が行われ、側面に使用痕(敲痕)が見られる。194は加工斧で、残存面には研磨がみられる。195はスクレイパーで、一部に自然面が残る。196は大陸系磨製石器で、器種は不明である。背の部分には明瞭な棱をもち、片面に縞をもつ。全面に丁寧な研磨が行われている。197は砾石錐である。小口面には紐掛け用の抉りを打ち欠いている。

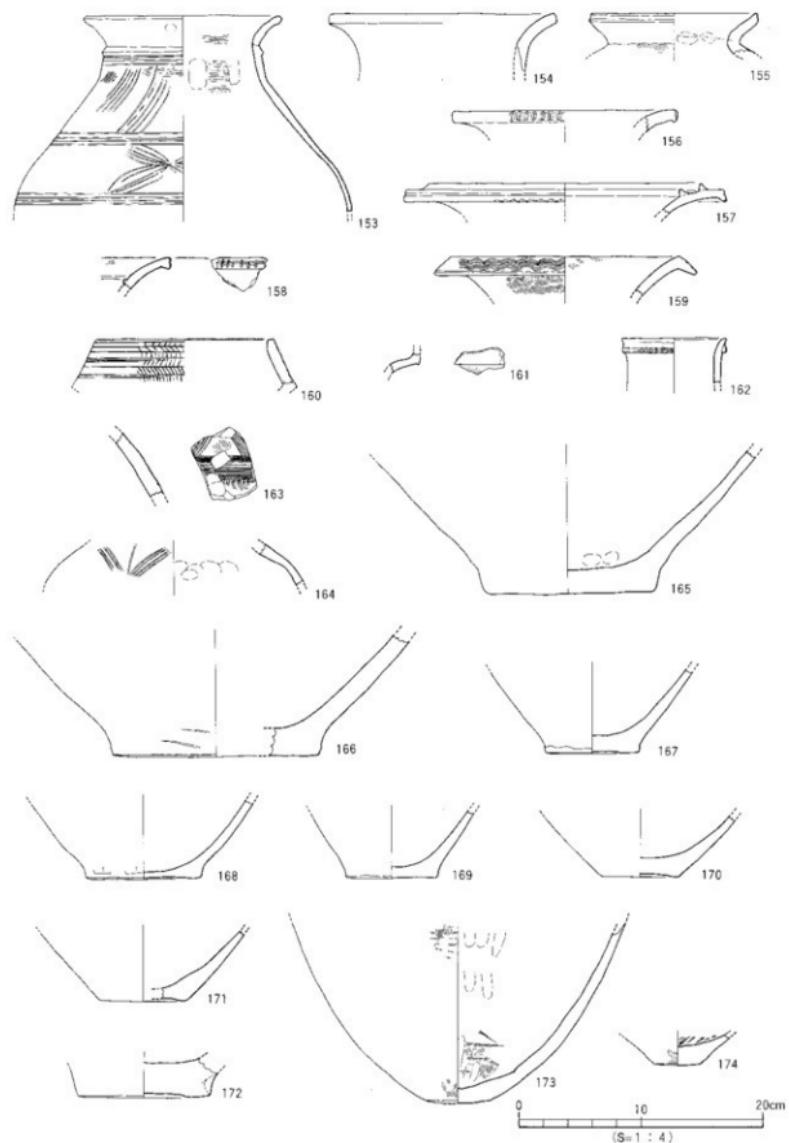


第19図 SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(8)

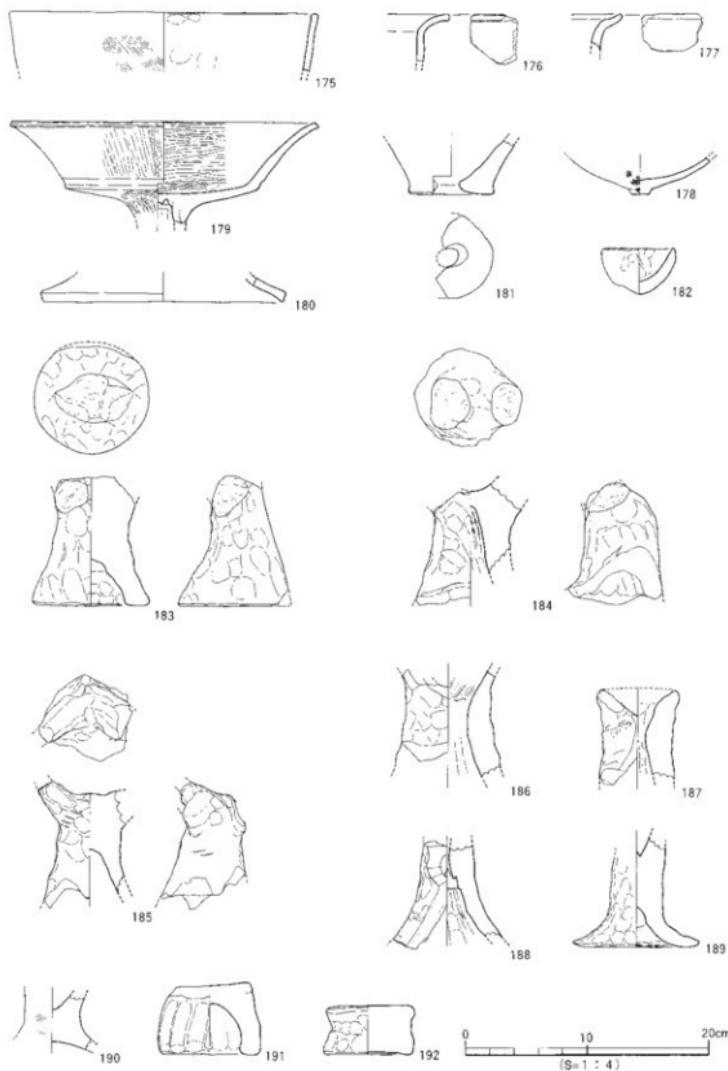


第20図 SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(9)

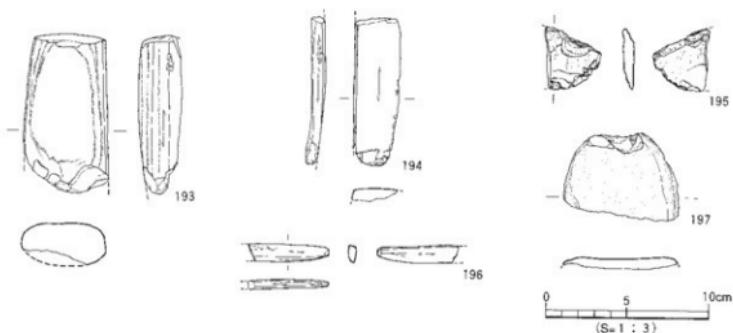
遺構と遺物



第21図 SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図



第22図 SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(1)



第23図 SR 1 グリッド・出土地点不明出土遺物実測図(12)

時期：SR 1 は、出土した遺物の形態から5世紀前半とする。

(2) 溝 (SD)

SD 5 (第24図)

調査区西のD21区に位置し SX17を切る。規模は検出長3.0m、幅0.2m、深さ5cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は暗褐色土である。遺物は出土していない。

時期：遺物は出土していないが埋土から5世紀末と考えられる。

SD 6 (第25図)

調査区北西のB20～D22区に位置し SX17を切り SD 1・2に切られる。規模は検出長1.1m、幅0.6m、深さ12cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は暗褐色土である。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、石器が出土した。

出土遺物 (第26図)

198は弥生土器の支脚形土器である。裾部はわずかに開き上げ底状である。199～206は土師器。199～201は甕形土器の口縁部である。199は外傾する口縁部の端部は丸い。200は緩やかな頸部に外傾する口縁部の端面は外側に面をもつ。201は外傾する口縁部の端面は水平気味に丸い。202は高壺形土器の柱部である。203～205は壺形土器である。203の口縁部はわずかに内湾し端部は尖り気味に丸い。204・205の口縁端部は内傾する面をもつ。206は壺形土器の把手である。接合面に突起するボタン状の粘土を貼り付ける。207～211は須恵器。207～210は壺蓋片である。207の口縁部は内湾気味に接地し端面は内傾し段をもちくぼむ。208は直立する口縁部の端部は尖り気味である。209は直立気味に接地する口縁部の端部はくぼむ。210はわずかに開く口縁部の端面は内傾してわずかにくぼむ。211は壺形土器である。口縁部は内湾気味に立ち上がり端部手前で段をもち外反し端部は尖り気味である。外面に凹線文2条と波状文を施す。

時期：出土した遺物と埋土から5世紀末と考えられる。

SD 7 (第27図)

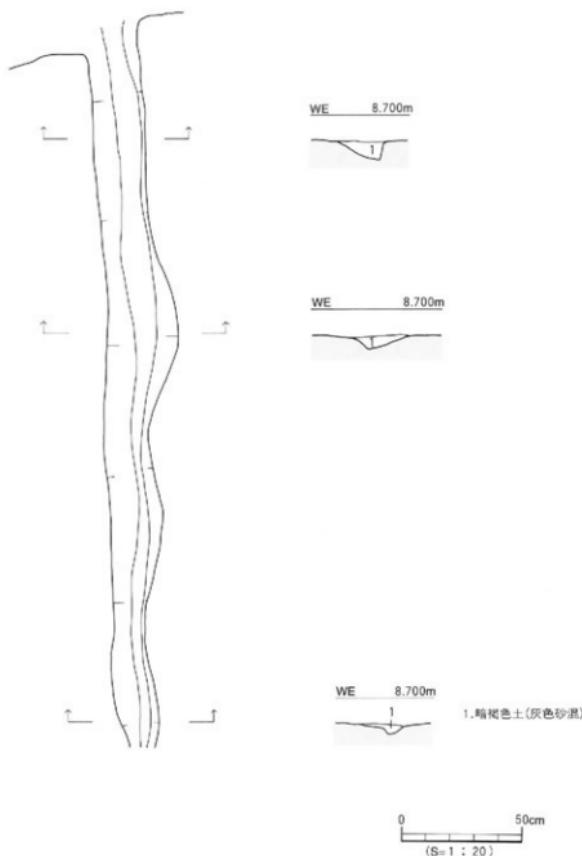
調査区西のC20～E19区に位置し SD 6 に切られ、一部分途切れる所がある。規模は検出長5.0m、幅0.3m、深さ 3 cm を測る。断面形態はレンズ状である。埋土は暗褐色土である。遺物は弥生土器、土師器、須恵器が出土した。

出土遺物 (第27図)

212は土師器の高環形土器の柱部である。213・214は坏蓋である。213は低い天井部に直立気味に接地する口縁部、端面は内傾しくぼむ。214は丸味のある天井部。口縁部はわずかに開き端部はくぼむ。

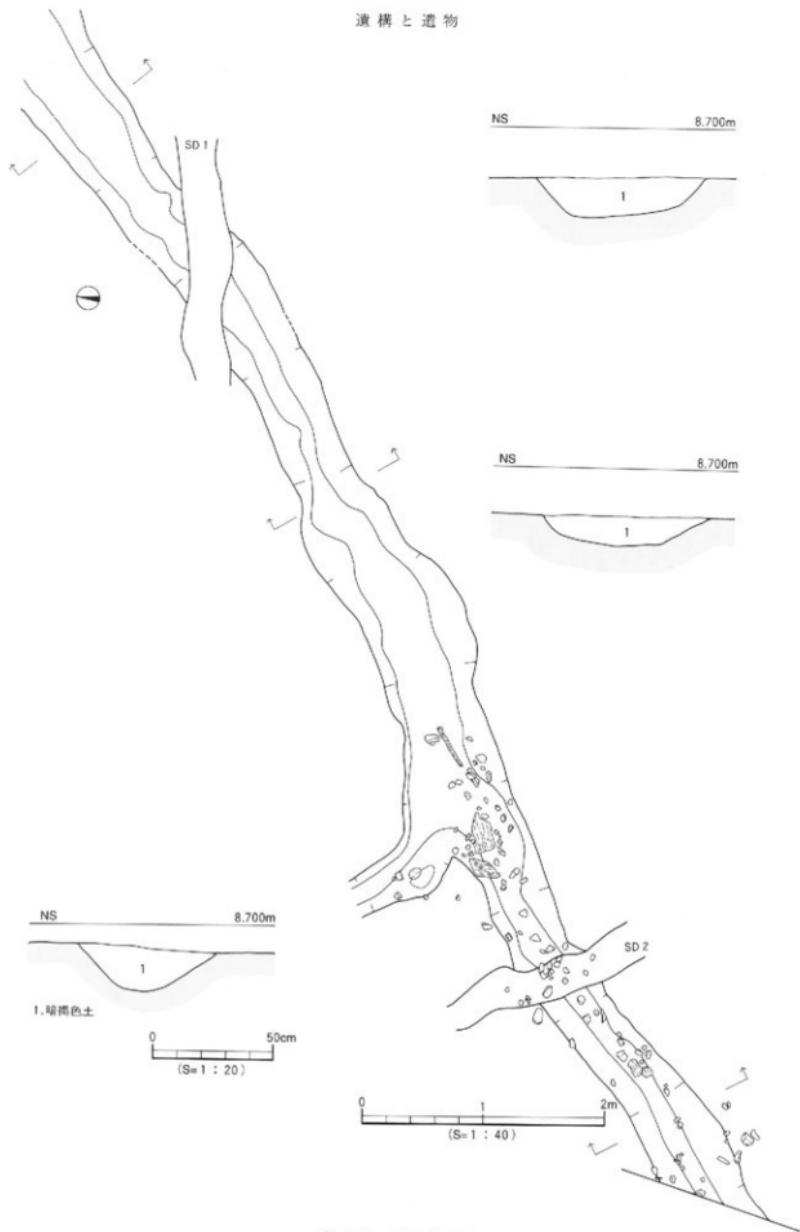
時期：出土した遺物と埋土から 5 世紀末と考えられる。

⑦

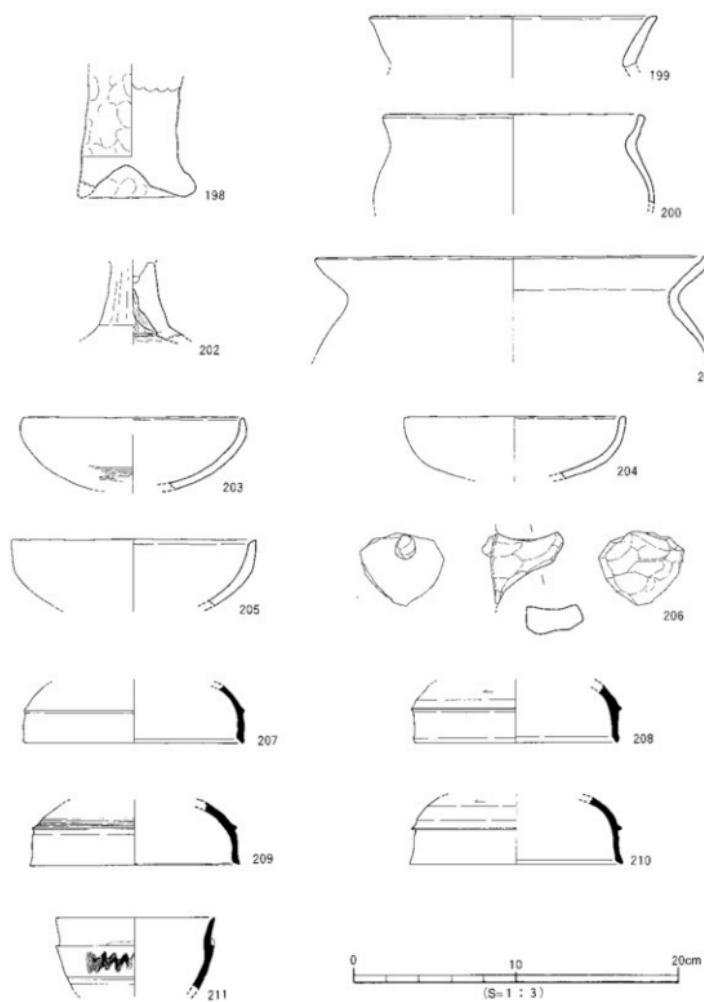


第24図 SD 5 測量図

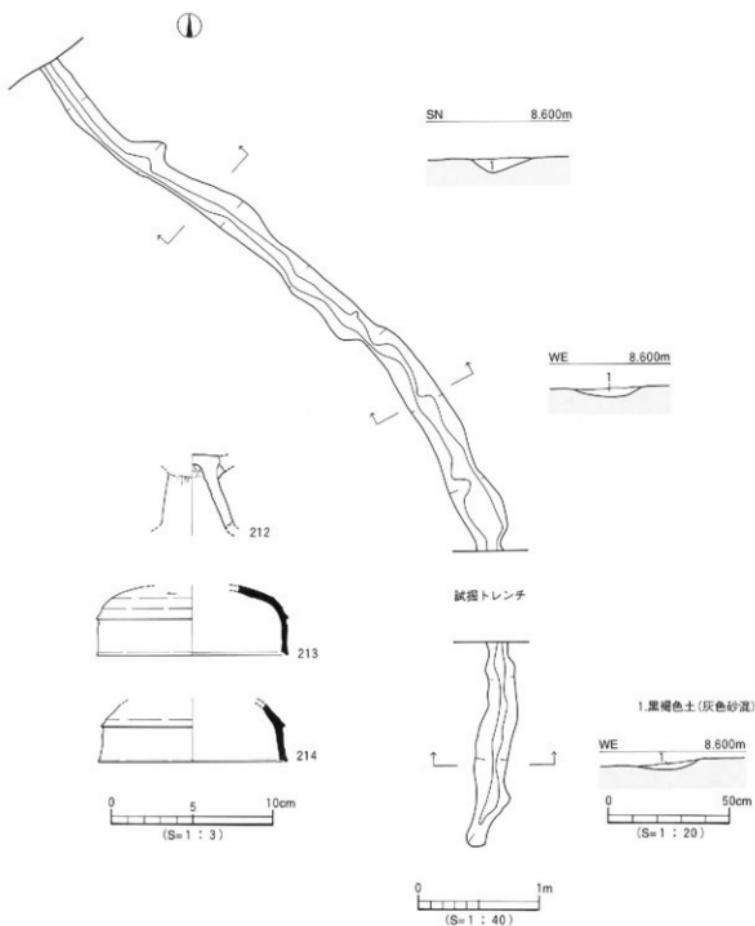
遺構と遺物



第25図 SD 6 測量図



第26図 SD 6 出土遺物実測図



第27図 SD 7 測量図及び出土遺物実測図

SD 8 (第28図)

調査区北西のC18・19区に位置する。規模は検出長3.6m、幅0.5m、深さ8cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は暗褐色土である。遺物は出土していない。

時期：遺物が出土していないが埋土はSD 6と同じであり、5世紀末と考えられる。

SD 9 (第29図)

調査区西のF18・19区に位置する。規模は検出長5.2m、幅0.3m、深さ7cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は褐色土である。遺物は弥生土器、土師器、須恵器が出土した。

出土遺物 (第29図)

215は壺身である。短く水平に伸びる受部と内傾して立ち上がる口縁部をもち端部はくぼむ。

時期：出土した遺物と埋土から5世紀末と考えられる。

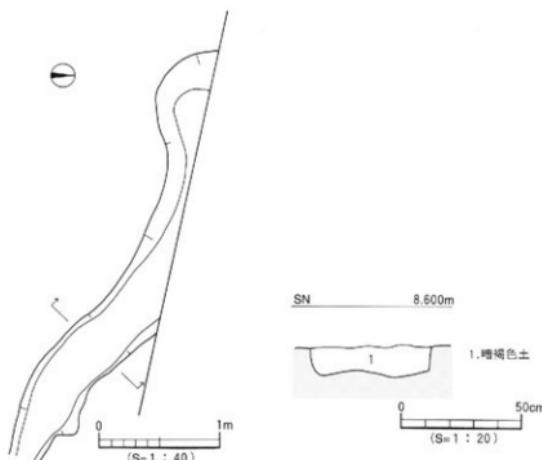
SD 10 (第30図)

調査区西のD17～F19区に位置する。規模は検出長3.5m、幅0.6m、深さ20cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は褐色土である。遺物は弥生土器、土師器、須恵器が出土している。

時期：出土した遺物と埋土から5世紀末と考えられる。

SD 11 (第31図)

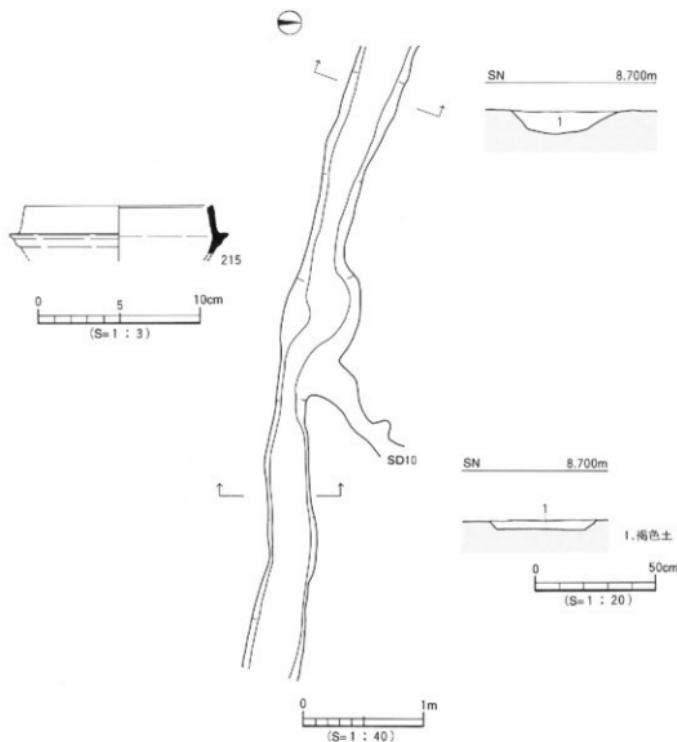
調査区北西のB20～C22区に位置しSD 1・2に切られ、SX 15を切る。SD 6とほぼ平行な溝である。規模は検出長8.5m、幅0.5m、深さ13cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は茶褐色土で



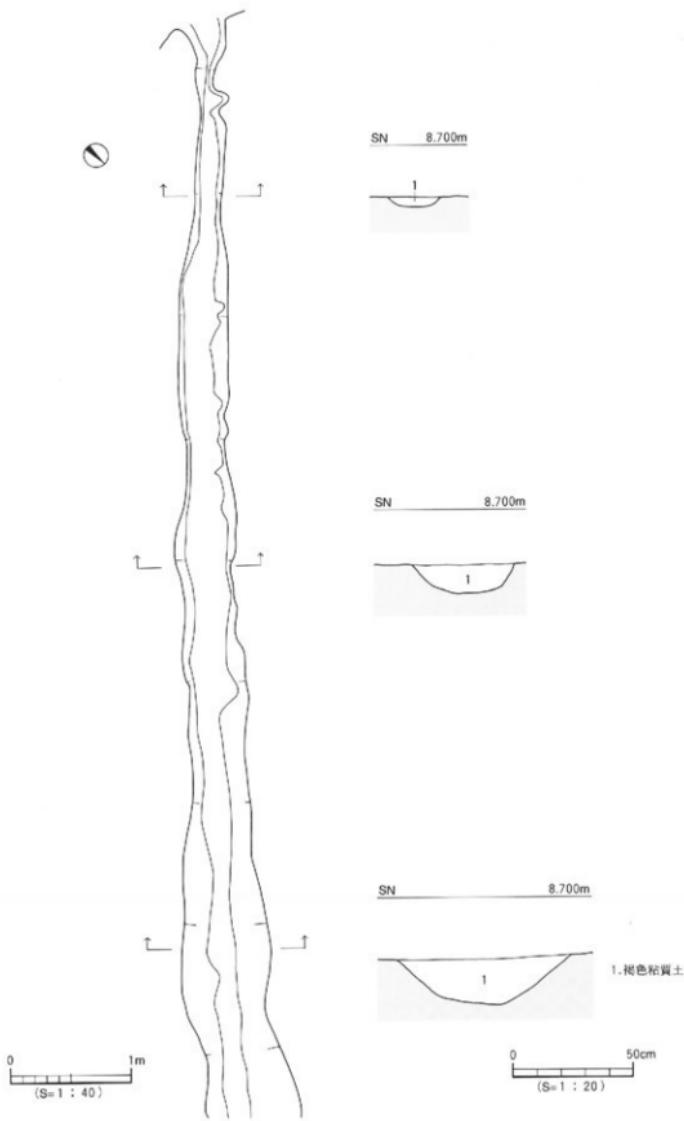
第28図 SD 8 測量図

ある。遺物は弥生土器、土師器、須恵器が出土している。

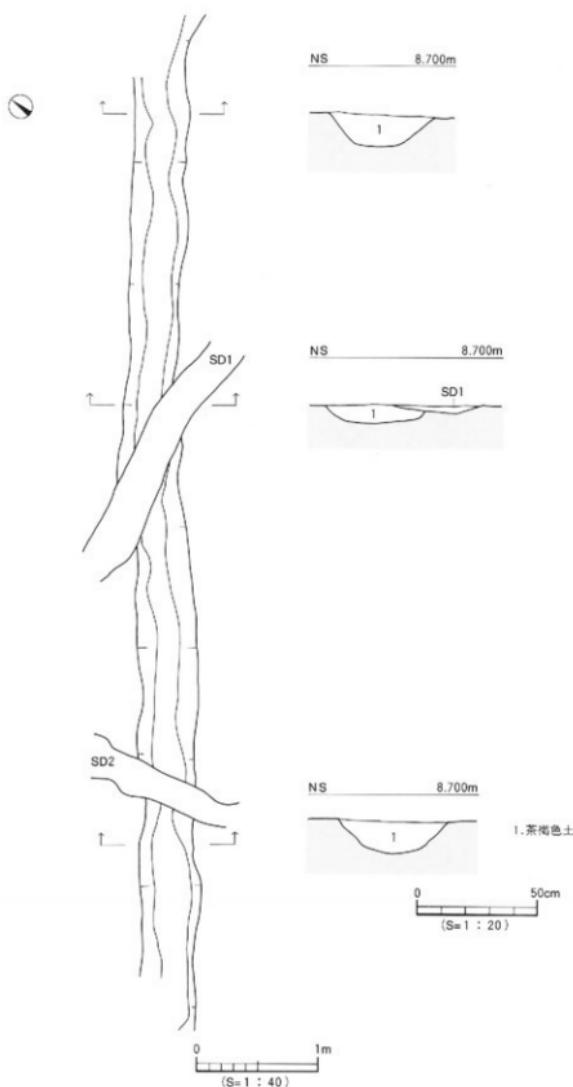
時期：出土した遺物と埋上から5世紀末と考えられる。



第29図 SD 9 測量図及び出土遺物実測図



第30図 SD 10測量図



第31図 SD 11測量図

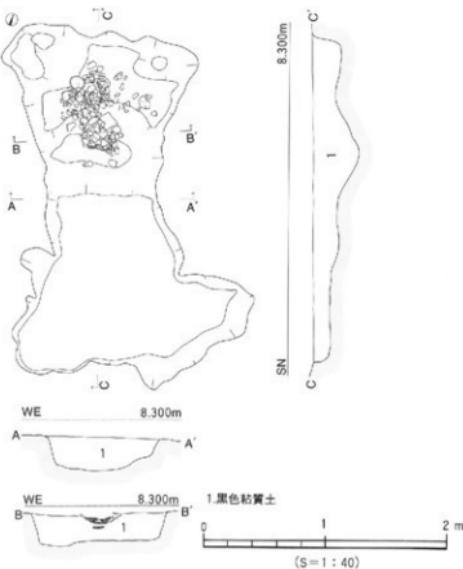
(3) 土 坑 (SK)

SK 6 (第32図)

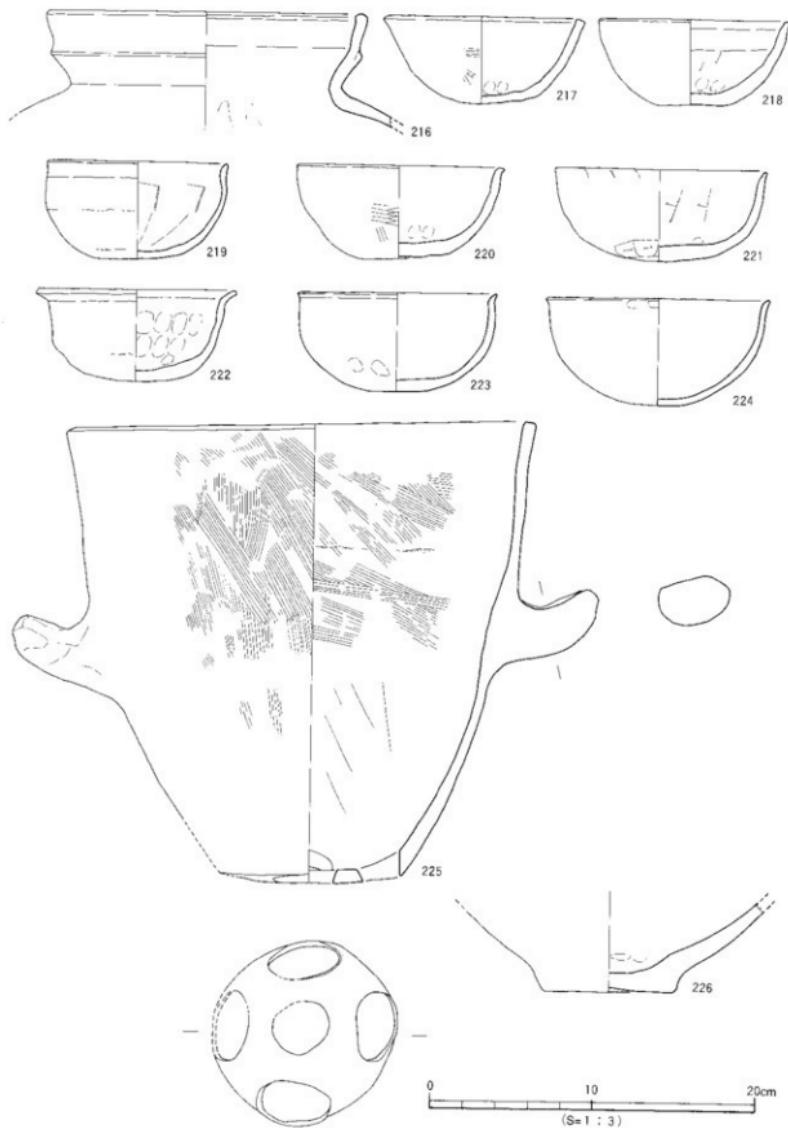
調査区北のD・E15区に位置し SR 1を切る。平面形態は不整形な長方形で規模は長軸2.7m、短軸1.0m、深さ20cmを測る。断面形態はすりばち状で埋土は黒色粘質土である。遺物は土師器の壺形土器、甕形土器、壺形土器の完形品が重なり合って出土した。

出土遺物 (第33図、図版15・16)

216～225は土師器である。216は複合口縁壺の口縁部である。口縁部は外傾し中位で折れ曲げ立ち上がる。端部内面はナデにより肥厚される。217～224は壺形土器の完形品である。217の底部は丸く



第32図 SK 6 測量図



第33図 SK 6 出土遺物実測図

口縁部は「コ」の字状に丸い。218は平たい底部の中央部がわずかにくぼむ。口縁部は内湾し端部はわずかに外反し丸い。219は内湾して立ち上がる口縁部の端部は外反し丸い。内面にヘラ状工具による強いナデが放射状に伸びる。220は凹凸のある底部に内湾して立ち上がる口縁部。端部はナデにより外方向にわずかに伸びる。221は丸い底部に内湾して立ち上がる口縁部。端部は外反しナデにより先細りし丸い。外面底部にケズリ調整が残る。222は丸い底部より外傾して立ち上がる口縁部は大きく外反する。端部は「コ」の字状である。223は丸い底部に外反して立ち上がる口縁部の端部は先細りし外反する。224は丸い底部にわずかに外反する口縁部。端部は先細りし丸い。225は壺形土器の完形品である。わずかに丸い底部に外傾する胴部。口縁部は若干外反する。端部は「コ」の字状である。胴部中位に断面梢円形の把手が付く。底部に4方向と中央部の計5個の円孔をもつ。226は弥生土器の壺形土器で、厚みのある底部になる。

時期：出土遺物の形態から5世紀後半の土坑と考えられる。

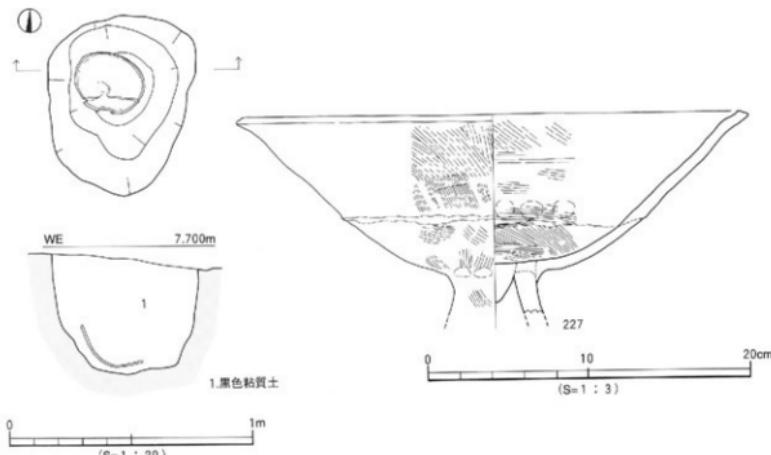
SK 7（第34図）

調査区中央のF14区に位置し、SR 1の底面で検出した。平面形態は梢円形である。規模は長軸70cm、短軸55cm、深さ45cmを測る。断面形態は「U」字状である。埋土は黒色粘質土である。遺物は高坏の坏部が上を向けた状態で1点出土した。

出土遺物（第34図、図版16）

227は大型の高坏形土器である。坏部は外傾しわずかに内湾し端部手前で外反する。端面は外傾しわずかにくぼむ。外面中央部に甘い稜をもつ。

時期：出土した高坏形土器の形態から4世紀末～5世紀初頭に時期比定される。



第34図 SK 7測量図及び出土遺物実測図

SK 14 (第35図)

調査区西のE 16区に位置し SR 1 を切る。平面形態は梢円形である。規模は長軸2.0m、短軸1.8m、深さ90cmを測る。断面形態はすりばち状である。埋土は黒色粘質土である。遺物は土師器の変形土器が出土した。

出土遺物 (第35図、図版16)

228~231は土師器の変形土器である。228~230は口縁部から胴部にかけての残存である。228の口縁部は内湾気味に立ち上がり端部は内面が肥厚され内傾する面をもつ。229は内湾する口縁部の端部は「コ」の字状に丸い。230は外傾する口縁部の端部は「コ」の字状に丸い。231はほぼ完形の小型品である。胴部はやや肩の張る長い球形である。口縁部はわずかに内湾し端部は「コ」の字状に丸い。232は弥生土器の変形土器の底部である。くびれの上げ底を呈する。

時期：出土した遺物と埋土から5世紀末と考えられる。

SK 1 (第36図)

調査区東のI 3区に位置する。平面形態は円形である。規模は径2.7m、深さ55cmを測る。断面形態は逆台形状である。埋土は黒褐色土である。遺物は出土していない。

時期：出土遺物がないため埋土から5世紀末と考えられる。

SK 2 (第36図)

調査区東のI・J 3区に位置する。平面形態は円形である。規模は径1.3m、深さ34cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は黒褐色土である。遺物は弥生土器が出土した。

出土遺物 (第36図)

233は変形土器の底部。くびれの上げ底である。

時期：埋土から5世紀末と考えられる。

(4) 性格不明遺構 (SX)

性格不明遺構 (SX) は17基を検出した。これ等は人工的な遺構でなく、自然のくぼ地を指す。

SX 1 (第37図)

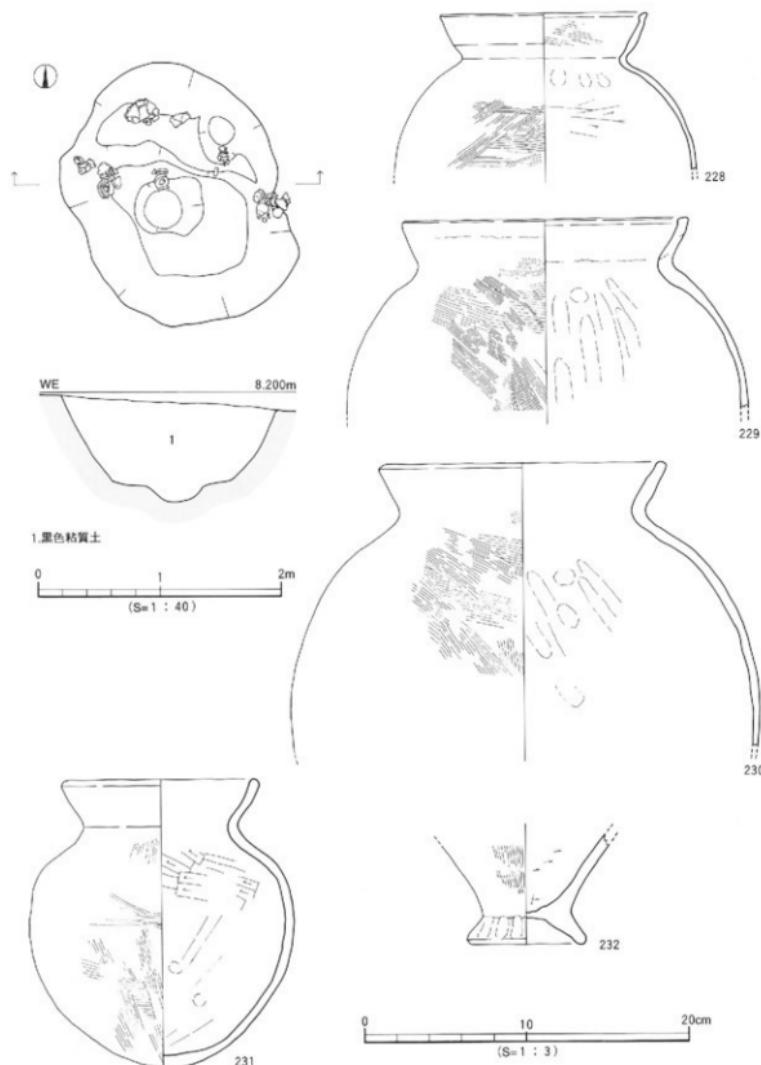
調査区南東隅のJ・K 2区に位置し、東側と南側は調査区外に続く。平面形態は検出部分が扇形であるため円形と思われる。規模は検出長軸3.16m、短軸3.08m、深さ12cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は黒褐色土である。遺物は弥生土器と土師器の小片が出土した。

時期：埋土から5世紀末と考えられる。

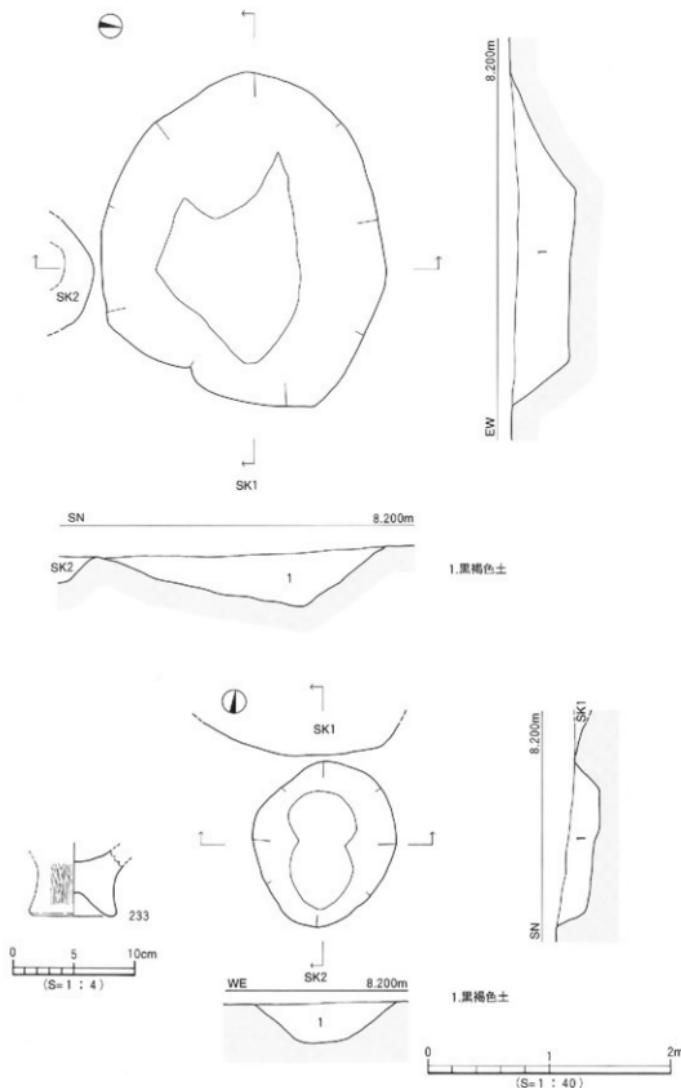
SX 2 (第37図)

調査区中央北のD 15・16区に位置し、SD 3とトレンチに切られ SR 1 の底面より検出した。平面形態は不整形な方形である。規模は検出長軸2.64m、短軸1.88m、深さ27cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は黒色粘質土である。遺物は出土していない。

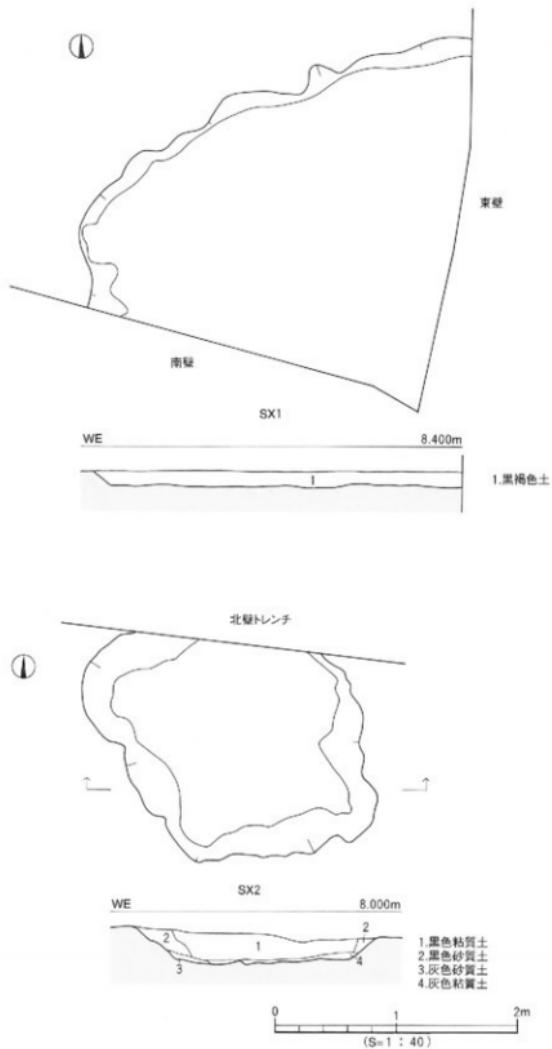
時期：埋土から5世紀末と考えられる。



第35図 SK 14測量図及び出土遺物実測図



第36図 SK 1・2測量図及び出土遺物実測図



SX 3 (第38図)

調査区中央のE・F18区に位置し、SD10に切られる。平面形態は不整形な楕円形である。規模は長軸2.80m、短軸1.54m、深さ18cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は黒褐色土である。遺物は出土していない。

時期：埋土から5世紀末と考えられる。

SX 4 (第39図)

調査区南のG19区に位置し南側はトレンチに切られる。平面形態は不整形な円形である。規模は検出長軸1.50m、短軸0.76m、深さ35cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は黒褐色土である。遺物は出土していない。

時期：埋土から5世紀末と考えられる。

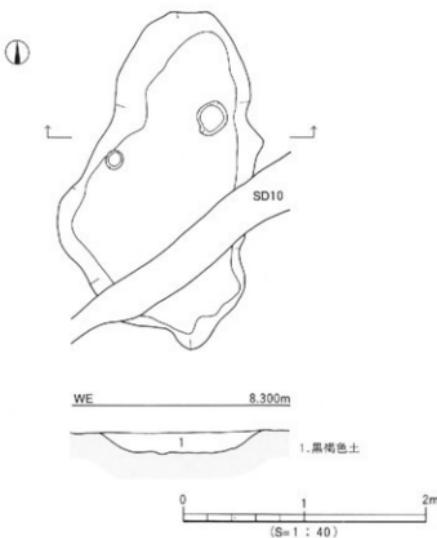
SX 5 (第39図)

調査区西のD19区に位置する。平面形態は円形である。規模は径1.9m、深さ20cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は暗褐色土である。遺物は弥生土器が少量出土した。

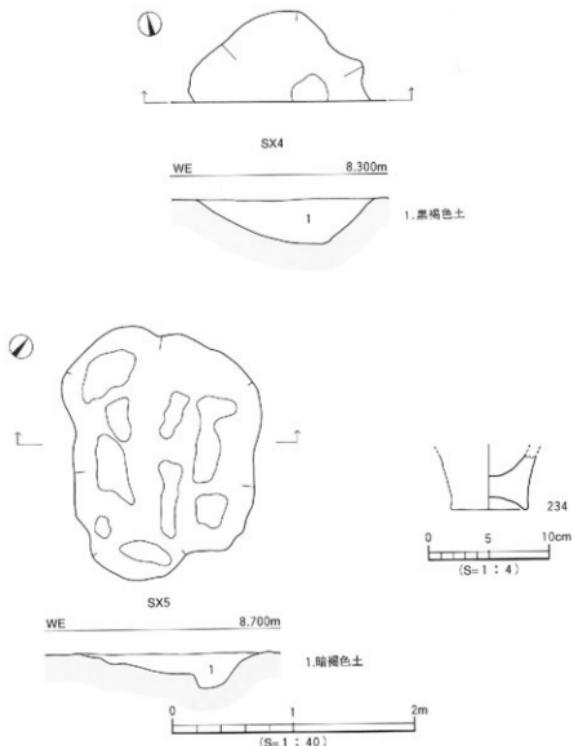
出土遺物 (第39図)

234は壺形土器の底部。上げ底である。

時期：埋土から5世紀末と考えられる。



第38図 SX 3 測量図



第39図 SX 4・5 測量図及び出土遺物実測図

SX 6 (第40図)

調査区西のC・D 18・19区に位置する。平面形態は円形である。規模は径2.3m、深さ50cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は暗褐色土である。遺物は弥生土器が少量出土した。

時期：埋土から5世紀末と考えられる。

SX 7 (第40図)

調査区南のG 19区に位置し、南側をトレンチに切られる。平面形態は隅丸方形と考えられる。規模は長軸1.4m、短軸1.1m、深さ6cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は暗褐色土である。遺物は弥生土器片が1点出土した。

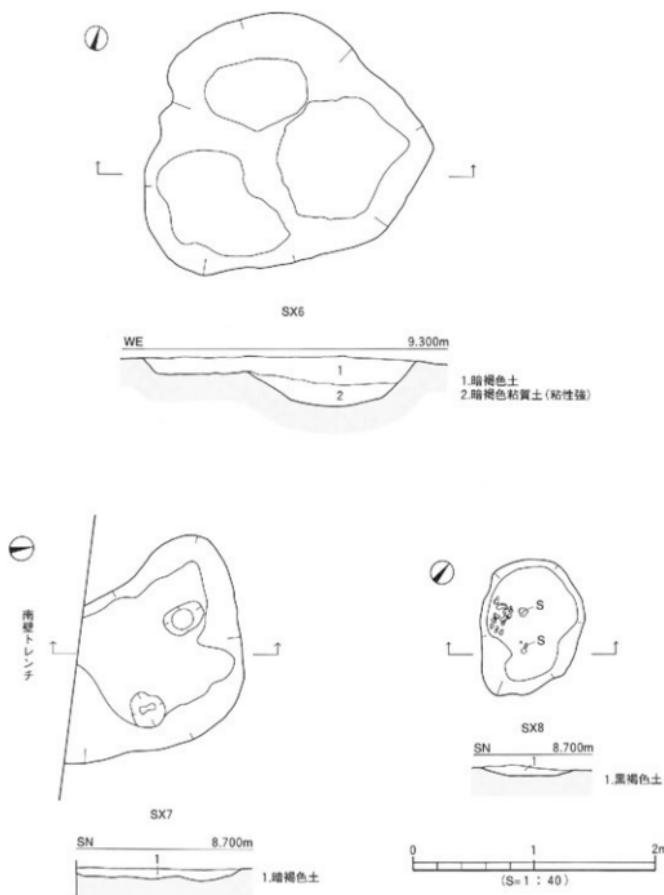
時期：埋土から5世紀末と考えられる。

遺構と遺物

SX 8 (第40図)

調査区西のD・E21区に位置する。平面形態は楕円形である。規模は長軸1.1m、短軸0.8m、深さ10cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は黒褐色土である。遺物は弥生土器と土師器が少量出土した。

時期：埋土から5世紀末と考えられる。



第40図 SX 6・7・8測量図

SX 9 (第41図)

調査区西のD・E 20区に位置する。平面形態は楕円形である。規模は長軸1.5m、短軸1.0m、深さ30cmを測る。断面形態はすりばち状で、埋土は黒褐色土である。遺物は弥生土器が少量出土した。

出土遺物 (第41図)

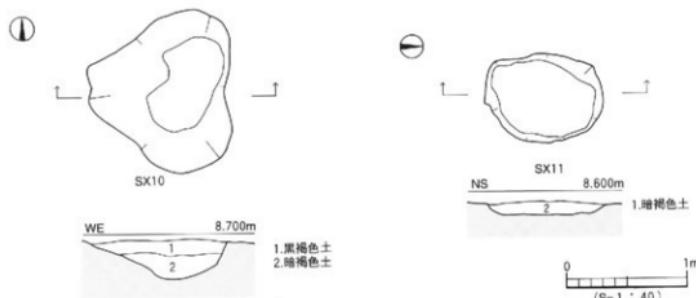
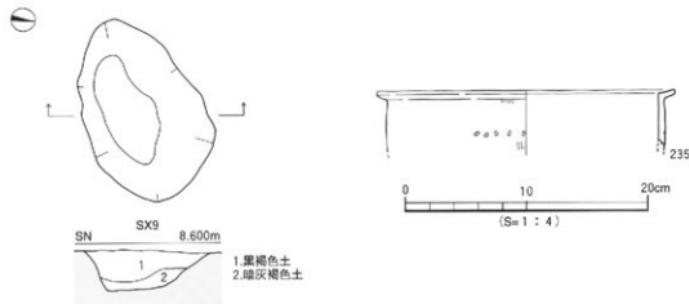
235は弥生土器の甕形土器の口縁部である。口縁部は折り曲げ胴上部に刺突文を施す。

時期：埋土から5世紀末と考えられる。

SX 10 (第41図)

調査区西のE 21区に位置し、SD 2に切られる。平面形態は楕円形である。規模は長軸1.3m、短軸1.0m、深さ30cmを測る。断面形態はすりばち状である。埋土は黒褐色土である。遺物は弥生土器が少量出土した。

時期：埋土から5世紀末と考えられる。



第41図 SX 9・10・11測量図及び出土遺物実測図

SX 11 (第41図)

調査区北西のC20区に位置する。平面形態は隅丸長方形である。規模は長軸1.7m、短軸0.7m、深さ10cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は暗褐色土である。遺物は弥生土器が2点出土した。

時期：埋土から5世紀末と考えられる。

SX 12 (第42図)

調査区西のF19区に位置しSD 9に切られる。平面形態は円形と思われる。規模は径1.1m、深さ23cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は黒褐色土である。遺物は弥生土器、土師器、須恵器が出土した。

出土遺物 (第42図)

236は壺蓋である。扁平な天井部と直立して接地する口縁部の端部はくぼむ。天井部と口縁部を分ける棱は断面三角形状である。

時期：出土遺物の形態と埋土から5世紀末と考えられる。

SX 13 (第43図)

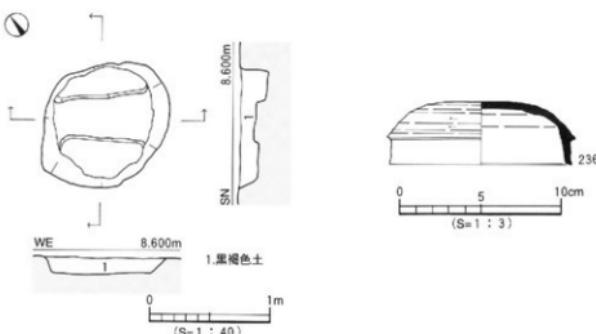
調査区西のE19区に位置し、SD 3に切られる。平面形態は梢円形である。規模は長軸1.3m、短軸1.2m、深さ23cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は黒褐色土である。遺物は弥生土器が出土した。

時期：埋土から5世紀末と考えられる。

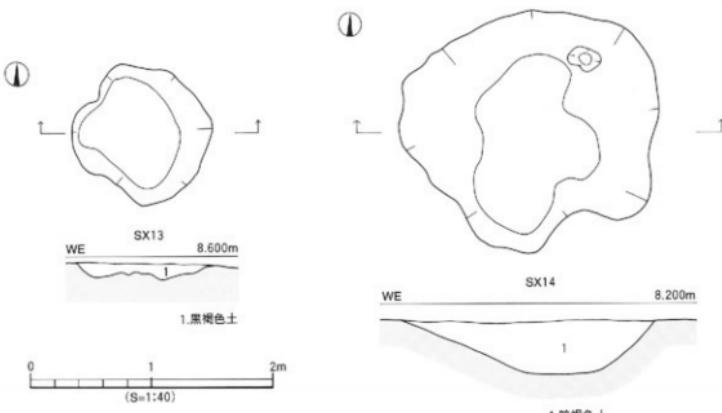
SX 14 (第43図)

調査区西のD・E16・17区に位置し、SR 1を切りSD 3に切られる。平面形態は円形である。規模は径2.1m、深さ60cmを測る。断面形態はすりばち状である。埋土は暗褐色土である。遺物は弥生土器、土師器、須恵器が少量出土した。

時期：出土した遺物と埋土から5世紀末と考えられる。



第42図 SX 12測量図及び出土遺物実測図



第43図 SX 13・14測量図

SX 15（第44図）

調査区西のC21区に位置し、SD 1・11に切られる。平面形態は円形である。規模は長軸2.3m、短軸2.0m、深さ60cmを測る。断面形態はすりばち状である。埋土は暗褐色土である。遺物は弥生土器、須恵器、土師器が出土した。

出土遺物（第44図）

237～240は土師器である。237・238は甕形土器の口縁部。237の口縁部は「く」の字状に折り曲げわざかに内湾する。端部は水平で「コ」の字状である。238は外傾する口縁部。端部は肥厚され丸味をもつ。239・240は高环形土器である。239は柱部から坏部にかけての残存である。240は「ハ」の字状に開く柱部である。241・242は須恵器である。241は環蓋。緩やかに丸く低い天井部と直立する口縁部とを分ける稜の断面は丸味のある三角形状である。242は壺形土器の口縁部。外面に凸帯文2条と波状文が3条残る。243・244は支脚形土器である。243は台形状で中実である。244は中空である。受部は「U」字状にカットされる。

時期：出土した遺物と埋土から5世紀末と考えられる。

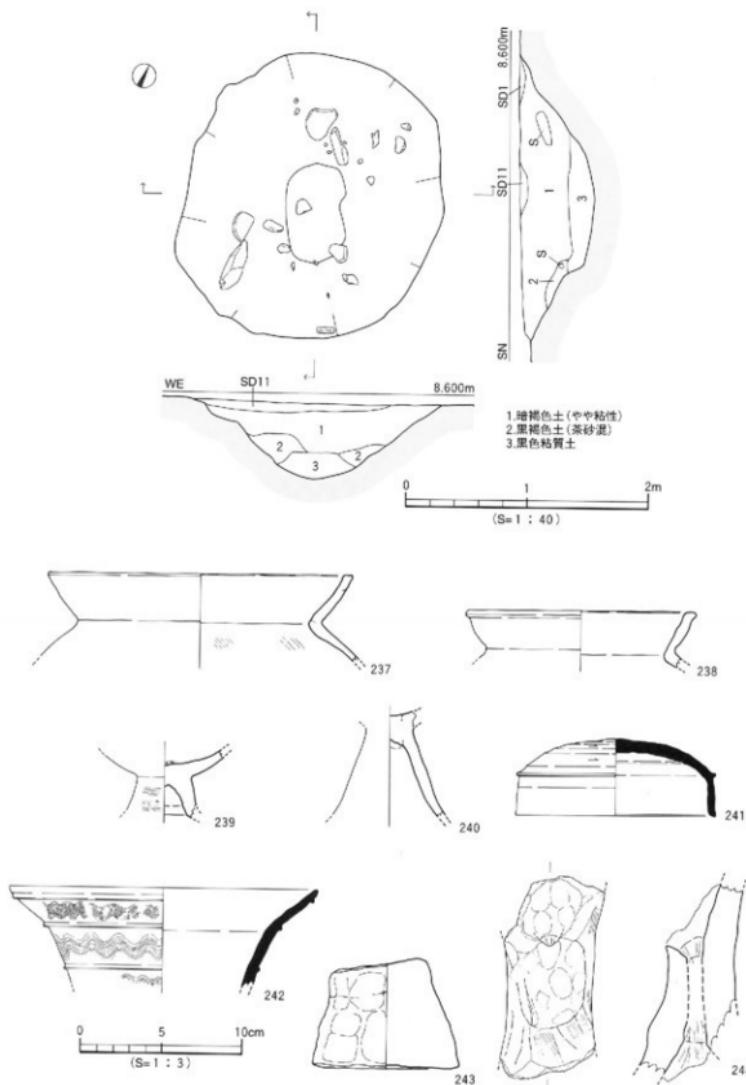
SX 16（第45図）

調査区西のC19・20区に位置する。平面形態は楕円形である。規模は長軸1.6m、短軸1.1m、深さ30cmを測る。断面形態はすりばち状である。埋土は暗褐色土である。遺物は弥生土器が少量出土した。

時期：埋土から5世紀末と考えられる。

SX 17（第45図）

調査区西のD22区に位置し、SD 2・5・6に切られる。平面形態は梢円形である。規模は長軸1.5m、短軸1.0m、深さ18cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は暗褐色土である。遺物は弥生土器と土師器が少量出土した。

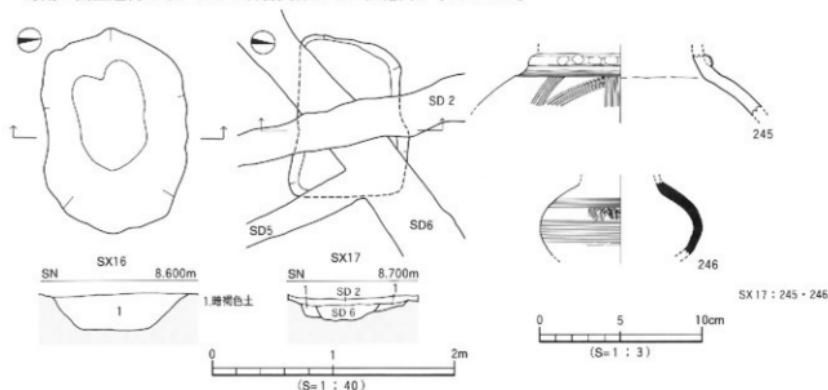


第44図 SX 15測量図及び出土遺物実測図

出土遺物（第45図）

245は弥生土器の壺形土器。頸部に押圧文のある凸帯文を1条、肩部に山形文を施す。246は壺の胸部片と思われる。外面に沈線文と波状文を施す。

時期：出土遺物とSD 6との切合関係から5世紀代と考えられる。



第45図 SX 16・17測量図及び出土遺物実測図

3. 古 代

古代の遺構は溝を5条検出した。

(1) 溝 (SD)

SD 1 (第46図)

調査区北西のC19～22区に位置し、SX 15とSD 6・11を切る東西方向の溝である。規模は検出長10m、幅0.3m、深さ5cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は灰黄褐色土である。遺物は弥生土器、土師器、須恵器が出土した。

出土遺物 (第46図)

247は壺蓋である。口縁部は「ハ」の字状に広がり接地する。端部はわずかにくぼむ。天井部と口縁部を分ける稜をもち、稜上部に工具痕と思われる細い溝が2条巡る。248は蓋。口縁部は直立気味に接地し端部はわずかにくぼむ。

時期：出土遺物と埋土から7世紀末と考えられる。

SD 2 (第47図)

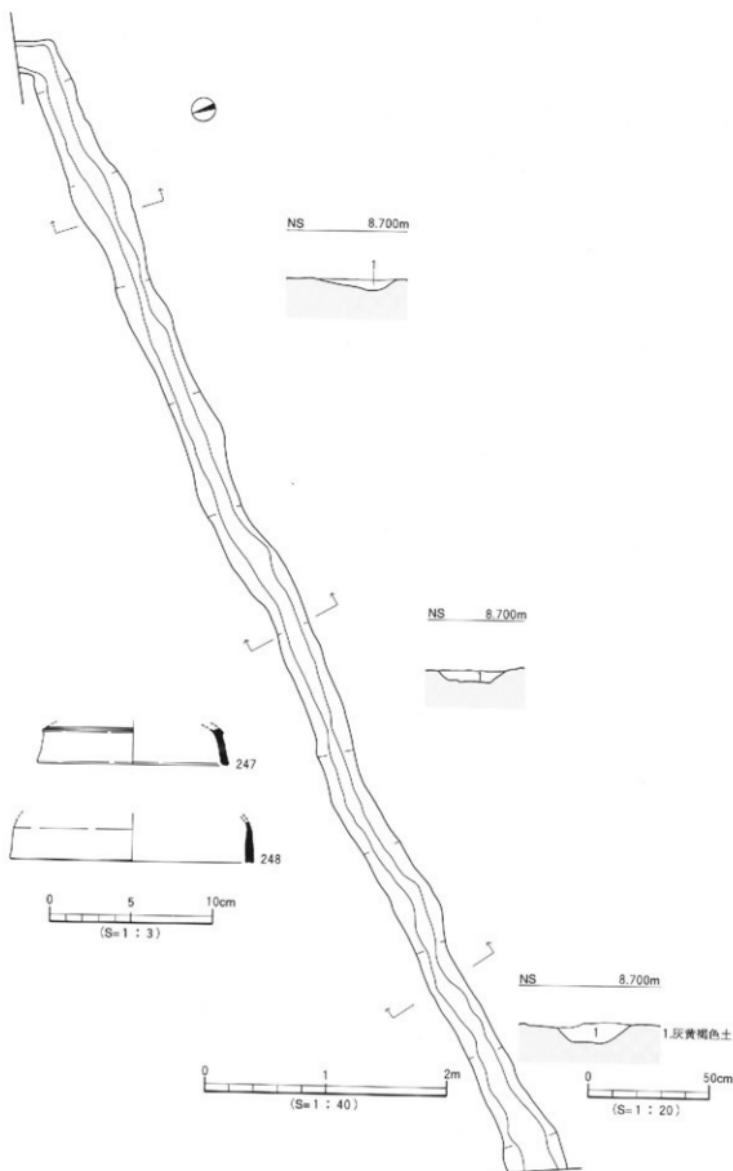
調査区西のC22～G20区に位置し、SD 6・11を切る。規模は検出長17m、幅0.4m、深さ4cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は灰黄褐色土である。遺物は弥生土器、土師器、須恵器が出土した。

出土遺物 (第47図)

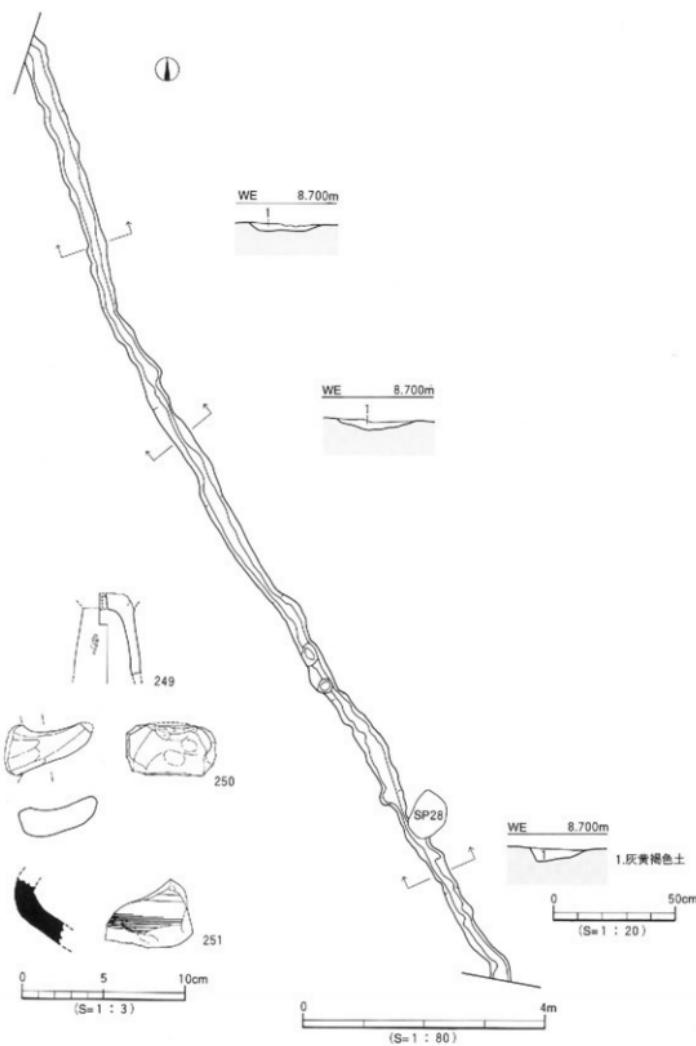
249・250は土師器。249は高環形土器の柱部である。内面上部に径0.25cmの穿孔が残る。250は壺形土器の把手部である。251は須恵器の壺形土器と思われる。

時期：埋土から7世紀末と考えられる。

遺構と遺物



第46図 SD 1測量図及び出土遺物実測図



第47図 SD 2 测量図及び出土遺物実測図

SD 3 (第48図)

調査区北から南西のD15～E21区に位置し、SR 1、SX 14を切る。規模は検出長25m、幅0.3m、深さ2cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は灰黄褐色土である。遺物は弥生土器、土師器、須恵器が出土した。

出土遺物 (第48図)

252は外反する口縁部。端部は下方に拡張する。外面に凸帯文1条と波状文を施す。

時期：出土遺物と埋土から7世紀末と考えられる。

SD 4 (第49図)

調査区南西のE22～G21区に位置する。規模は検出長16m、幅0.5m、深さ10cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は灰黄褐色土である。遺物は弥生土器、土師器、須恵器が出土した。

出土遺物 (第49図)

253は壺形土器の底部片である。わずかに上げ底である。254は支脚形土器の角部である。255は壺身である。底部の外端部付近に「ハ」の字状の高台が付く。脚端面はナデによりくぼむ。256は砾石錐である。小口に紐掛け用の挟りを打ち欠いて作っている。

時期：出土遺物と埋土から7世紀末と考えられる。

SD 12 (第50図)

調査区南西のF22区に位置する。規模は検出長2.5m、幅0.4m、深さ8cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は灰白色砂質土である。遺物は弥生土器、須恵器、石器が出土した。

出土遺物 (第50図)

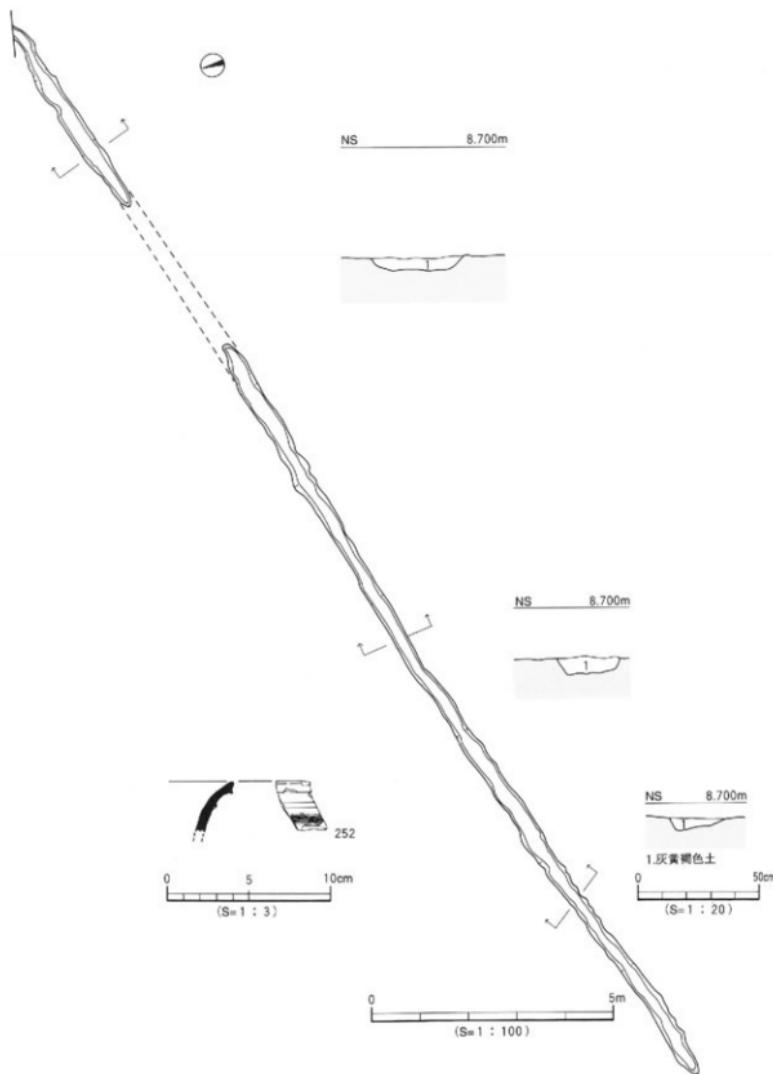
257・258は高壺形土器の柱部である。257は「ハ」の字状に開く柱部の上面にはヘラ状工具によるキザミ痕を施す。258は柱部上面にヘラ状工具によるキザミ痕と穿孔を施す。259は土錐である。

時期：出土遺物から7世紀末と考えられる。

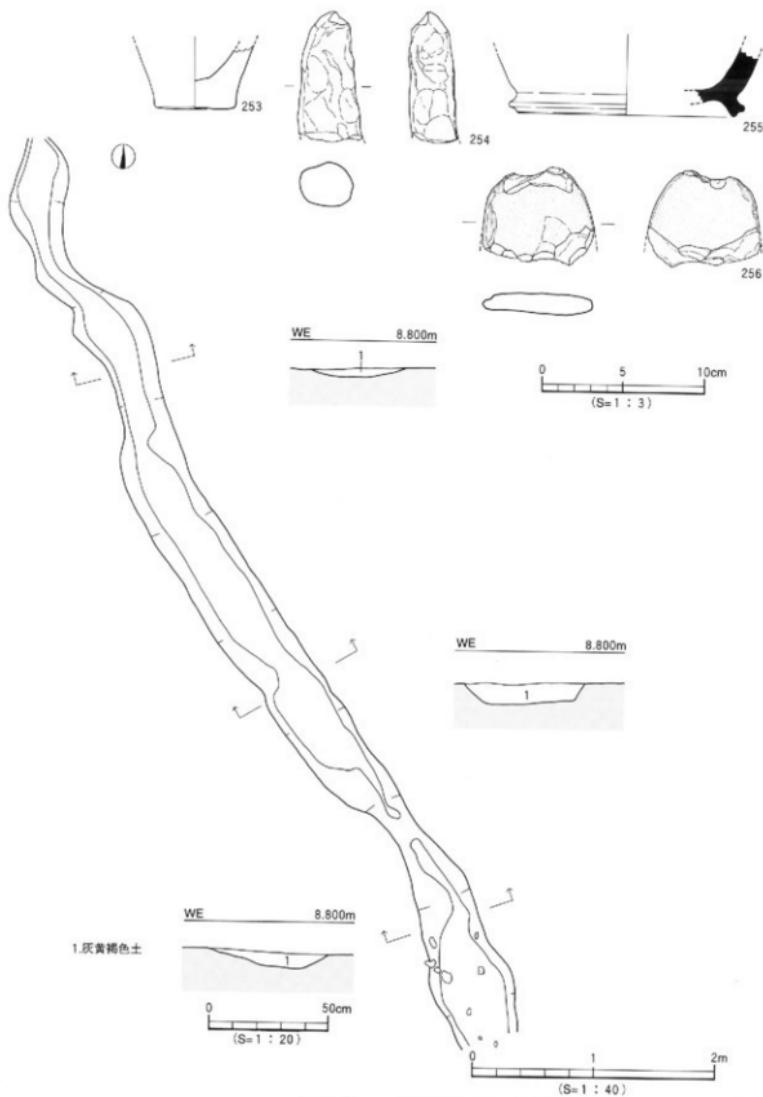
4. その他の出土遺物 (第51～53図)

土師器 (260～272) 260・261は壺形土器の口縁部。260は外傾する口縁部。端面は水平でわずかにくぼむ。261は外傾する口縁部。端部は端部手前で細くなり丸い。262～265は高壺形土器の柱部である。262は上部に穿孔がある。263は径1.2cmの円孔が3方向に残る。266・267は壺形土器の把手である。把手断面は266が円形で、267は楕円形である。268～272は高台付の壺形土器である。268・269の高台端部は丸く、270・271は細く丸い。272は短く「コ」の字状に丸い。

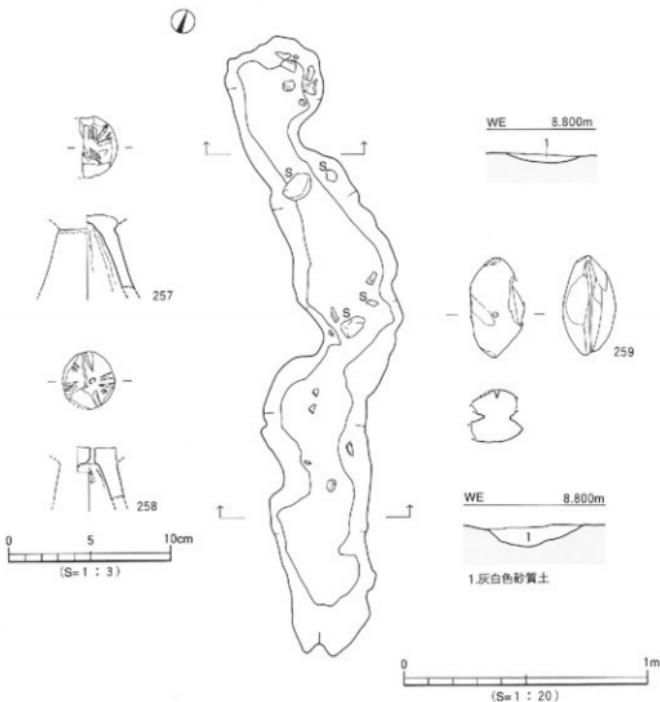
須恵器 (273～279) 273・274は壺蓋である。273は天井部がわずかにくぼみ、口縁部は直立気味に内湾し口端部はくぼむ。口縁部と天井部を分ける稜は断面三角形で明瞭である。274は緩やかな曲線を描く天井部とわずかに開く口縁部。口端面は内傾し内面に明瞭な稜をもつ。口縁部と天井部を分ける稜は断面三角形状である。275・276は壺身である。275は平坦な浅い底部に内傾し外反気味の口縁部。口端部は「コ」の字状に丸く端面は内傾する。受部は短く水平気味に伸びる。276は短く外上方に伸びる受部。口縁部は内傾し口端部は外方向にわずかに拡張される。端面はくぼむ。底部外面にヘラ記号が看取される。277・278は無蓋高壺の壺部片である。277の口縁部は外傾し内湾気味に立ち上がり端



第48図 SD 3 測量図及び出土遺物実測図



第49図 SD 4 測量図及び出土遺物実測図



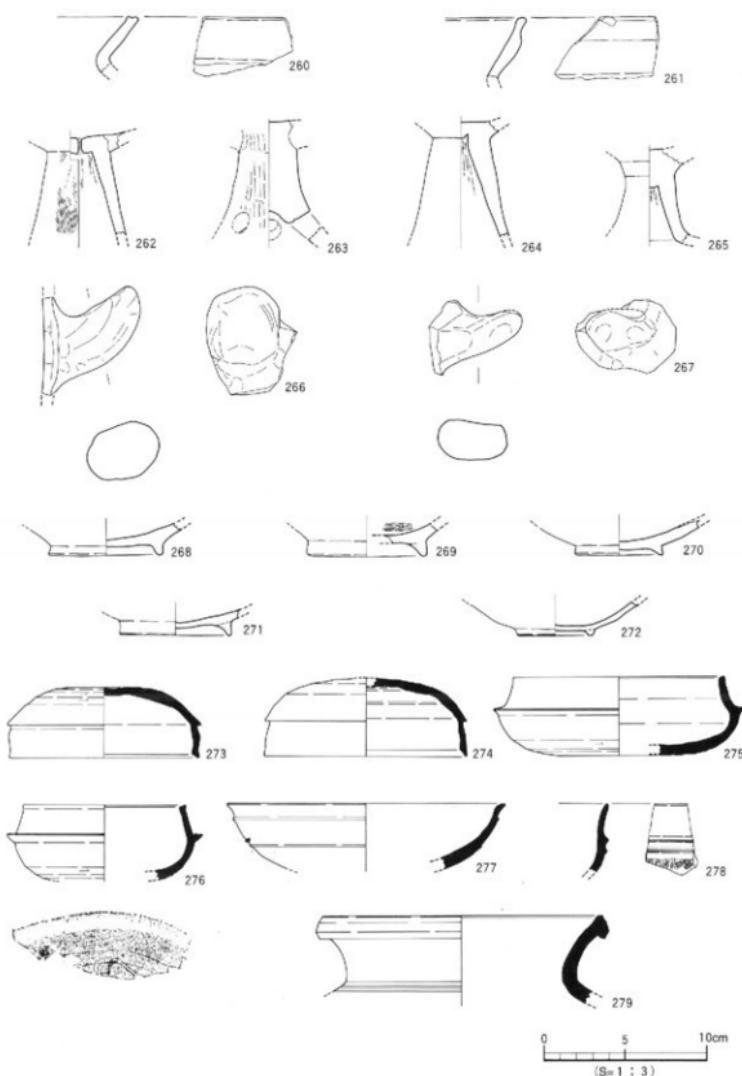
第50図 SD 12測量図及び出土遺物実測図

部はわずかに外反し尖り気味である。外面に明瞭な段が2ヶ所に見られる。278は直立気味で外反する口縁部の端部は丸い。外面に凸帯文2条と波状文を施す。内面に緑色の自然釉が付着する。279は壺形土器。外反する口縁部の端部は上下に拡張される。

弥生土器 (280~299) 280~285は壺形土器である。280~282は口縁部。280・281は外反する口縁部の端部は「コ」の字状である。282は貼付口縁で端部にキザミと胴上部に沈線文を施す。283~285は底部片。283は丸底、284・285は平底である。286~288は壺形土器の底部である。286・288は平底、287はわずかに上げ底。289~297は支脚形土器である。289・290は角状突起が付く形態である。291は受部を「U」字状にカットする形態である。292~294は角状の突起部である。295は低い台形状で1ヶ所に短い角状突起が付くと思われるが欠損している。296は底部を欠損しているが台形状と思われる。上面はくぼんでいる。297は台形状で突起部を欠損している。298は土鍤である。299は分銅形土製品である。線刻を施している。

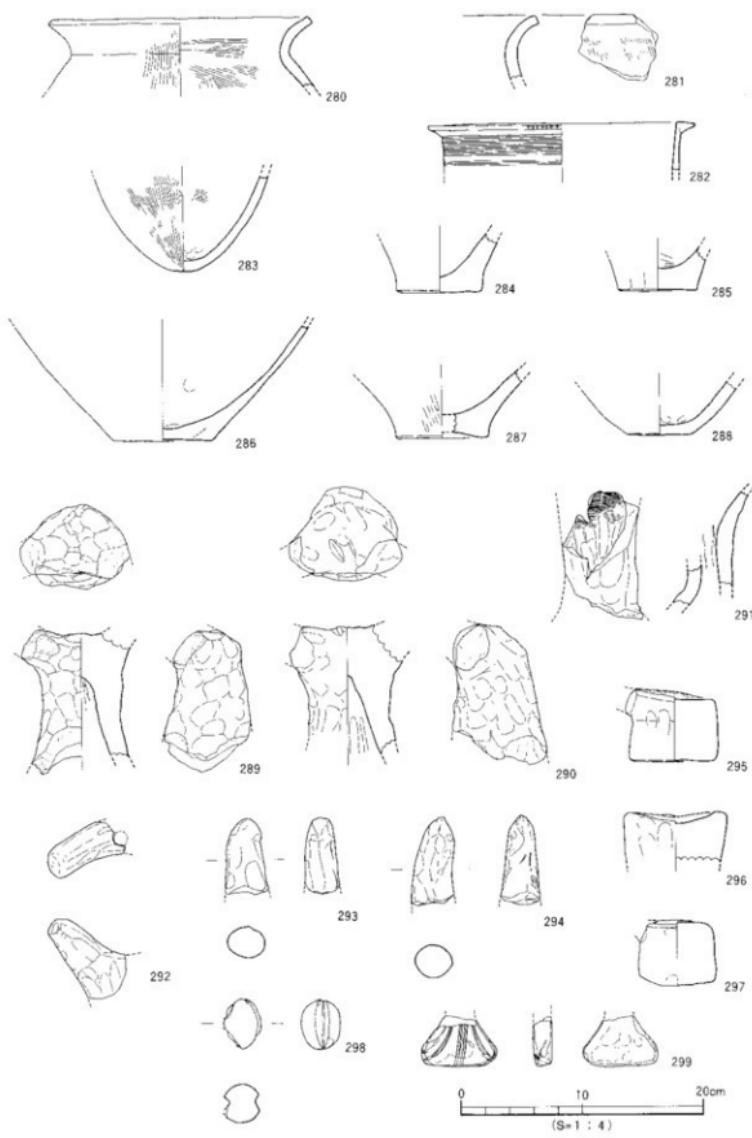
石製品 (300・301) 300は砥石である。よく使い込まれておりくぼみが顕著で線状の使用痕が残る。301は台石(凹石)である。両面に使用によるくぼみが顕著である。

装身具 (302・303) 302は白玉、303は管玉である。

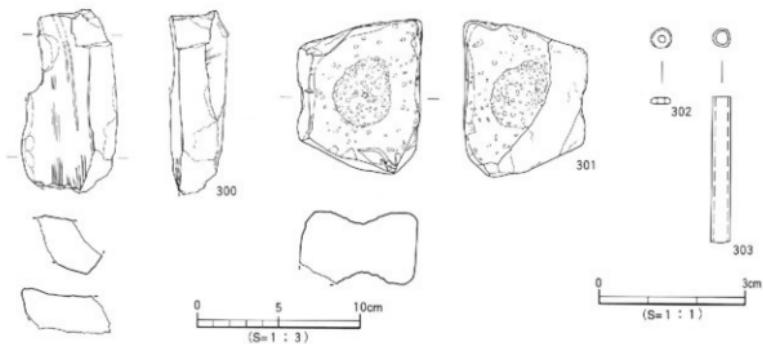


第51図 その他出土遺物実測図(1)

その他の遺物



第52図 その他出土遺物実測図(2)



第53図 その他出土遺物実測図(3)

遺構・遺物一覧 一凡例一

- (1) 以下の表は、本調査地検出の遺構・遺物の計測値及び観察一覧である。

遺構一覧は高尾が、遺物観察表は高尾・中村が作成した。

- (2) 遺物観察表の各掲載について。

法量欄 () : 復元推定値

形態・施文欄 土器の各部位名称を略記。

例) 口→口縁部、胴中→胸部中位、柱→柱部、胴底→胸部～底部。

胎土・焼成欄 胎土欄では混和剤を略記した。

例) 砂→砂粒、長→長石、石→石英、密→精製土。()中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例) 砂・長 (1~4)、多→「1~4 mm大の砂粒・長石を多く含む」である。

焼成欄の略記について。◎→良好、○→良、△→不良。

表1 自然流路一覧

流路 (SR)	地 区	断面形	規 模 (m) 長さ × 幅 × 深さ	方 向	埋 土	出土遺物	時 期	備 考
1 G 18~J 4 G 18~J 3			24×55×1.0	南北	灰褐色土 粘土質 泥炭土		5世紀前半	SD 3~SK 6・14, 7~14に切られ る。

表2 溝一覧

(1)

溝 (SO)	地 区	断面形	規 模 (m) 長さ × 幅 × 深さ	方 向	埋 土	出土遺物	時 期	備 考
1 C 19~22		皿状	10×0.3×0.05	西~東	灰褐色土 粘土質 泥炭土	浮生土 粘土質 泥炭土	7世紀末	S X 15、S D 6・11 を切る
2 C 22~G 20		皿状	17×0.4×0.04	北西~南東	灰褐色土 粘土質 泥炭土	浮生土 粘土質 泥炭土	7世紀末	S D 6・11を切る
3 D 15~E 21		皿状	25×0.3×0.02	西~東	灰褐色土 粘土質 泥炭土	浮生土 粘土質 泥炭土	7世紀末	S R 1、S X 14を 切る
4 E 22~G 21		皿状	16×0.5×0.1	北西~南東	灰褐色土 粘土質 泥炭土	浮生土 粘土質 泥炭土	7世紀末	
5 D 21		レンズ状	3.0×0.2×0.05	南~北	粘土質 泥炭土		5世紀末	S X 17を切る

遺構一覧

満一覧

(2)

番 (SD)	地 区	断面形	規 模 (m) 長さ × 幅 × 深さ	方 向	埋 土	出土遺物	時 期	備 考
6	B 20～D 22	レンズ状	1.1×0.6×0.12	南西～北東	暗褐色土 泥炭質	弥生土器 漆器	3世紀末	S X 17 を切る SD 1・2に切られる
7	C 20～E 19	レンズ状	5.0×0.3×0.03	南～北	暗褐色土 泥炭質	弥生土器 漆器	5世紀末	SD 6に切られる
8	C 18・19	皿状	3.6×0.5×0.08	東～西	暗褐色土		3世紀末	
9	F 18・19	皿状	5.2×0.3×0.07	西～東	褐色土	弥生土器 漆器	5世紀末	
10	D 17～F 19	レンズ状	3.5×0.6×0.2	南西～北東	褐色土	弥生土器 漆器	5世紀末	
11	B 20～C 22	レンズ状	8.5×0.5×0.13	南西～北東	茶褐色土 泥炭質	弥生土器 漆器	5世紀末	S X 15 を切る SD 1・2に切られる
12	F 22	レンズ状	2.5×0.4×0.08	北西～南東	灰白色砂質 泥炭質	弥生土器 漆器	7世紀末	

表3 土坑一覧

土坑 (SK)	地 区	平面形	断面形	規 模 (m) 長さ(長径)×幅(短径)×深さ	埋 土	出土遺物	時 期	備 考
1	I 3	円	逆台形状	2.7×2.7×0.55	暗褐色土		5世紀末	
2	I・J 3	円	レンズ状	1.3×1.3×0.34	暗褐色土	弥生土器	5世紀末	
6	D・E 15	不定	すりばら状	2.7×1.0×0.2	黑色粘質土	土師器	5世紀前半	SR 1を切る
7	F 14	楕円	「U」字状	0.7×0.55×0.45	黑色粘質土	土師器 (高环)	4世紀末～ 5世紀初期	SR 1の底から検出
14	E 16	楕円	すりばら状	2.0×1.8×0.9	黑色粘質土	土師器	5世紀前半	SR 1を切る

表4 性格不明遺構一覧

番地、 名稱 (SX)	地 区	平面形	断面形	規 模 (m) 長さ(長径)×幅(短径)×深さ	埋 土	出土遺物	時 期	備 考
1	J・K 2	円形	皿状	3.16×3.68×0.12	暗褐色土	弥生土器 土師器	5世紀末	東・南は調査区外に 近く
2	D 15・16	方形	レンズ状	2.64×1.88×0.27	黑色粘質土		5世紀末	SD 3に切られる
3	E・F 16	楕円形	レンズ状	2.8×1.54×0.18	暗褐色土		5世紀末	SD 10に切られる
4	G 19	円形	レンズ状	1.5×0.76×0.35	暗褐色土		5世紀末	
5	D 19	円形	レンズ状	1.9×1.9×0.2	暗褐色土	弥生土器	5世紀末	
6	C・D 18・19	円形	レンズ状	2.3×2.3×0.5	暗褐色土	弥生土器	5世紀末	
7	G 19	楕丸方形	皿状	1.4×1.1×0.06	暗褐色土	弥生土器	5世紀末	
8	D・E 21	楕円形	皿状	1.1×0.8×0.1	暗褐色土	弥生土器 土師器	5世紀末	
9	D・E 20	楕円形	すりばら状	1.5×1.0×0.3	暗褐色土	弥生土器 土師器	5世紀末	
10	E 21	楕円形	すりばら状	1.3×1.0×0.3	暗褐色土	弥生土器	5世紀末	SD 2に切られる
11	C 20	楕丸長方形	皿状	1.7×0.7×0.1	暗褐色土	弥生土器	5世紀末	
12	F 19	円形	皿状	1.1×1.1×0.23	暗褐色土	弥生土器	5世紀末	SD 9に切られる
13	E 19	楕円形	レンズ状	1.3×1.2×0.23	暗褐色土	弥生土器	5世紀末	SD 3に切られる
14	D・E 16・17	円形	すりばら状	0.1×2.1×0.6	暗褐色土		5世紀末	SR 1を切る
15	C 21	円形	すりばら状	2.3×2.0×0.6	暗褐色土	弥生土器 漆器	5世紀末	SD 1・IIに切られ る
16	C 19・20	楕円形	すりばら状	1.6×1.1×0.3	暗褐色土	弥生土器	5世紀末	
17	D 22	楕円形	皿状	1.5×1.0×0.18	暗褐色土	弥生土器 漆器	5世紀末	SD 2・5・6に切 られる

遺構と遺物

表5 SR1出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	開 築		(外側) 色調 (内面)	施 土 焼 成	備考	国版
				外 面	内 面				
1	甕	口径 15.6 底高 26.5	完形品。球形の体部に外傾する口縁部。口縁部は丸く丸めてある。	ハケ(10~11本/cm)→ナデ	②ハケ(10~11本/cm)→ナデ ④ケズリ	灰黄色 灰黄色	石・長(1~3) ○	F12・ 1区 黒斑	8
2	甕	口径(16.8) 底高 11.5	肩の張らない胴部に、外傾する口縁部を前後で外反する口縁部をもつ。口縁部は「コ」の字状で丸めをもつ。	②ヨコナデ ④ナデ上げ ⑤マツツ ⑥ケズリ	②ヨコナデ ④ナデ上げ ⑤マツツ ⑥ケズリ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~5) 金 ○	F12・ 1区	
3	甕	底高 17.2	肩の張らない丸味のある胴部に外傾する口縁部をもつ。内面にはケズリ痕が顕著である。	②ヨコナデ ④ハケ(11本/cm)→ナデ	②ヨコナデ ④ハケ(11本/cm)→ナデ ⑥ケズリ	乳灰黄色 乳灰黄色	石・長(1~3) ○	F12・ 1区 保付番	
4	甕	底高 17.5	球形の胴部に外傾する口縁部をもつ。内面にはケズリ痕が顕著である。	②ヨコナデ ④ナデ ⑤ハケ(一層ハケ 9本/cm)	②ナデ ④ケズリ ⑤ハケ	乳灰茶色 灰白色	石・長(1~4) ○	F12・ 1区 保付番	
5	甕	口径 15.1 底高 24.8	胴中央に最大径を割りわざかに長身形凹す。 口縁部は底部で「く」の字状に折れ曲がり外傾する。	②ハケ(4.4本/cm) ④ハケ(4.4本/cm) ⑤ハケ(4.4本/cm)	②ハケ(4本/cm) ④ケズリ	暗青灰色 暗青灰色	石・長(1~3) ○	F12・ 1区 保付番	8
6	甕	口径 14.8 底高 10.6	やや肩の張る胴部と外傾する口縁部をもち 口縁部はナデにより内側に記され口縁部はくぼむ。	②ヨコナデ ④ハケ(9本/cm) ⑤ナデ ⑥ナデ	②ヨコナデ ④ケズリ ⑤ナデ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) ○	17区	
7	豆	口径 13.0 底高 36.1	完形品。火葬の跡形な体部に直立する丸い 縁部をもつ口縁部は外反後、内側気味に上方に伸びる。	②ヨコナデ ④ハケ(6本/cm) ⑤ヨコナデ ⑥ハケ(5本/cm)	②ヨコナデ ④ナデ ⑤ハケ(ナデ) ⑥ケズリ	赤褐色・暗灰色 灰色	石・長(1~5) ○	F12・ 1区 黒斑	8
8	甕	口径 15.6 底高 22.5	完形品。球形の胴部に外傾する長い口縁部 をもつ。口縁部はばねばねで丸い。内面に粘土接合痕が顯著である。	ナデ	ナデ	灰黄色 暗灰褐色	石・長(1~2) ○	F7区 保付番	8
9	甕	口径(18.0) 底高 19.5	肩部から口縁部にかけての残存である。口縁部は外傾し中位で段をもつ口縁部は水平な面をもつ。	②ヨコナデ ④ハケ(5本/cm) ⑤ナデ ⑥ケズリ→ナデ	②ヨコナデ ④ナデ ⑤ハケ(ナデ) ⑥ケズリ	乳白色 灰黄色	石・長(1~2) ○	F7区	9
10	甕	口径(17.7) 底高 7.8	頭部から口縁部の残存である。口縁部はむさかに外反し口縫はナデによりくぼむ。	②ヨコナデ ④カキメ→内傾 ⑤ナデ ⑥マツツ	②ヨコナデ ④カキメ→内傾 ⑤ナデ ⑥マツツ	乳白色 乳白色	南 ○	F7区	
11	甕	口径(14.0) 底高 23.2	完形品。球形の胴部の最大径は頂中位むさかに上に丸む。口縁部はむさかに外反し口縁部は丸い。	①マツツ ④ハケ(5本/cm) ⑤ナデ	①ハケ(5本/cm) ④ナデ上げ ⑤ナデ	乳灰色 乳灰色	石・長(1~4) ○	F9区 保付番	9
12	甕	口径(20.0) 底高 22.4	口縁部から胴部の残存である。腹やかな曲線部をもつ。胴部に外傾する口縁部。口縁部はナデにより水平で広くなっている。	②ヨコナデ ④ナデ ⑤ミガキ	板ナデ	黄褐色 黄灰色	石・長(1~3) ○	G5区 保付番	
13	甕	底径 4.0 底高 8.5	丸味をもつ平底の底部。	ハケ(12~13本/cm) →ナデ	ハケ(12~13本/cm)→ナデ	灰黑色 暗灰色	石・長(1~6) ○	G5区 黒斑	
14	甕	口径 17.6 底高 2.7	口縁部はよく外反しよく上方方に立ち上がり、口縁部は丸く丸めで水平面をもつ。	板ナデ	ナデ	灰黄色 灰黄色	石・長(1~3) ○	G7区	9
15	甕	底径 8.0 底高 19.8	底部から胴部にかけての残存である。わずかに上げた底部と、外傾して立ち上がる胴部。	ナデ ④ミガキ	ミガキ	乳白色 乳白色	石・長(1~3) ○	H8区 黒斑	
16	甕	底径 6.7 底高 14.1	底部から胴部。わずかに七軒底の底部と、外傾して立ち上がる胴部。	ナデ ④ミガキ	ミガキ	暗灰茶色 乳白色	石(1~5) 長(1~2) ○	J5区 黒斑	
17	甕	口径(17.4) 底高 32.6	大腹品。やや肩の張る胴部は脚上部で最大径を測る。口縁部は「く」の字状に折り曲げて口縁部はなく丸味をもつ。	②ヨコナデ ④ハケ(7本/cm)→ナデ	②ヨコナデ ④ナデ	灰黑色 灰黑色	石・長(1) ○	J3区	9
18	甕	口径(18.8) 底高 8.3	口縁部は「く」の字状に折り曲げて口縁部はナデにより内傾する。	④マツツ ④ハケ(6本/cm)	マツツ マツツ	灰黄色 灰黄色	石・長(1~3) ○	J3区	
19	甕	口径(14.9) 底高 5.6	口縁部は「く」の字状に折り曲げて口縁部はなく丸味をもつ。	④マツツ ④ハケ(5本/cm)	マツツ	暗灰褐色 灰黄色	石・長(1~3) ○	J3区	

遺物観察表

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・底文	調整		(外觀) 色調 (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外 面	内 面				
20	甕	口径(16.6) 残高 4.5	「く」の字型に折り曲げる口縁部。口縁部はナゲにより内傾し面をもつ。	②ヨコナデ ③ハケ(6本/cm)	②ヨコナデ ④ナメツ	乳黃灰色 (一部暗灰色) 乳黃灰色	石・長(1) ○	J3区	
21	甕	口径(13.0) 残高 3.5	直立てて外反する口縁部。口縁部はナゲにより肥厚され丸味をもつ。	②ヨコナデ ③ヨコナデ→格子状タキ	ヨコナデ	乳灰茶色 乳灰色	石・長(1~2) ○	J3区	9
22	甕	残高 3.7	口縁部はわずかに内窪し口縁部はナゲにより内傾する。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳茶色 黃茶色	石・長(1~5) ○	J3区	
23	甕	口径 12.2 器高 19.1	完形品。球形の胴部。口縁部は直みがあり外傾する部分と直立する部分がある。	②マメツ ③ハケ(5本/cm) (6本/cm)→ナゲ	②マメツ ③ケズリ ④扣压痕	乳灰黄色 乳灰黄色	石・長(1~3) 金 ○	J3区	9
24	盆	口径 9.4 器高 11.9	小型品。球形の胴部。口縁部は直みがあり外傾する部分と直立する部分がある。	②ナゲ ③ハケ(8~9本/cm)→ナゲ	②ヨコナデ ④ナデ上げ	暗灰黄色 灰黄色	石・長(1~3) ○	J3区	10
25	甕	口径(7.6) 残高 7.9	小形品。直立気味に外反する口縁部。口縁部は丸味をもつ。内外面に指ナゲや指痕が見られる製土器である。	②ヨコナデ ③ハケ(5本/cm)	ナゲ	乳黃灰色 暗灰黄色	石・長(1~4) ○	J3区	10
26	両耳 甕	口径(16.2) 底径 10.3 残高 12.6	完形品。短く大きく広がる底部。底部は口縁部が外側に内窪する。外面に段をもつ。	マメツ	②ヨコナデ ③ハケ(6本/cm) ④ケズリ	灰黄色 灰黄色	石・長(1~2) ○	J3区 黒帯	10
27	両耳 甕	口径 15.3 底径 (8.3) 残高 11.8	光形品。外側に内窪しながら立ち上がる口縁部。口縁部は外反する。	②ヨコナデ ③ヨコナデ ④ヨコナデ ⑤ヨコナデ	②ヨコナデ ③ヨコナデ ④ヨコナデ ⑤ヨコナデ ⑥ヨコナデ	乳黃茶色 乳黃茶色	石・長(1) ○	J3区	10
28	甕	残高 4.6	折曲口縁。	マメツ	マメツ	茶色 茶色	石・長(1~3) ○	J3区	
29	甕	底径 6.4 残高 2.8	平底。	マメツ	マメツ	乳黃灰色 暗乳灰色	石・長(1~4) ○	J3区	
30	甕	底径 (6.4) 残高 11.2	外傾して立ち上がる副部。	ミガキ	ナゲ	乳黃灰色 黄灰色	石・長(1~4) ○	J3区 黒帯	
31	支脚	残高 12.7	角状突起が1ヶ残る。上部に貫通孔をもつ。	タタキ・ナゲ	綾り痕	乳黃茶色 黃灰色	石・長(1~3) ○	J3区	
32	甕	口径 15.8 残高 16.4	なだらかな曲線をもつ副部に外反する口縁部。口縁部は丸い。	②ヨコナデ ③ハケ(8本/cm) ④ケズリ	②ヨコナデ ③ナゲ	乳灰黄色 乳灰黄色	石・長(1) ○	J4区 黒帯	10
33	甕	口径 15.9 残高 11.3	わずかに外反する口縁部。口縁部は尖り気味に丸い。	①ハケ(5本/cm) →ヨコナデ ②ハケ(5本/cm)	①ハケ(5本/cm) ②ケズリ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~2) ○	H5・ 6区	10
34	甕	口径(15.2) 残高 7.5	外反する口縁部。口縁部は「コ」の字状で丸味をもつ。	②ヨコナデ ③マメツ	②ヨコナデ ③ケズリ?	灰茶色 灰茶色	石・長(1) 金 ○	HII区	
35	甕	口径(15.8) 残高 11.5	大きく外傾しわずかに内窪する口縁部。口縁部は「コ」の字状で丸味をもつ。	②ヨコナデ ③ハケ(7本/cm)	②ヨコナデ ③ナゲ ④ケズリ	乳黃茶色 灰黃白色	石・長(1~3) ○	F3区 黒帯	
36	甕	口径(15.0) 残高 2.8	外反する口縁部。口縁部は「コ」の字状で丸味をもつ。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~4) ○		
37	甕	残高 1.8	外反する口縁部。口縁部は「コ」の字状で丸味をもつ。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~2) ○		
38	甕	口径(12.0) 残高 10.8	球形の胴部に外傾する口縁部をもち口縁部は丸廻りする。	②ヨコナデ ③マメツ ④ハケ(7本/cm)	①ハケ(8本/cm) ④ナゲ	乳灰茶色 暗灰茶色	石・長(1~4) ○	田山区 黒帯	

遺構と遺物

SR 1 出土遺物観察表 土製品

(3)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		(外側) 色調 (内面)	粘 土 焼成	備考	国版
				外 面	内 面				
39	甕	口径(11.4) 残高 14.6	直立気味にわずかに外傾する口縁部の端部は少し気味に丸い。	ヨコナダ	ヨコナダ ④ナダ ⑤ケズリ	灰白色 灰白色	石・長(1~3) ○	F9区 焼付	
40	甕	口径(12.4) 残高 8.9	外傾する口縁部の端部は「コ」の字状で丸味をもつ。	ヨコナダ ④ハケ(4木/0.8cm)	ヨコナダ ④ナダ ⑤ケズリ→ナ ⑥ナダ	灰白色 灰白色	石・長(1~3) ○	F6区 焼付	
41	甕	口径(16.4) 残高 17.3	外傾する口縁部。口縁部は丸い。肩部に「メ」の字状のヘラ印記がある。	ヨコナダ ④ハケ(13本/cm)	ヨコナダ ④ナダ ケズリ	乳黃灰色 暗黃茶色	石・長(1) ○	F10区 焼付	10
42	甕	口径(18.4) 残高 5.5	腹やかな曲線の瓶部に外傾する口縁部。口縁部は水平気味に丸い。	ヨコナダ ④マツツ	ヨコナダ ④ナダ ⑤ヨコナダ ⑥マツツ	灰白色 灰白色	石・長(1~2) ○	F8区	
43	甕	口径(15.2) 残高 9.2	「く」の字状に折れ曲がる口縁部。口縁部は先端が尖りし丸い。	ヨコナダ ④ハケ→ナダ ⑤ハケ(9本/cm)	ヨコナダ ④ナダ ⑤ケズリ	乳灰茶色 新灰黒色	石・長(1~3) 金 ○	F1区 黒面	
44	甕	口径(17.0) 残高 3.9	外傾する口縁部。口縁部付近は細く仕上げている。	ヨコナダ	ヨコナダ	乳灰茶色 暗灰茶色	石・長(1~4) ○	F1区	
45	甕	口径(14.0) 残高 3.3	外傾する口縁部。口縁部手前はわずかに内凹気味で端部は丸い。	ヨコナダ	ヨコナダ マツツ	暗灰茶色 暗灰茶色	石・長(1) 金 ○	J4区	
46	甕	口径(15.7) 残高 4.5	外傾する口縁部はわずかに内凹気味で口縁部は丸い。	ヨコナダ ④ハケ(4~5本/cm)	ヨコナダ ④ハケ(8~9本/cm)→ナ	乳黃茶色 乳黃茶色	石・長(1) ○	F6区	
47	甕	口径(13.8) 残高 8.3	外傾しないずつに内凹気味の口縁部。口縁部は丸い。	ヨコナダ ④ハケ(6~8本/cm) ⑤ヨコナダ	ヨコナダ ④ハケ(4木/cm) ⑤ナダ上げ ⑥ナダ	灰白色 灰白色	石・長(1~4) ○	F10区 焼付	
48	甕	口径(12.0) 残高 18.2	口縁部は直線的に外傾し口縁部は「コ」の字状で丸味をもつ。	ヨコナダ ④ナダ ⑤ヨハケ(6本/cm) ⑥ナダ	ヨコナダ ④ハケ(6本/cm) ⑤ケズリ→ハケ (6本/cm)	乳灰茶色 乳灰色	石・長(1~3) ○	F10区 焼付	
49	甕	口径(14.2) 残高 18.6	口縁部は外傾して内凹する。口縁部は「コ」の字状で丸く口縁部は内傾する。	ナダ ④タキオ→ハケ (1木/cm)	ナダ ④タキオ ⑤ケズリ	暗灰黃色 灰黃色	石・長(1~2) ○	D1区 黒面	
50	甕	口径(13.0) 残高 14.3	縦形の瓶部に外傾する口縁部をもつ。口縁部は内凹に粘土を貼り付け内側に突出する。	ヨコナダ ④ハケ(1木/cm) ⑤ヨハケ(7本/cm)	ヨコナダ ④ナダ ⑤ヨハケ(7本/cm) ⑥ナダ	暗茶色 黑色	石・長(1~3) ○	D10区 黒面	
51	甕	口径(18.8) 残高 7.1	外傾する口縁部。口縁部は水平面をなしだすよりやくばむ。	ヨコナダ ④ハケ(5木/cm)	ヨコナダ ④ナダ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~4) ○	E16区	
52	甕	口径(16.1) 残高 9.7	口縁部は外傾し口縁部は内傾する。	ヨコナダ ④ハカ(7本/cm)	ヨコナダ ④ナダ	灰褐色 灰色	石・長(1~2) ○	G7区	
53	甕	口径(14.2) 残高 7.6	外傾する口縁部の端部は肥厚され水平気味に丸い。	ヨコナダ ④ナダ	ヨコナダ ④ナダ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~2) 金 ○	I1区	
54	甕	口径(17.6) 残高 5.3	口縁部は外傾し口縁部は肥厚され水平面をなしだすよりやくばむ。	ヨコナダ ④ナダ	ヨコナダ ④ナダ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2) ○	E16区	
55	甕	口径(13.9) 残高 4.8	「く」の字状の口縁部。口縁部は水平気味にわずかに内傾する。	ヨコナダ	ヨコナダ ④ナダ	乳灰茶色 (- 暗灰茶色) 乳灰茶色	石・長(1~2) ○	D10区	
56	甕	口径(17.8) 残高 4.9	外傾しわずかに内凹する口縁部。口縁部は水平気味にわずかに内傾する。	ヨコナダ ④ハケ(5木/cm)	ヨコナダ ④ナダ	乳茶色 乳黄茶色	石・長(1~2) ○		
57	甕	口径(17.6) 残高 3.8	口縁部は外傾しわずかに内凹する。 口縁部は水平気味にわずかに内傾する。	ヨコナダ	ヨコナダ ④ナダ	乳黄茶色 乳黄茶色	石・長(1~2) ○	E16区	

遺物観察表

(4)

SR 1出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調査		(外面) 色調 (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
58	甕	口径(16.1) 残高 4.7	口縁部は直立気味にわずかに内彎する。 口縁面は内側する面をもつ。	ヨコナデ	⑫ヨコナデ ⑬ナデ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) ○	D15K	
59	甕	口径(31.2) 残高 4.3	大型品。縁部は外傾して短く黒曲する。	ヨコナデ	⑫ヨコナデ ⑭マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) ○	C16K	
60	甕	口径(19.5) 残高 4.8	口縁部は外傾し口底部は水平な面をもちナデによりわずかにくぼむ。	⑫ヨコナデ ⑬ハケ(6~7 木/cm)	⑫ヨコナデ ⑭ナデ	乳灰茶色 (一部茶色) 乳灰茶色 (一部乳灰色)	石・長(1~2) ○	E16K	
61	甕	残高 4.4	口縁部はわずかに内彎し口底部は水平面をなし縁面はナデによりわずかにくぼむ。	ヨコナデ	⑫ヨコナデ ⑬ナデ	乳黃灰色 乳黃灰色	石・長(1~3) ○	J7区	
62	甕	口径(15.4) 残高 17.9	口縁部は外傾し内側して立ち上がる。口端面はナデによりくぼむ。	⑫ヨコナデ ⑬ナデ	⑪ナデ ⑫ケズリ→指 立ヌヌ ⑬ケズリ	灰褐色 灰褐色	石・長(1~5) ○	G15K	
63	甕	口径(14.2) 残高 8.2	口縁部は外傾し口縁部はナデにより上方に伸び外側に面をもつ。	⑫ヨコナデ ⑬ハケ(8~9 木/cm)+ナデ	⑫ナデ ⑬ケズリ	乳白色 乳白色	石・長(1~4) ○	G15K	
64	甕	残高 12.9	やや扁の張る胴部。内面にケズリ抜が頗著である。	⑫ヨコナデ ⑭マメツ	⑬ナデ ⑬ケズリ	灰色 暗灰色	石・長(1~3) ○	F10区 焼付青	
65	甕	残高 7.6	なだらかな肩部。	マメツ	ケズリ	乳黃茶色 乳黃灰色	石・長(1~4) ○	F8区	
66	甕	残高 12.2	丸形容の胴部。	ハケ(5~6 本/ cm)	ケズリ・板ナデ	黑色 (一部乳黄色) 乳灰色	石・長(1~3) ○	H7区 焼付青	
67	甕	残高 10.2	なだらかな肩部。	マメツ	マメツ	灰褐色 灰色	石・長(1~6) ○	G7区 焼付青	
68	甕	口径(14.8) 残高 9.7	肩の張る胴部に外反する口縁部。口縁部は先細りし丸み。	⑫ヨコナデ ハケ(9~10 本/ cm)	⑬マメツ ケズリ→ハケ(9 ~10 本/cm)	灰茶色 乳茶褐色	石・長(1~4) ○	F8K	
69	甕	口径(16.4) 残高 6.1	口縁部は稍高より直立気味に短く立ち上がり外反する。口縁部は丸い。	ナデ	⑫ナデ ケズリ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~7) ○	F8区	
70	甕	口径(15.9) 残高 6.4	口縁部は外傾し口縁部は「コ」の字状で丸味をもつ。颈部にナデによる段をもつ。器壁は厚い。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳茶色 乳黃茶色	石・長(1~6) ○	F11区	
71	甕	口径(16.4) 残高 5.7	外反する口縁部。口縁部は直をもわざかにくぼむ。	ハケ(8~10 本/ cm)→ヨコナデ	ヨコナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~4) ○	D16K	
72	甕	口径(13.8) 残高 4.4	口縁部は外傾し口縁部手前で外反する。	⑪ヨコナデ ハケ(6 本/cm)→ ヨコナデ	ハケ(6 本/cm)	黑色 乳灰黄色	石・長(1) 金 ○	H6区	
73	甕	口径(10.4) 器高 14.8	丸形容。球形の胴部に直立気味に立ち上がる口縁部。口縁部は丸い気味に丸い。	⑫ヨコナデ ハケ(5 本/cm)	ナデ	暗灰黄色 暗灰黄色	石・長(1~2) ○	E11区 黒	
74	甕	口径(8.4) 残高 5.5	長めの胴部に弱く屈曲する頭部と外傾する口縁部。口縁部は丸い。	下行タキ→ナ デ	ナデ	灰茶褐色 灰茶白色	石・長(1~5) ○	D14区	
75	甕	口径(9.0) 残高 6.7	口縁部は外傾し口縁部は尖り気味である。	⑪ハケ(5 本/cm) →ナデ ナデ	⑫ハケ(3 木/cm) →ナデ ケズリ	灰茶色 暗灰色	石・長(1) 金 ○	F11区	
76	甕	口径(31.0) 残高 15.0	口縁部は短く外傾したち黒折し直立気味に立ち上がる。 口縁部は「コ」の字状で丸味をもつ。	⑪健ナデ ハケ(7 本/cm)→ ナデ	⑫ハクリ ナデ	灰茶白色 灰茶白色	石・長(1~4) ○	F11区	

遺構と遺物

SR 1 出土遺物観察表 土製品

(5)

番号	種類	法量(cm)	形態・文面	調査		(外側) 色調 (内面)	胎土 焼成	備考	因数
				外面	内面				
77	壺	口径(21.0) 残高 5.7	口縁部は口唇下部で屈曲し外傾する。口端部は丸い。	マメツ	マメツ	乳白色 乳白色	石・長(1~2) ○	P8区	
78	壺	口径(18.0) 残高 6.8	口縁部は外傾し中位で屈折する。口端部は丸く、内側に肥厚される。	⑩ヨコナデ ハケ(4本/cm)	ナデ	灰茶色 乳灰黄色	石・長(1~3) ○	D15区 黒斑	
79	壺	口径(20.6) 残高 8.8	口縁部は大きく外反し口縁上位で屈曲し短く立ち上がる。	⑪ヨコナデ ハケ(6本/cm)→ ヨコナデ	⑫ヨコナデ ハケ(6本/cm)→ ヨコナデ	灰茶白色 灰茶白色	石・長(1~3) ○	E7区	
80	壺	口径(21.0) 残高 7.1	口縁部は強く外反し段をなして屈曲したのも外反気味に立ち上がる。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~6) ○	H7区	
81	高环	口径(18.0) 残高 5.1	環部。水平に伸びる口縁部。口縁部は外傾し口端部は尖り気味に丸い。	⑬ミガキ ヨコナデ ヨコケ	ミガキ (マメツが若しい)	乳白色 乳白色	石・長(1~2) 金 ○	F1区	
82	高环	口径(18.0) 残高 6.1	環部。口縁部は外傾し外側に種をもじ屈曲して立ち上がる。口端部は尖り気味である。	マメツ	⑭ヨコナデ マメツ	乳茶褐色 乳茶褐色	石・長(1~2) 金 ○	H7区 黒斑	
83	高环	口径(17.7) 残高 4.0	環部。水平な外底より高角して立ち上がる。口端部は丸い。	⑮ヨコナデ マメツ	⑯ヨコナデ マメツ	乳白色 乳白色	石・長(1~3) 金 ○	F1区	
84	高环	口径(10.4) 残高 8.0	柱部。環部は屈曲して広がる。底部は丸味をもち肥厚する。	マメツ	⑰マツ ケズリ ⑱マメツ	乳白色 乳白色	長(1) 青 ○	C17区	
85	高环	柱部 残高 4.8		マメツ	⑲絞り底 マメツ	乳白色 桜色	石・長(1~2) ○	H14区	
86	高环	柱部 残高 6.6		マメツ	マメツ	乳黄色 乳橙色	石・長(1~2) ○	GK	
87	高环	柱部 残高 5.2		マメツ	⑳絞り底 ナデ	乳茶色 乳茶灰色	長(1) 密 ○	F15区	
88	壺	口径(12.2) 残高 5.4	口縁部は丸底の底部より内凹しながら立ち上がる。口端部は尖り気味に丸い。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2) ○	H18区	
89	壺	残高 3.8	舌状の把手部。断面は圓丸長方形。	ハケ(6本/cm)→ ナデ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2) ○	E15区	
90	壺	残高 4.5	舌状の把手部。断面は丸い。	ナデ	マメツ	暗赤茶色 暗赤茶色	石・長(1~3) ○	D15区	
91	壺	残高 3.7	舌状の把手部。上部が溝状にくぼんでいる。	ナデ	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~2) ○	D14区	
92	壺	残高 3.5	棒状に水平に伸びる把手部。断面は丸い。	ナデ	指擦痕	黄茶白色 黄茶白色	石・長(1~3) ○	H5区 黒斑	
93	坪蓋	口径(13.9) 残高 5.0	丸い天井部。口縁部は直立気味に接地する。 口端部はくぼむ。	⑨円板ヘラケズ リ ⑩向転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	青 ○	E15区	
94	坪蓋	口径(12.2) 残高 4.4	丸い大井部。口縁部は直立気味に接地する。 口端部はくぼむ。	⑪回転ヘラケズ リ ⑫回転ナデ	回転ナデ	灰色 青灰色	青 ○	H15区	
95	坪蓋	口径(12.4) 残高 3.8	口縁部は内凹気味に接地する。口端部はくぼむ。	⑬回転ヘラケズ リ ⑭回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	青 ○	E15区	

遺物観察表

(6)

SR 1 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		(外観) 色調 (内面)	胎 土 焼 成	備考	因縁
				外 面	内 面				
96	环唇	口徑(12.2) 残高 3.0	口縁部はわずかに開き気味に接地する。口縁部はくぼむ。	回転ナメ	回転ナメ	青灰色 青灰色	密 ○	E15区	
97	环唇	口径(12.6) 残高 4.1	丸い大井部に開き気味の口縁部。口縁部はくぼむ。	⑤回転ヘラケズリ ⑥回転ナメ	回転ナメ	青灰色 青灰色	密 ○	E16区	
98	环唇	口徑(14.0) 残高 4.5	平坦な天井部に中央部がくぼむつまみが付く。口縁部は「ハ」の字形に広がり口縁部はくぼむ。	②上回転ナメ ③カキメ(6本/cm)→回転ナメ ④回転ナメ	回転ナメ	青灰色 青灰色	密 ○	E15区	
99	环唇	つまみ 3.25 残高 1.45	中央部がくぼむつまみ部である。	回転ナメ	回転ナメ	灰色 青灰色	密 ○	E15区	
100	环身	残高 4.4	内傾する口縁部。受部は無く水平気味に外上方に伸びる。	回転ナメ	回転ナメ	乳青灰色 灰色	密 ○	E15区	
101	环身	残高 2.4	直立気味に外反する口縁部。受部は水平に短く伸びる。	⑩回転ナメ 回転ヘラケズリ	回転ナメ	青灰色 青灰色	密 ○	F16区	
102	高环	口径(16.9) 残高 6.3	「ハ」の字形に広がる短い脚部に台形状の透かしを施す。	回転ナメ	回転ナメ	灰色 青灰色	密 ○	F15区	
103	罐	残高 5.6	肩の張る小形品。胴上半部に波線文2条と波状文を施す。	⑨回転ナメ ナメ	⑩上回転ナメ ナメ	青灰色 青灰色	密 ○	F15区	
104	罐	残高 6.5	胴上半部に波線文2条と波状文を施す。	回転ナメ	斜回転ナメ 指おさえ	青灰色 青灰色	密 ○	E16区 横付	
105	壺	口径 16.9 残高 13.0+8.6	口縁部は外反し口端部は上下に膨らむ。	⑪回転ナメ カキメ(7本/cm) ⑫透子タキメ(3本/cm)→回転ナメ	⑫回転ナメ ナメ、指おさえ	青灰色 青灰色	長(1~5) 密 ○	E15区	
106	壺	口径(16.4) 残高 7.8	口縁部は中位に段をもつ外傾する。口縁部はむずかに内傾し頸部中央部がわずかにくぼむ。	⑬回転ナメ カキメ(7~8本/cm)	回転ナメ	乳灰色 乳灰色	密 ○	E15区	
107	壺	口径(15.6) 残高 11.4	口縁部は外傾し口縁部は水平で中央部がわずかにくぼむ。	回転ナメ	回転ナメ	青灰色 青灰色	密 ○	E15区	
108	壺	口径(17.8) 残高 6.0	口縁部は外傾して外反し口縁部は下方に伸びる。口縁部下に1条の凸帯文、頸部に波状文を施す。	⑭回転ナメ カキメ(10本/cm)	回転ナメ	栗灰色 灰色	密 ○	C11区	
109	壺	口徑(15.95) 残高 5.8	外反する口縁部の頸部は上方に伸び先細りする。	⑮回転ナメ カキメ(10本/cm)	回転ナメ	青灰色 青灰色	密 ○	F16区	
110	壺	小量 11.7	小型の壺部。球形の胴中央部にカキメ調整を施す。	⑯カキメ(10本/cm) ⑰透子タキメ(3本/cm) ⑱透子タキメ ⑲回転ナメ	回転ナメ	灰色(暗青灰色) 青灰色	密 ○	E15区 横付	
111	唇台	残高 5.0	高环唇台の环部片である。	回転ナメ	回転ナメ	青灰色 青灰色	密 ○	D15区	
112	壺	口径(21.0) 残高 6.5	如意形口縁。	ハクリ	ナメ	茶黄色 (一部黒色) 灰茶白色	石・長(1~7) ○	H5区	
113	壺	口径(20.9) 残高 5.0	如意形口縁。	ハクリ	ナメ	茶色 (一部黒色) 灰色	石・長(1~3) ○	I1区	
114	壺	口径(18.4) 残高 4.7	如意形口縁。	④壺ハクリ ⑤ヨコナメ ⑥ナメ	ハクリ	乳灰色 乳黃色	石・長(1~3) ○	F15区	

遺構と遺物

SR 1 出土遺物観察表 土製品

(7)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		(外面) 色調 (内面)	施 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
115	甕	残高 4.8	如意形口縁。	①ヨコナデ ナデ	②ヨコナデ ミガキ	乳灰茶色 乳白色	石・長(1~3) ○	H8区	
116	甕	残高 4.1	如意形口縁。	マメツ	マメツ	灰素白色 灰素白色	石・長(1~3) ○		
117	甕	残高 1.8	如意形口縁。	②ヨコナデ ハケ(4~5 本/cm)→ヨコナデ ナデ	ナデ	黑灰色 茶色	石・長(1~3) ○	D15K	
118	甕	残高 1.7	如意形口縁。	マメツ	マメツ	乳白色 乳白色	石・長(1~3) ○	G15K	
119	甕	残高 3.1	如意形口縁。沈縞文と刻突文を施す。	マメツ	マメツ	乳白色 乳白色	石・長(1~3) ○	D15K	
120	甕	口径(17.5) 残高 5.1	折山口縁。	ハクリ マメツ	ハクリ マメツ	茶白色 素白色	石・長(1~4) ○	F15区	
121	甕	残高 3.8	折曲口縁。	ハクリ マメツ	ハクリ マメツ	乳白色 乳白色	石・長(1~3) ○	H5K	
122	甕	残高 2.9	折山口縁。	ハクリ マメツ	ハクリ マメツ	乳白色 乳白色	石・長(1~3) ○	H5区	
123	甕	残高 2.3	折曲口縁。肩上部に沈縞文を施す。	マメツ	マメツ	乳白色 乳白色	石・長(1~3) ○	H4K	
124	甕	口径(19.0) 残高 2.6	貼付口縁。肩上部にクシ状工具による沈 縞文を施す。	②マメツ ②ハケ(5 本/cm)	マメツ	素體白色 茶素白色	石・長(1~3) ○	F15区	
125	甕	口径(25.4) 残高 6.0	貼付口縁。	①ナデ マメツ、ハクリ	マメツ ハクリ	灰素白色 灰素白色	石・長(1~5) ○	I7K	
126	甕	口径(29.0) 残高 8.2	口縁部は断面三角形状の粘土を貼り付け る。	ナデ	ナデ	黒灰茶色 黒灰茶色	石・長(1~4) ○	H5区	
127	甕	口径(21.0) 残高 6.3	貼付口縁。口端部は「コ」の字状である。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 (一部黑色) 乳素色	石・長(1~3) ○	E15K	
128	甕	口径(22.4) 残高 3.2	貼付口縁。先端よりの口縁部。	②ヨコナデ マメツ	マメツ	素白色 素白色	石・長(1~4) ○	R15区	
129	甕	口径(16.3) 残高 8.5	貼付口縁。器壁はうすい。	②ヨコナデ マメツ	ミガキ	茶色 乳灰茶色	石・長(1~5) ○	G15K	
130	甕	残高 3.5	貼付口縁。	マメツ ハクリ	マメツ ハクリ	乳素色 乳灰茶色	石・長(1~4) ○		
131	甕	口径(12.6) 残高 3.6	貼付口縁。小型品。	④ナデ マメツ	マメツ	灰素白色 灰素白色	石・長(1~3) ○		
132	甕	残高 5.4	直口口縁。口部外面にキザミ。肩上部に 沈縞文と刻突文を施す。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石・長(1~3) ○	F15区	
133	甕	残高 4.0	口縁下部に凸槽を貼り付ける。	②ヨコナデ ハケ(5 本/cm)	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~2) ○	G15区	

遺物観察表

SR 1 出土遺物観察表 土製品

(8)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調査		(外側) 色調 (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外 面	内 面				
134	甕	残高 6.2	網部片。沈線文と刺突文を施す。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~4) ◎	G3区	
135	甕	口径 8.6 残高 11.4	短く外傾する口唇部。端部は丸い。	ハケ(6本/cm)	②ナデ ケズリ	淡灰褐色 淡灰褐色	石多 ◎	F13K	
136	甕	底径(11.4) 残高 6.8	外反する口縁部と直の張らない網部。口縁部は下方に拡張する。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~5) ◎	H1区	
137	甕	底径 6.2 残高 4.9	平底。	マメツ	マメツ	乳灰褐色 乳灰褐色	石・長(1~3) ○	H区 黒斑	
138	甕	底径 6.3 残高 4.2	平底。	ハケ(6本/cm) ②マメツ	ナデ	乳灰褐色 乳灰褐色	石・長(1~2) ◎	F14K	
139	甕	底径 (5.6) 残高 4.0	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	乳灰色 乳灰色	石・長(1~2) ◎	I7区	
140	甕	底径 (5.7) 残高 5.3	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	乳灰色 乳粗灰色	石・長(1~2) ◎	G4区 黒斑	
141	甕	底径 5.2 残高 4.2	わずかに上げ底。	ミガキ ②ナデ	ナデ	乳褐色 乳褐色	石・長(1~2) ◎	F15K	
142	甕	底径 6.8 残高 4.0	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	乳茶黄色 乳灰褐色	石・長(1~3) ○	F5区	
143	甕	底径 4.7 残高 5.4	わずかに上げ底。	ミガキ ②マメツ	マメツ	暗灰褐色 乳灰色	石・長(1~3) ◎	H3K	
144	甕	底径 4.8 残高 4.3	わずかに上げ底。	ハクリ ②ナデ	ナデ	乳灰褐色 灰色	石・長(1~3) ◎		
145	甕	底径 6.0 残高 4.3	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	乳灰褐色 乳灰褐色	石・長(1~3) ◎		
146	甕	底径 5.9 残高 2.2	わずかに上げ底。	マメツ ②ナデ	マメツ	墨灰色 墨灰色	石・長(1~2) ◎	D5区	
147	甕	底径 6.9 残高 2.4	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	墨灰色 灰色	石・長(1~4) ◎	G1區	
148	甕	底径 7.1 残高 1.7	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	乳灰色 乳灰色	石・長(1~4) ◎	D16K	
149	甕	底径 8.3 残高 3.0	上げ底。	マメツ	マメツ	茶白色 茶白色	石・長(1~5) ◎	I7区 黒斑	
150	甕	底径 (7.0) 残高 4.2	くびれの上げ底。	ハケ(10本/cm)→ ナデ ②マメツ	マメツ	乳茶褐色 乳灰茶褐色	石・長(1~5) ○		
151	甕	底径 5.5 残高 4.1	上げ底。	マメツ ②ナデ	マメツ	乳褐色 乳灰色	石・長(1~5) ◎	J4K	
152	甕	底径 (2.5) 残高 9.5	小さな上げ底。	ハケ(4~5.5cm) ②マメツ	マメツ	墨灰色・乳灰褐色 乳灰褐色	石・長(1~5) ◎	H7区	

遺構と遺物

SR 1 出土遺物観察表 土製品

(9)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調査		(外面) 色調 (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外 面	内 面				
153	壺	口径(15.8) 残高 15.9	外反する口縁部。肩部外面に凸帯文と沈線文、胴部に沈線文と木葉文を施す。	ヨコナデ ミガキ マツツ	ミガキ ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~4) ○	D14E	
154	壺	口径(18.4) 残高 4.7	外反する口縁部の肩部は「コ」の字状に丸い。	マツツ	マツツ	黄灰白色 黄灰白色	石・長(1~5) ○	F9E	
155	壺	口径(13.4) 残高 3.4	側面に外反する口縁部。	ヨコナデ ハケ(4~5 本/cm)→ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	白褐色 白褐色	石・長(1~4) ○	E16E	
156	壺	口径(18.0) 残高 1.8	外反し水平に開く口縁部。肩部はクシ状工具によるキザミを施す。	ヨコナデ	マツツ	灰茶白色 灰茶白色	石・長(1~3) ○	D14E	
157	壺	口径(26.0) 残高 2.5	大きく外反して開く口縁部。口端部に沈線文、下端部にキザミ、内面に2条の凸帯文を施す。	マツツ	マツツ	黄白色 黄白色	石・長(1~5) ○	F9E	
158	壺	口径 2.6	外反する口縁部。端面に沈線文とキザミ、内面に凸帯文が1条残る。	ヨコナデ ハケ(6~7 本/cm)	ハケ(6~7 本/cm)	灰茶白色 灰茶白色	石・長(1~3) ○	D14E	
159	壺	口径(18.8) 残高 3.3	外反する口縁部の肩部は下方に垂れる。端面に沈線文を施す。	ヨコナデ ハケ(8 本/cm) (12~13 本/cm)	ハケ(8 本/cm)	乳褐色・灰茶白色 灰白色	石・長(1~3) ○	D14E	
160	壺	口径(14.8) 残高 3.7	複合口縁の試掘品。内側する試掘部の外側に横・縦・斜めの3方向の沈線文を施す。	マツツ	マツツ	灰茶白色 灰茶白色	石・長(1~4) ○	H7E	
161	壺	残高 1.8	複合口縁。	ヨコナデ ハケ(5~6 本/cm)	ヨコナデ	乳灰茶色 乳灰色	石・長(1~3) ○	E4E	
162	壺	口径(8.4) 残高 3.8	直口口縁。わずかに外反する口縁部。端部下に凸帯文を貼り付け、凸帯縁部にキザミを施す。	マツツ	マツツ	茶白色 (一部黒色) 茶白色	石・長(1~3) ○	G14E	
163	壺	残高 5.4	肩部。沈線文と刺突文を施す。	ハケ(7 本/cm)	マツツ	乳灰茶色 灰茶白色	石・長(1~3) ○	E16E	
164	壺	残高 3.5	肩部。沈線文を施す。	マツツ	ナデ	乳灰茶色 灰茶白色	石・長(1~2) ○	D14E	
165	壺	底径 13.8 残高 11.6	平底の大型品。	マツツ	マツツ	灰色 乳黃灰色	石・長(1~4) ○	H6E	高麗
166	壺	底径(17.0) 残高 9.9	平底の大型品。	ナデ	ナデ	黑色 灰茶色	石・長(1~3) ○	D14E	
167	壺	底径 7.8 残高 6.9	平底。	ミガキ ヨコナデ	ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1~3) ○	F7E	
168	壺	底径 9.5 残高 6.4	平底。	マツツ	ナデ	灰白色 乳茶色	石・長(1~4) ○	G14E	
169	壺	底径 7.6 残高 5.6	平底。	ナデ	ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2) ○	H6E	高麗
170	壺	底径 6.0 残高 5.1	わずかに上げ底。	マツツ ハクリ	マツツ ハクリ	灰茶白色 灰茶白色	石・長(1~3) ○	H3E	
171	壺	底径(7.0) 残高 5.8	わずかに上げ底。	マツツ	マツツ	乳灰茶色 暗灰色	石・長(1~3) ○	E9E	

遺物観察表

SR 1 出土遺物観察表 土製品

(10)

番号	器種	法蓋(cm)	形態・施文	調査		(外面) 色膜 (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
172	壺	底径 16.7 残高 2.3	わずかに上げ底。	ナデ	ナデ	灰色 灰色	石・長(1~4) ◎	H4区	
173	壺	底径 5.3 残高 14.8	丸味のある底部。	タキ (3本/cm) →ハケ (10本/cm) ⑩タコ	ハケ (10本/cm) → ナデ	乳灰色 (一部黒色) 乳黃灰色	石・長(1~3) ◎	E12区	
174	壺	底径 3.8 残高 2.5	小さな平底。	ハケ (6本/cm) → ナデ	ハケ (6本/cm) → ナデ	乳茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) ◎	D13区	
175	鉢	口径 (25.0) 残高 4.8	直口口縁。底部は「コ」の字状に丸い。	⑩ヨコナデ ハケ (5~6本/cm)	ナデ	黒灰色 黒灰色	石・長(1~3) ◎	H4区	
176	鉢	残高 3.9	外反する口縁部。底部は「コ」の字状に丸い。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) ◎	H7区	
177	鉢	残高 3.0	外反する口縁部。端部付近で細くなる。	⑩ヨコナデ ココナデ	ナデ	黄灰白色 黄灰白色	石・長(1~3) ◎	H5区	
178	鉢	底径 1.5 残高 3.1	ボタン突起をもつ底部。	ハケ (20本/cm) → ナデ	マメツ	黒灰色 黒灰色	石・長(1~3) ◎	D13区	
179	高杯	口径 24.8 残高 8.2	环部。环部は水平に伸び、脚部は外反しながら立ち上がる。	⑩ヨコナデ ハケ → 2ガキ	ミガキ	黄灰色 (一部乳褐色) 黄灰色	長(1) ◎	H6区	
180	高杯	底径 (19.6) 残高 2.0	大きく広がる脚部。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石・長(1~3) ◎	E1K	
181	瓶	底径 (6.9) 残高 4.5	平底の底部に径 1.6 cm の穿孔。	マメツ	マメツ	乳褐色 乳褐色	石・長(1~3) ◎	H9区	
182	手取 チャコ	口径 5.6 器高 3.7	手程土器。	ナデ	ナデ	淡灰茶色 淡灰茶色	石・長(1~2) ◎	J5K	
183	支脚	底径 9.3 残高 10.5	中空の脚部。角部を欠損している。	ナデ 指おさえ	ナデ 指おさえ	乳灰黄色 灰色	石・長(1~5) ◎	F6区	
184	支脚	残高 10.0	中空の脚部。角部を欠損している。	ナデ 指おさえ	破り痕 ナデ	乳灰茶色 黑色	石・長(1~3) ◎	E15K	
185	支脚	残高 10.3	中空の脚部。わずかに角部が残る。	タタキ → ナデ	ナデ	灰茶白色 灰茶白色	石・長(1~4) ◎	E15K 断面	
186	支脚	残高 8.7	円筒状の体部。受部は「V」字状にカットする。	ナデ 指おさえ	ナデ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) ◎	F15区	
187	支脚	残高 7.7	小窓の円筒状の体部。受部は「U」字状と思われる。	ハケ (4本/cm)	ナデ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) ◎	F17区	
188	支脚	残高 8.8	崩れ「U」字状の受部より「ハ」の字状に広がる脚部。	ハケ (5~6本/cm) → ナデ 指おさえ	破り痕 ナデ	灰白色 灰米白色	石・長(1~3) ◎	D15区	
189	支脚	底径 10.4 残高 9.0	直立する脚部に大きく広がる脚部。	ナデ 指おさえ	ナデ ⑩ハケ (6本/cm)	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) ◎	E15区	
190	支脚	残高 4.3	上げ底の底部よりくびれて立ち上がる。	ハケ (6本/cm) → ナデ	ナデ	茶白色 茶白色	石・長(1~4) ◎	C15K	

遺構と遺物

SR 1 出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調査		(外)色調 (内)色調	胎土焼成	備考	図版
				外面	内面				
191	支脚	上部径6.0 底径 7.8 高さ 5.8	台形状で中空である。内外面はナメにより凹凸がある。	ナメ 指おさえ	ナメ 指おさえ	乳灰茶色 茶色	石・長(1~4) ○	D17区	
192	支脚	上部径7.0 底径 6.9 高さ 4.1	円盤状で下面がわずかにくぼむ。	ナメ 指おさえ		灰素白色 (一部灰色)	石・長(1~4) ○	F15区	

表 6 SR 1 出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
193	伐採斧	1/3	結晶片岩	9.7	5.1	2.4	225.78	E16区	
194	加工斧		結晶片岩	9.1	2.8	0.8	40.65	D17区	
195	スクレイパー		サヌカイト	3.3	3.8	0.65	9.68	E17区	
196	不明		結晶片岩	4.9	1.1	0.45	5.11	D15区	
197	礫石錐	1/2	結晶片岩	5.4	7.0	0.65	48.50	F17区	

表 7 SD 6 出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調査		(外)色調 (内)色調	胎土焼成	備考	図版
				外面	内面				
198	支脚	底径(7.1) 残高 7.6	裾部はわずかに開き上げ状況である。	ナメ 指おさえ	ナメ 指おさえ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~4) ○		
199	甕	口径(17.4) 残高 3.2	外傾する口縁部の脇部は丸い。	ナメ	ナメ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~2) ○		
200	甕	口径(15.0) 残高 5.5	緩やかな唇部に外傾する口縁部。口縁部は外側に画をもつ。	④ヨコナメ ハクリ	④ヨコナメ ハクリ	乳素色 乳素色	石・長(1~4) ○		
201	甕	口径(24.0) 残高 6.0	外傾する口縁部の裏面は水平気味に丸い。	ハクリ	ハクリ	灰素色 灰色・灰素色	石・長(1~3) ○		
202	高环	残高 4.7	柱部。	ミガキ 輪マツメ	絞り底 輪押F底	乳素色 乳素色	石・長(1~2) ○		
203	甕	口径(13.4) 残高 4.4	口縁部はわずかに内蔵し端部は尖り気味に丸い。	ハケ(6本/cm) マツメ・ハクリ著 しい	マツメ ハクリ	灰素色・灰褐色 灰色	石・長(1~3) ○		
204	甕	口径(13.4) 残高 3.8	口縁部は内傾する面をもつ。	マツメ	マツメ	乳素色 灰色	石・長(1~4) ○		
205	甕	口径(14.8) 残高 4.1	口縁部は内傾する面をもつ。	ナメ	ナメ	乳灰黄茶色 乳黄茶色	石・長(1~4) ○		
206	甕	残高 4.4	把手。複合的に突起するボタン状の粘土を貼り付ける。	ナメ		乳灰茶色	石・長(1~3) ○		
207	坪盖	口径(13.4) 残高 3.5	口縁部は内蔵気味に接地し朝面は内傾し段をもちくぼむ。	④不明 回転ヨコナメ	回転ヨコナメ	灰色 灰色	石 ○		

遺物観察表

SD 6 出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		(外面) 色調 (内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
208	坪壠	口徑(12.4) 残高 3.5	直立する口縁部の端部は尖り気味である。	④回転ヘラケズ リ 回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	灰色 灰褐色	密 ○		
209	坪壠	口徑(12.8) 残高 3.8	直立気味に接地する口縁部の端部はくぼむ。	⑤回転ヘラケズ リ 回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	灰色 灰褐色	密 ○		
210	坪壠	口徑(13.0) 残高 4.1	口縁部はわずかに開き端面は内傾しわずかにくぼむ。	⑥回転ヘラケズ リ 回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	灰色 灰褐色	長(1) 密 ○		
211	塊	口径(9.6) 残高 4.5	口縁部は内調気味に立ち上がり段をもち外反する。外間に内調文2条と波状文を施す。	回転ヨコナデ	自然附着の為 不明	灰色 灰褐色	密 ○	附着	

表8 SD 7 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		(外面) 色調 (内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
212	高環	残高 4.5	柱部。	ハケ(5本/cm)→ ナデ	柱部ナデ ケズリ	乳白色 乳系色	石・長(1~2) ○		
213	坪壠	口徑(11.6) 残高 4.25	低い天井部に直立気味に接地する口縁部。 端面は内傾しくぼむ。	④回転ヘラケズ リ 回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	古灰色 青灰色	長(1) 密 ○		
214	坪壠	口径(11.6) 残高 3.5	丸座の低天井部にわずかに開く口縁部の 端部はくぼむ。	回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	灰色 灰褐色	長(1~2) 密 ○		

表9 SD 9 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		(外面) 色調 (内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
215	坪壠	口径(11.4) 残高 2.9	短く水平に伸びる受部に内傾して立ち上 がる口縁部。口縁部はくぼむ。	回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	灰色 灰褐色	長(1) 密 ○	附着	

表10 SK 6 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		(外面) 色調 (内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
216	壇	口径(18.6) 残高 6.9	口縁部は外傾し中央で折れ曲がり立ち上 がる。端部内面はナデにより肥厚される。	ヨコナデ ナデ	⑩ヨコナデ ナデ	乳黄灰茶色 乳黄灰色	石・長(1~3) ○		
217	塊	口径 11.3 器高 5.4	完形品。底部は丸く口縁部は「コ」の字状に 丸い。	①ナデ ハケ(マツメが苦 しい)	ナデ	乳灰黄色 乳黄灰茶色	石・長(1~3) ○		
218	塊	口径 11.3 器高 5.2	平たい底面の中央部がわずかにくぼむ。口 縁部は内傾し端部はわずかに外反しない。 完形品。	⑫ヨコナデ ⑬ハケ	⑪ヨコナデ ナデ	乳糖灰褐色 乳糖灰褐色	石・長(1~3) ○		
219	壇	口径 10.8 器高 5.9	口縁部は内傾して立ち上り口縁部は外反し 丸い。内面にへら状工具による長いナデが 放射状に伸びる。	⑭ヨコナデ マツメ	⑮ヨコナデ ナデ	乳糖灰褐色 褐色	石・長(1~2) ○	黒斑	
220	塊	口径 12.5 器高 5.8	凹内のあら底部から内傾して立ち上る口縁部。 端部はナデにより外方側にわずかに 伸びる。	⑯ヨコナデ ハケ(5本/cm)	⑰ヨコナデ ナデ	褐色 褐色	石・長(1~4) ○		
221	塊	口径 13.1 器高 5.5	丸い底部に内傾して立ち上る口縁部。端 部は外反しナデにより先細りし丸い。	⑱ナデ ケズリ→ナデ	⑲板ナデ・ヨコ ナデ	灰茶褐色 乳黄褐色	石・長(1~2) ○		
222	塊	口径 11.9 器高 5.6	丸い底部より外傾して立ち上がり口縁部は 大きく外反する。	ナデ	⑳ヨコナデ 押汗痕	乳黄褐色 灰褐色	石・長(1) 金 ○	黒斑	
223	塊	口径(12.0) 器高 6.0	丸い底部に外反して立ち上がる口縁部。端 部は先細りし外反する。	ナデ (マツメが苦 しい)	ナデ	乳黄茶色 乳茶褐色	石・長(1~2) ○		

遺構と遺物

SK 6 出土遺物觀察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		(外側) 色刷 (内面)	胎 土 焼 成	備考	回数
				外 面	内 面				
224	瓶	口徑 15.5 高さ 6.5	丸い底部にわずかに外反する口縁部。端部は先削りし丸い。	⑫ヨコナデ ⑬ヨコナデ (マツメが剥がしている)	ナデ	乳灰黃茶色 (一部暗褐色) 乳灰黃茶色	石・黄(1~2) ◎		
225	瓶	11径 27.6 底径 11.1 高さ 28.6	わずかに丸い底部に外傾する脚部。上部は若干外反する。口縁部は「コ」の字状である。	⑪ハケ(7本/cm) ⑫ヨコナデ ⑬ヨコナデ ⑭ハケ(7本/cm) ⑮ヨコナデ ⑯ヨコナデ ⑰ヨコナデ ⑱ヨコナデ	②ハサミ(7本/cm) ④ヨコナデ ⑤ヨコナデ ⑦ヨコナデ ⑨ヨコナデ ⑩ヨコナデ ⑪ヨコナデ ⑯ヨコナデ	乳程茶色・乳灰 色 乳灰 色 乳灰 色	石・共(1) ◎		
226	壺	底径(7.8) 残高 5.5	厚みのある底部。	ナデ	マメツ ⑮ナデ	乳程灰色 乳程灰色	石・共(1~4) ◎	黒斑	

表11 SK 7 出土遺物觀察表 土製品

番号	鉢種	法量(cm)	形態・施文	調整		(外側) 色調 (内側)	植土 焼成	備考	因版
				外面	内面				
227	高壺	口径 30.2 高さ 12.2	大型品。外側は外傾しわざかに内済し端部手前で外反する。	四角形 外側は斜め 内側は直角 底付近は内側 底付近は外側	四角形 内側は斜め 外側は直角 底付近は外側 底付近は内側	乳白色 乳茶色	石灰(1~5) ◎		

表12 SK 14出土遺物觀察表 土製品

表13 SK 2 出土遺物觀察表 土製品

番号	群種	法線(cm)	形態・施文	調整		(外面) 色調 (内面)	胎土 焼成	備考	因版
				外 面	内 面				
233	栗	底径 7.0 残高 3.5	くびれの上げ底。	ミガキ ◎マツツ	マツツ	乳灰茶色 茶色	石具(1~5) ◎		

表14 SX 5 出土遺物觀察表 土製品

番号	器種	油量(cm)	形態・施文	調整		(外面) 色調 (内面)	触土 焼成	備考	因版
				外面	内面				
334	燒	底径 6.2 残高 4.6	上げ底。	マメツ	マメツ	乳灰褐色 乳灰棕色	右・長(1~4) ◎		

表15 SX 9 出土遺物觀察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	鶴 鰐		(外面) 色調 (内面)	植 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
235	甌	口徑24.6 底高 5.0	口縁部は折り曲げ鶴上部に刻文を施す。	マツツ わずかにハグ(7 本/cm)	マツツ	茶褐色 黄白色-茶褐色	石-長(1~4) ○		

遺物観察表

表16 SX 12出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		(外側) 色調 (内面)	施土 焼成	備考	因版
				外 面	内 面				
236	环齿	口径 11.1 残高 3.8	扁平な天井部と直立して接地するU縫部。 口縫部はくぼむ。	⑤回転ヘラケズ リ 回転ヨコナデ	⑤ナデ 回転ヨコナデ	灰白色 灰白色	石(1~2) 石 ○		

表17 SX 15出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		(外側) 色調 (内面)	施土 焼成	備考	因版
				外 面	内 面				
237	甕	口径(18.8) 残高 3.3	口縫部は「く」の字状に折れ曲がりわずかに内尚する。	⑤ヨコナデ ハケ(6~7本/cm)→ヨコナデ	⑤マツメ ハケ(4~5本/cm)→ナデ	黄灰白色 黄灰白色	石・長(1~3) ○		
238	甕	口径(13.9) 残高 3.4	外縁する口縫部。端部は肥厚され丸味をもつ。	ナデ	ナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1) ○		
239	高环	残高 4.5	柱部からU縫部。	⑥ヨコナデ ハケ(9本/cm)ナデ	⑥ヨコナデ (一部ハケ 9本/cm)ナデ	黄茶山色 黄茶白色	石・長(1~4) ○		
240	高环	残高 6.5	「ハ」の字状に開く柱部。	マメツ	ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ○		
241	坏置	口径(12.2) 残高 4.7	天井部は極やかに丸く低い。口縫部は直立する。	⑤回転ヘラケズ リ 回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	青灰白色 灰紫色	石・長(1~2) 石 ○		
242	甕	口径(18.8) 残高 6.1	外面に凸凹文2条と波状文が3条残る。	回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	灰色 (一部灰白色) 灰色	密 ○		
243	支脚	上部径 5.8 底径 9.0 残高 6.7	台形状で中実である。	ナデ 指おさえ		乳灰茶色	石・長(1~4) ○		
244	支脚	残高 11.8	中空。底部は「U」字状。	ナデ 一部ハケ(6本/cm)	綴り痕	灰白色 灰白色	石・長(1~7) ○		

表18 SX 17出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		(外側) 色調 (内面)	施土 焼成	備考	因版
				外 面	内 面				
245	甕	残高 3.8	底部に押印文のある凸凹文1条。頂部に山形文を施す。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石・長(1~4) ○		黒面
246	甕	残高 4.5	沈線文と波状文を施す。	⑤回転ヨコナデ カキメ(8本/cm) ナデ	回転ヨコナデ	灰色 灰色	密 ○		

表19 SD 1出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		(外側) 色調 (内面)	施土 焼成	備考	因版
				外 面	内 面				
247	坏置	口径(11.8) 残高 2.3	「ハ」の字状に広がり接地するU縫部。	回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	青灰色 古灰色	長(2) 密 ○		
248	甕	口径(15.0) 残高 2.5	口縫部は墨色気味に接地し端部はわずかにくぼむ。	回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	灰色 灰色	密 ○		

表20 SD 2出土遺物観察表 土製品 (1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		(外側) 色調 (内面)	施土 焼成	備考	因版
				外 面	内 面				
249	高环	残高 5.0	柱部。内面上部に2.5mmの穿孔が残る。	ハケ(8本/cm) ナデ	ナデ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1) 石 ○		

遺構と遺物

SD 2 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		(外顔) 色調 (内顔)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
250	瓶	残高 3.2	把手部。	ナデ	ナデ	暗茶色 暗茶色	右・長(1~2) ◎		
251	壺	残高 4.1	外面部にカキメが残る。	④ナデ カキメ(5木/cm)	回転ヨコナデ	乳状紫色 灰色	長(1) 密 ◎		

表21 SD 3 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		(外顔) 色調 (内顔)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
252	壺	残高 3.1	外反するU脚部。底部は下方に拡張する。外面部に凸面文1条と施文状を残す。	回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	灰色 灰色	密 ◎		

表22 SD 4 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		(外顔) 色調 (内顔)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
253	甕	底径(4.8) 残高 4.0	上げ底。	マメツ	マメツ	乳赤茶色 乳赤茶色	右・長(1~2) ◎		
254	支脚	残高 8.0	角部。	ナデ		乳灰橙色	石・長(1~3) ◎		
255	高台 付环	底径(13.2) 残高 4.3	底部の外縁部付近に「ハ」の字状の高台が付く。	回転ヘラケズリ ④回転ヨコナ デ	回転ヨコナデ	灰白色 灰白色	右・長(1~2) ◎		

表23 SD 4 出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残 存	材 質	法 量				備 考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(kg)		
256	砂石錐	1/2	結晶片岩	6.0	6.8	1.3	82.76		

表24 SD 12出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		(外顔) 色調 (内顔)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
257	高环	残高 4.7	「ハ」の字状に開く柱部。上面にはヘラ状工具によるキザミを施す。	マメツ	絞り痕	乳茶色 乳茶色	右・長(1~2) ◎		
258	高环	残高 3.3	柱部。上面にヘラ状工具によるキザミと穿孔を施収する。	マメツ	絞り痕+ヨコナ デ	乳茶色 乳茶色	長(1) ◎		
259	土鍵	長さ 6.1 幅 3.2 厚さ 3.2	有肩薄伏土鍵。	ナデ		乳黃茶色	右・長(1~2) ◎	重さ 34.00 kg	

表25 その他出土遺物観察表 土製品 (1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		(外顔) 色調 (内顔)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
260	甕	残高 4.4	口縁部は外傾し底部は水平でわずかにくぼむ。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳黄茶色 乳黄茶色	右・長(1~3) ◎		
261	甕	残高 3.8	I.I縫部は外傾し端部前面で細くなり丸い。	ヨコナデ	マメツ	暗灰黄色 灰黄色	右・長(1~2) ◎		
262	高环	残高 6.4	柱部。	ハケ(12~13本/ cm)	回転ナデ 絞り痕	乳茶色 乳茶色	右・長(1) ◎		
263	高环	残高 7.6	柱部。	ミガキ	④ミガキ ナデ	乳茶色 乳茶色	右・長(1~3) ◎		

遺物観察表

(2)

その他出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・北文	調整		(外観) 色調 (内面)	胎土 成形	備考	同類
				外面	内面				
264	萬環	残高 7.1	柱部。	マメツ	④凹テグ ⑤凸突起 ⑥ココナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1)	◎	
265	萬环	残高 5.9	柱部。	マメツ	④凹テグ 突起	米色・黃茶色 黃茶色	石・長(1~2)	◎	
266	盤	残高 6.7	把手。断面円形。	ナデ	マメツ	乳褐色 暗灰色	石・長(1)	◎	
267	盤	残高 4.5	把手。断面円形。	ナデ	ナデ	黃灰色 黃灰色	石・長(1~2)	◎	
268	碗	底径 6.7 残高 2.0	高台端部は丸い。	マメツ ④凹ココナデ ⑤ナデ	マメツ	乳黃灰色 乳灰色	石・長(1)	◎	
269	碗	底径 (6.8) 残高 2.1	高台端部は丸い。	ナデ ④凹ココナデ	ミガキ	乳黄色 黑色	石・長(1~2)	◎	
270	碗	底径 5.2 残高 7.0	高台端部は細く丸い。	ナデ	ミガキ (マメツが著しい)	乳灰色 暗灰黄色	石・長(1)	◎	
271	碗	底径 (6.6) 残高 1.6	高台端部は細く丸い。	ナデ ④凹ココナデ	ミガキ (マメツが著しい)	乳灰色 暗灰色	石・長(1)	◎	
272	塊	底径 (4.0) 残高 2.1	高台端部は「コ」の字状。	ナデ	マメツ	乳黃灰色 乳黃灰色	石・長(1)	◎	
273	坪皿	口径 (11.6) 残高 4.3	大井部がわずかにぼみ口縁部は直立気味 に内側し口部はぼくぼく。	④回転ヘラケズリ ⑤凹ココナデ	回転ココナデ	灰色・黑色 灰色	長(1~4) 密	◎	
274	坪皿	口径 (12.4) 残高 4.8	緩やかな曲面の天井部。 わずかに開口部 凹、口端部は内側する。	④回転ヘラケズリ ⑤凹ココナデ	回転ココナデ	灰色 灰色	長(1)	密	◎
275	坪身	口径 (12.8) 残高 4.8	半坦な浅い底部。 口縁部は内側し外反気味である。	④回転ココナデ ⑤凹ココナデ ナデ	回転ココナデ	灰色 灰色	右(1)	密	◎
276	坪身	口径 9.9 残高 4.6	粗く外上部に伸びる突起。 口縁部は内傾する。 底部外面にへり部分。	④回転ココナデ ⑤凹ココナデ ナデ	回転ココナデ	青灰色 青灰色	長(1~4)		
277	萬环	口径 (17.0) 残高 4.0	口縁部は内側し内反気味に立ち上がる。 端部はわずかに外反し尖り気味である。	④回転ココナデ ナデ	回転ココナデ ナデ	灰色 灰色	長(1)	南	◎
278	萬环	口径 3.2	口縁部は直立気味に外反する。 凸円文2条と波状文を施す。	回転ココナデ	回転ココナデ	青灰色 青灰色	長(1~3)	無	無
279	盤	口径 (17.0) 残高 5.4	口縁部は外反し端部は下に低張する。	④回転ココナデ カキメ(4本/cm)	回転ココナデ	灰白色 灰色	長(1)		
280	盤	口径 (20.8) 残高 5.9	口縁部は外反し端部は「コ」の字状である。	④ココナデ ハケ(5~6本/cm)	④ココナデ ハケ(5~6本/cm)	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2)	◎	
281	盤	残高 5.4	口縁部は外反し端部は「コ」の字状である。	④ココナデ ハケ(5~6本/cm)	マメツ	乳灰茶色 暗灰色	石・長(1~5)		
282	盤	口径 (19.0) 残高 4.0	貼付口縁部にキザミ、肩上部に沈線文を施す。	④ココナデ マメツ	④ココナデ マメツ	乳黃灰色 乳茶色	石・長(1~3)	◎	
283	盤	口径 2.1 残高 7.8	丸窓。	ハケ(7本/cm) ④ナデ	ハケ(7本/cm) ナデ	乳灰茶色 乳灰色	石・長(1~3)	無	

遺構と遺物

その他出土遺物観察表 土製品

(3)

番号	器種	法量(cm)	形態・基文	國		(外側) 色調 (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外 部	内 部				
284	壺	底径(6.6) 残高 4.8	平底。		マツク 心ナメ	マツク	茶色 乳白色	石・長(1~4) ○	
295	壺	底径(6.4) 残高 3.7	平底。		ナダ	ナダ	乳黃灰色 乳黃褐色	石・長(1~2) ○	
286	壺	底径(8.0) 残高 9.4	平底。		マツク	マツク	乳黃褐色 乳黃色	石・長(1~2) ○	
287	壺	底径(7.2) 残高 3.3	わざかに上げる。		ミザキ 器ナメ	ナダ	乳黃色 (一部黒色) 乳黃褐色	石・長(1~5) ○	
288	壺	底径(5.4) 残高 4.4	平底。		ナダ	ナダ	乳黃褐色 (一部黒色) 黃褐色	石・長(1~4) ○	
289	支脚	残高 11.5	角状突起が付く。		ナダ 指捺えき	ナダ	乳黃色 暗灰褐色	石・長(1~4) ○	黒斑
290	支脚	残高 11.7	角状突起が付く。		ナダ 指捺えき	④破り無 ⑤シラグ	乳黃褐色 乳黃色	石・長(1~4) ○	黒斑
291	支脚	残高 10.5	底部「U」字状。		ナダ	⑥ハク(10本/ cm) 破り無、ナダ	乳黃色 暗灰色	石・長(1~4) ○	黒斑
292	支脚	残高 6.6	角状の突起部。		ナダ		乳黃褐色	石・長(1~3) ○	
293	支脚	残高 7.3	角状の突起部。		ナダ		乳黃褐色	石・長(1~2) ○	
294	支脚	残高 6.2	角状の突起部。		ナダ		乳黃褐色	石・長(1~4) ○	
295	支脚	底径 6.3 器高 5.9	低い内部形状で1ヶ所突起部が付く形態。		ナダ		乳黃褐色 (底部黑色)	石・長(1~3) ○	
296	支脚	上部径 8.1 残高 4.1	台形状。底部を欠損している。		ナダ		乳黃褐色	石・長(1~3) ○	
297	支脚	底径 6.0 残高 5.4	台形状で突起部が付く形態。		ナダ		乳黃褐色	石・長(1~2) ○	
298	上縁	高さ 4.0 厚さ 3.1	有肩環状上縁		ナダ		乳黃褐色	石・長(1~2) ○	加藤 重吉 34-029 8
299	分離型 蓋	長さ 4.1 幅 6.15 厚さ 1.95	上半部欠損。形状は最初に近く蓋である。 衣鉢と内側側に沈線文が付す。表面は無光。		ナダ		乳黃白色	石・長(1~2) ○	

表26 その他出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	通				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
300	砥石	1/2	伊豆安山岩	11.2	5.7	2.9	251		
301	台石	ほぼ完形	砂岩	9.4	7.5	4.3	409		

表27 その他出土遺物観察表 装身具

番号	器種	残存	材質	色	通				備考	図版
					長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重さ(g)		
302	白玉	完形	緑色透明玉	緑色	1.0	4.3	1.4	0.033		
303	碧玉	ほぼ完形	緑色透明玉	緑色	30.0	4.0	2.7	0.827		

第III章 自然科学分析

株式会社 古環境研究所

船ヶ谷遺跡 2次調査出土木材の樹種同定

1. 試 料 (第3図)

試料は、船ヶ谷遺跡 2次調査 SR 1 で出土した木材 3 点である。試料の詳細を表28に示す。

2. 方 法

カミソリを用いて、新鮮な基本的三断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作製し、生物顕微鏡によって 60～600 倍で観察した。樹種同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

3. 結 果

結果を表28に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

表28 船ヶ谷遺跡 2次調査から出土した木材の樹種同定結果

試料	遺構、地点	備考	樹種 (和名/学名)
101	SR 1、E 9	板状	コナラ属アカガシ亜属 <i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>
102	SR 1、F 9	杭状	モミ属 <i>Abies</i>
103	SR 1、E 14	根	マツ属複維管束亜属 <i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>

a. モミ属 *Abies* マツ科 (第54図 1)

仮道管と放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は比較的緩やかである。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は、小型のスギ型で 1 分野に 1～4 個存在する。

放射柔細胞の壁が厚く、じゅず状末端壁を有する。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質より、モミ属に同定される。モミ属は日本に 5 種が自生し、その内ウラジロモミ、トドマツ、シラビソ、オオシラビソの 4 種は寒帯に分布し、モミは温帯を中心に分布する。常緑高木で高さ 45m、径 1.5m に達する。材は保存性が低く軟軟であるが、現在では多用される。

b. マツ属複維管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxylon* マツ科 (第54図 2)

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道を取り囲むエビセリウム細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は急で、垂直樹脂道が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は窓状である。放射仮道管の内壁には鋸歯状肥厚が存在する。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。以上の形質より、マツ属複維管束亜属に同定される。マツ属複維管束亜属にはクロマツとアカマツがあり、どちらも北海道南部、本州、四国、九州に分布し、常緑高木である。材は水湿によく耐え、広く用いられる。

c. コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 (第54図3)

横断面：中型から大型の道管が、1～数列幅で年輪界に関係なく放射方向に配列する放射孔材である。道管は単独で複合しない。

放射断面：道管の穿孔は單穿孔で、放射組織は同性で、ほとんどが平伏細胞であるが、ときおり上下の縁辺部に方形細胞が見られる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質によりコナラ属アカガシ亜属に同定される。コナラ属アカガシ亜属にはアカガシ、イチイガシ、アラカシ、シラカシなどがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ30m、径1.5m以上に達する。材は堅硬で強靭、弾力性強く耐湿性も高い。特に農耕具に用いられる。

4. 所 見

船ヶ谷遺跡2次調査のSR 1から出土した板状と杭状の材は、コナラ属アカガシ亜属、モミ属であり、根はマツ属複維管束亜属（アカマツ、クロマツ）であった。コナラ属アカガシ亜属は暖温帯の照葉樹林の主要構成要素であり、モミ属は温帯に広く分布する。マツ属複維管束亜属は二次林性の性格ももつが、多様に生育し、照葉樹林内にも分布する。

文献

- 佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞、木材の構造、文永堂出版、p.29-48。
佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞、木材の構造、文永堂出版、p.49-100。



第54図 船ヶ谷遺跡 2次調査出土木材の顕微鏡写真

第IV章 調査の成果と課題

船ヶ谷遺跡2次調査は、古墳時代から古代までの集落範囲や集落構造の解明を主目的として始めた。調査の結果、古墳時代の遺構や遺物を多数検出することになったが、古代の遺構や遺物は希薄であった。なお、弥生時代の遺物が少数ながら得られている。

古墳時代 土坑5基、溝6条、自然流路1条、性格不明遺構17基は古墳時代前期から後期までに時期比定されるものである。これらの遺構は切り合いや出土遺物から4つの段階に分かれた。第1段階は4世紀末～5世紀初頭のSK7、第2段階は5世紀前半のSR1、第3段階は5世紀前半のSR1に続くSK6とSK14、第4段階は5世紀末～6世紀前半のSK1・2、SD6～11、SX1～17となる。注目遺構はSK6・7とSR1である。

SK6とSK7は、出土状況から祭祀的な様相を示す遺構である。SK6では輦形上器を中心におき北側に塊形上器を配列した出土状況にあり、SK7では大型の高環形土器壺部を据え置いた状態にあった。松山平野では、高環形土器1点が遺構内から据え置いた状態で出土する例は、北久米淨蓮寺遺跡3次調査地の竪穴式住居址(SB9)でみられている。同遺跡SB9では柱穴内から完形の高環形土器が据え置いた状態で出土し、住居廃絶時の祭祀と認定されている。また、本調査のSK7も、出土状況からは祭祀的意味合いの強い土坑と考えられる。

SR1は幅55mを測る流路である。河床は四凸が激しく、埋土は粘質土で、砂の堆積ではなく、水が流れた状況ではない。したがって、沼のような水無川様であったと推察される。調査区北1.5kmの大瀬遺跡と調査区北200mの船ヶ谷遺跡においては、縄文時代晚期の湿地帯と水の流れていな川状遺構を検出しており、縄文時代晚期には広い範囲に沼状の湿地帯が広がっていたことも確認している。SR1は当地一帯に縄文時代晚期以降、古墳時代前期にいたっても湿地帯が広がっていたことを示したものである。

また、SR1からは5世紀前半の遺物が多数出土している。上器には完形品と大型破片が多く、磨滅が見られないため、流れきたものではなく、この場所に破棄したものであろう。加えて松山平野ではこの時期の土器が多量に出土した例は少なく、貴重であり、土器研究を行うための好資料である。

古代 SD1～4・12の5条は7世紀以降の溝である。5条の溝は灰色砂質土の埋土をもつため、水が流れていたことを示している。溝に伴う遺構は検出されていないため、溝の用途は明確ではない。

以上、調査結果についてまとめを行った。本調査では古墳時代の集落に関連する溝、土坑、自然流路を検出することはできたが、住居址は検出するにいたらなかった。これは、調査地が集落の周辺部に位置するからである。よって、住居址は調査地の西、丘陵山麓にあることが推測され、居住域の構造は今後の発掘調査によって解明されるであろう。

〔文献〕

- 阪本安光 1984 「船ヶ谷遺跡」愛媛県教育委員会
栗田茂敏 1989 「大瀬遺跡」『松山市埋蔵文化財調査年報Ⅱ』松山市教育委員会
武正良浩 1991 「大瀬遺跡2次調査地」『松山市文化財年報Ⅲ』松山市教育委員会、(財)松山市埋蔵文化財センター
橋本雄一 1994 「北久米淨蓮寺遺跡3次調査地」松山市教育委員会、(財)松山市埋蔵文化財センター

写 真 図 版

写真図版例言

1. 遺構の撮影は、調査担当及び大西朋子が行い、高所作業車を利用した。

使用機材：

カメラ トヨフィールド45A	レンズ スーパーアンギュロン 90mm他
アサヒペンタックス67	ペンタックス67 55mm他
ニコンニューFM2	ズームニッコール 28~85mm他
フィルム プラスXパン・ネオパンSS・エクタクロームEPP	

2. 遺物の撮影は、大西が行った。

使用機材：

カメラ トヨ/ビュ-45G	レンズ ジンマーS 240mm
ストロボ コメット/C A-32・C B2400 (パンク使用)	
スタンド他 トヨ/無影撮影台・ウェイトスタンド101	
フィルム プラスXパン	

3. 白黒写真的現像・焼き付けは、一部を除いて大西が行った。

使用機材：

引伸機 ラッキー-450MD	レンズ エル・ニッコール135mm
ラッキー-90MD	エル・ニッコール50mm
印画紙 インフォードマルチグレードIVRC	
フィルム現像剤 コダックD-76・HC110	

【参考】『埋文写真研究』Vol. 1~9

(大西 朋子)



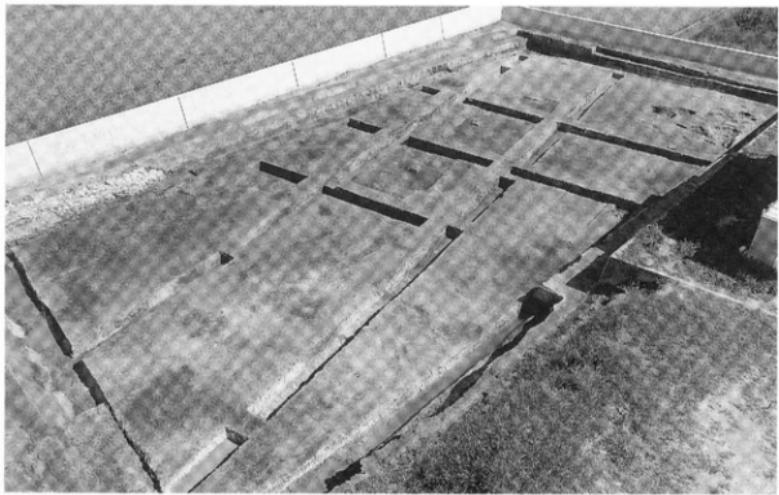
1. 調査前（西より）



2. 東区遺構遺存状況（東より）



1. 東区遺構遺存状況（南西より）



2. 東区遺構検出状況（南西より）



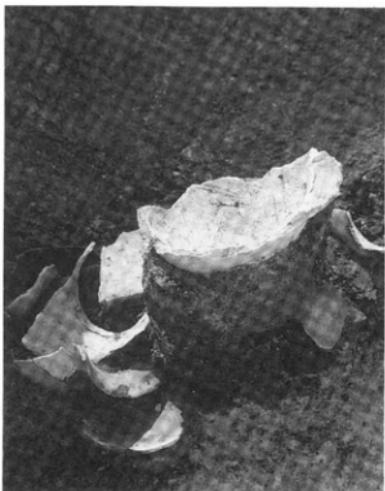
1. 西区遺構遺存状況（南より）



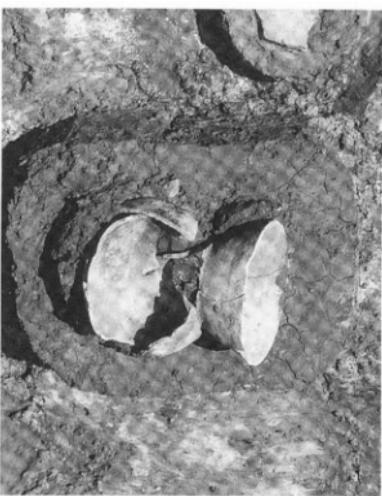
2. 西区遺構検出状況（南西より）



1. SR 1 遺物出土状況①第2地点（東より）



2. SR 1 遺物出土状況②第1地点（東より）



3. SR 1 遺物出土状況③第3地点（東より）



1. SR 1 遺物出土状況④（北東より）



2. SR 1 遺物出土状況⑤（南より）



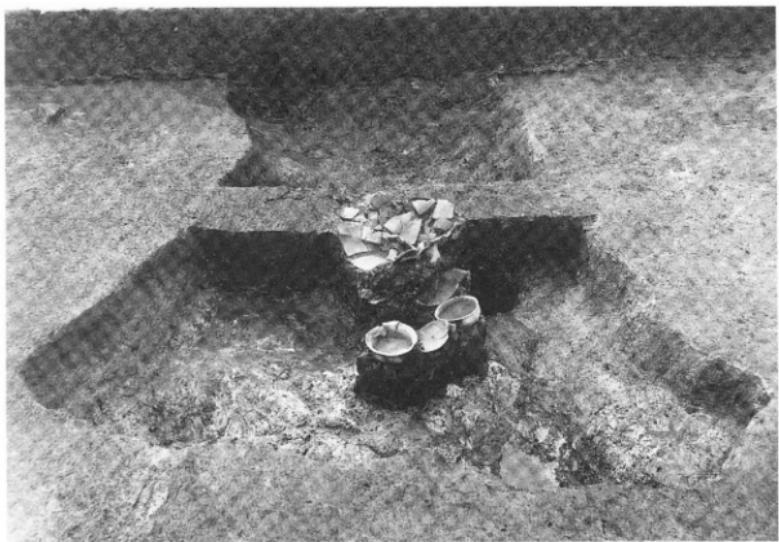
3. SR 1 遺物出土状況⑥（東より）



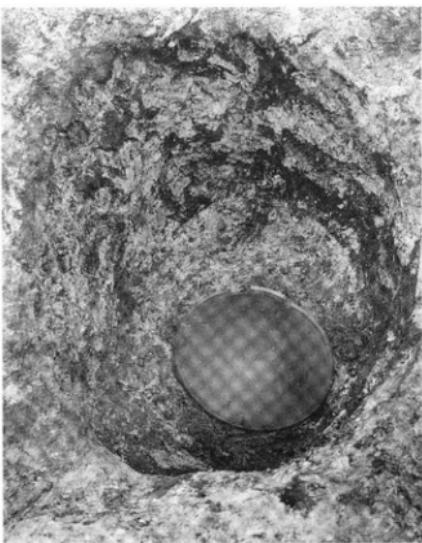
1. SD 1 + 6 + 11 完掘状況（西より）



2. SD 3 完掘状況（西より）



1. SK 6遺物出土状況（北より）



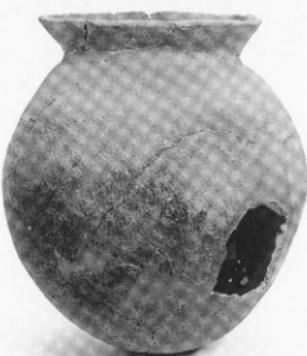
2. SK 7遺物出土状況（北より）



3. SK 14遺物出土状況（西より）



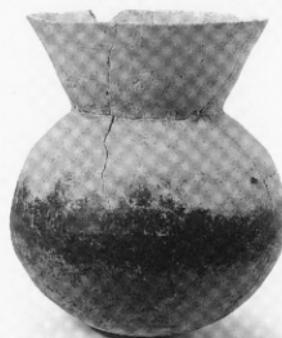
1



5

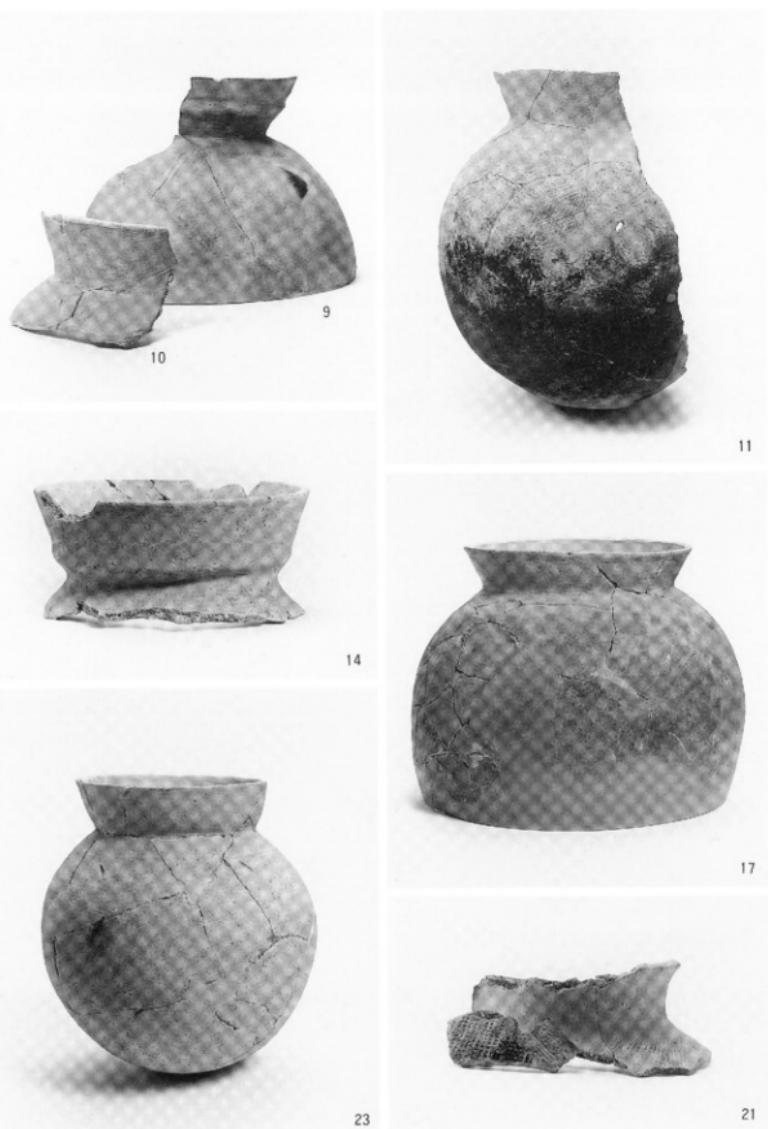


7



8

1. SR 1 出土遺物①



1. SR 1 出土遺物②



24



25



26



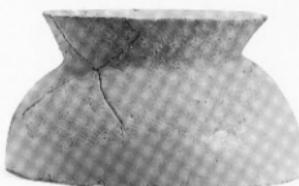
27



41



32



33

1. SR 1 出土遺物③



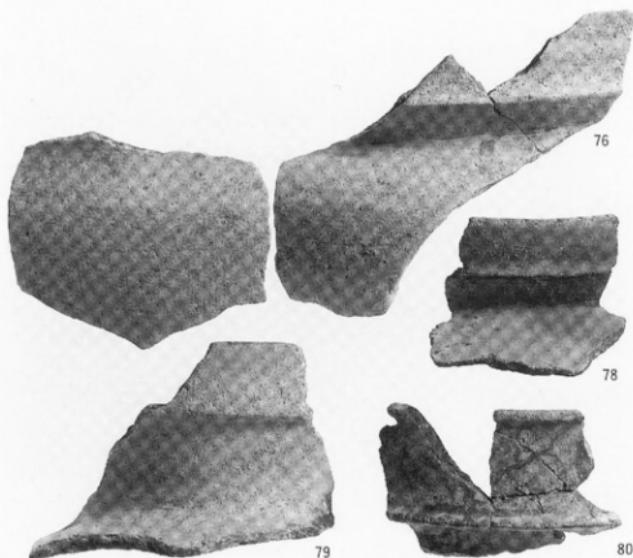
68



73



88



76



78

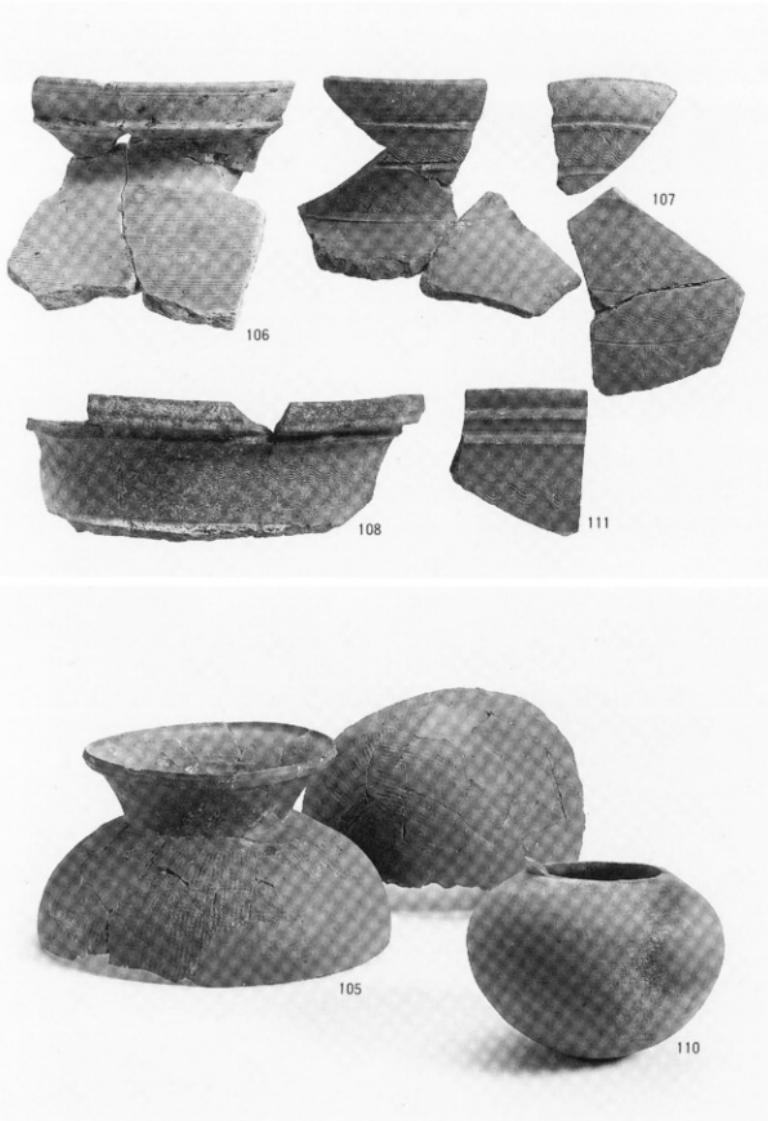


79

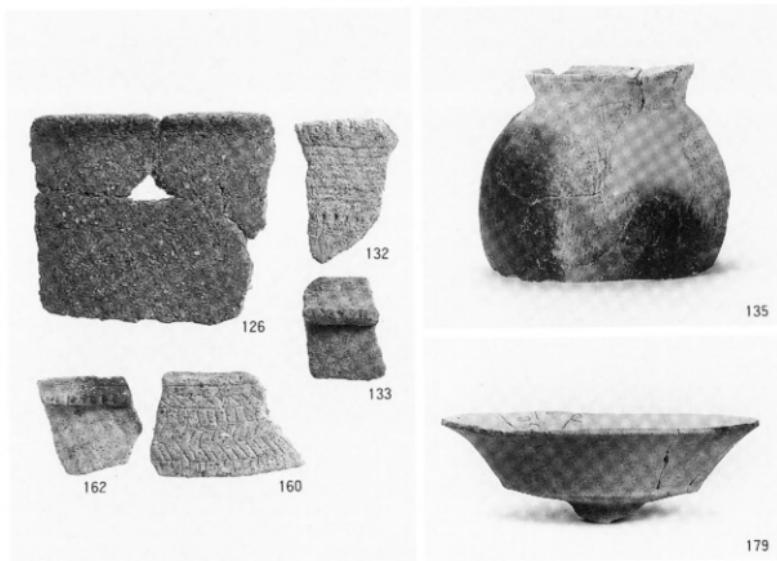


80

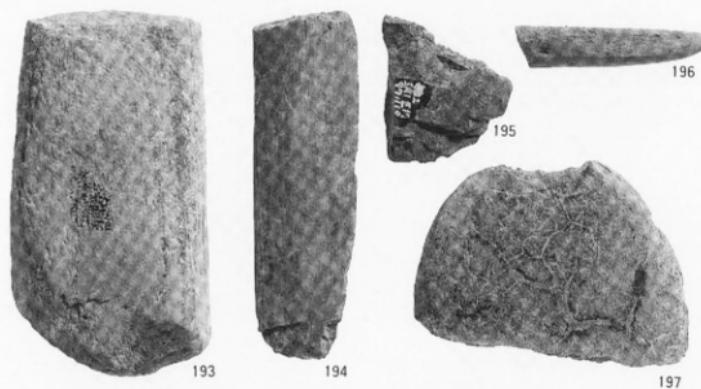
1. SR 1 出土遺物④



1. SR 1 出土遺物⑤



1. SR 1 出土遺物⑥



1. SR 1 出土遺物⑦



1. SK 6 出土遺物①



225



228



227



229



231



230

1. SK 6 出土遺物② (225)・SK 7 出土遺物 (227)・SK 14出土遺物 (228～231)

報告書抄録

ふりがな	ふながたにいせき						
書名	船ヶ谷遺跡						
副書名	2次調査						
巻次							
シリーズ名	松山市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第70集						
編著者名	高尾 和長・大西 刑子・鶴古環境研究所						
編集機関	松山市教育委員会・(株)松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター						
所在地	市教委:〒790-0003 松山市二番町6丁目6-1 TE L089-948 6605 埋文:〒791-8032 松山市南斎院町乙676 TE L089-923-6363						
発行年月日	西暦 1999年3月31日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
所収遺跡名	所 在 地	市町村・道路番号					
船ヶ谷 2次	松山市西長戸	38201	33° 51' 55"	132° 44' 26"	19970801~ 19980130	4,543	学校給食制理場建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
船ヶ谷 2次	集落	古墳	自然流路、溝、土坑	土師器、須恵器 弥生土器	祭祀遺構		

松山市文化財調査報告書 第70集

船ヶ谷遺跡 2次調査

平成11年3月31日 発行

編集
発行

松山市教育委員会
〒790-0003 松山市三番町6丁目6-1
TEL (089) 948-6605

財団法人 松山市生涯学習振興財團
埋蔵文化財センター
〒791-8032 松山市南斎院町乙67番地6
TEL (089) 923-6363

印刷

セキ株式会社
〒790-8686 松山市湊町7丁目7-1
TEL (089) 945-0111